

平成 29 年度 病 院 年 報



三浦市立病院

三 浦 市 立 病 院 憲 章

基 本 理 念

三浦市立病院とその職員は、健康啓発、疾病の予防と治療、そして社会復帰に至るまでの医療全般にわたり、当院の持ち得る資源を最大限に活用して市民皆様に貢献します。

基 本 方 針

1 患者様中心の医療の実践

患者様の声を尊重し、相互の信頼関係に基づいた医療サービスを提供するとともに、患者様の医療に関する権利を確保します。

2 救急医療への対応

地域中核病院として本市救急医療体制の中心的役割を担います。

3 安全で安心な医療の推進

安全かつ安心して医療を受けられる環境を整備します。

4 医療技術の向上

常に適切な医療技術を提供します。

5 人材の育成・確保

病院職員としての倫理を遵守し、患者様の生命を尊重した安全で安心の医療を提供できる職員づくりに取り組みます。

6 地域連携の強化

地域医療機関と連携し、地域医療体制を強化します。

7 療養環境の向上

快適な入院生活が送れるよう、医療行為はもちろんその他の部分も含めてきめ細やかな対応を図ります。

8 経営改善と安定経営

公共性を確保するとともに、合理的かつ効率的な病院経営に努め、健全で自立した経営基盤を確保します。



はじめに

三浦市立病院総病院長 小澤幸弘

バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）に翻弄され経常収支が赤字となってしまった前年を受けて、黒字決算を期した一年であった。5年に一度開催担当が回ってくる神奈川県国保診療施設部会研修会では、当番病院として「改めて、院内感染対策の現状を問う」をメインテーマに掲げさせてもらった。VREアウトブレイクの経験を総括することにより当院の院内感染対策のレベルがステップアップしたものと思われる。このように安全で安心な療養環境の確保とともに持続可能な安定した経営基盤の確立を目指して、高齢化率37.0%（平成29年1月1日現在）の三浦市に適合した三浦市立病院新改革プランを策定した。まさに「三浦ならではの」地域医療を確立し、地域包括ケアシステムの中核となることを目指したものである。

また、今年から市内在住の中学生に対してヘリコバクター・ピロリ検査が開始された。受診者516名（受診率73%）のうち陽性者わずか5名（1%）にすぎなかった。これは三浦市における胃がんの予防につながるものと考えている。今年で3回目となる「みうら市民健康大学オープンキャンパス」も介護予防として市内多職種と連携して継続されている。さまざまな予防医学の分野にも着実に病院が関わりを持つことができている。

しかし、医療従事者の確保は思うように進んでいない。医師も足りないままであるが、ここ数年続いている自治医科大学の学生の夏季研修に今年から東海大学の地域枠の学生が参加してくれたことは嬉しいことである。残念ながら今年も赤字決算となってしまったが、医師確保は最重要課題である。底となる年にしたい1年であった。

最後に12月25日、昭和63年8月1日から勤めていた放射線科技師長久保隆を心筋梗塞で失ったことは痛恨の極みである。安らかに眠ってほしい。

三浦市立病院年報（平成 29 年度） 目次

三浦市立病院憲章

はじめに

I 病院の概況	- 1 -
1 位置	- 1 -
2 沿革	- 3 -
3 施設の概要	- 9 -
(1) 土地・建物	- 9 -
(2) 設備	- 9 -
4 配置図	- 10 -
5 現況	- 13 -
6 施設基準	- 14 -
(1) 基本診療料	- 14 -
(2) 特掲診療料	- 14 -
7 組織及び職員配置状況	- 16 -
(1) 組織図	- 16 -
(2) 職員の状況	- 17 -
II 各科の活動状況	- 18 -
1 診療部	- 18 -
(1) 医局	- 18 -
(2) 内科	- 19 -
(3) 神経内科	- 21 -
(4) 外科	- 22 -
(5) 整形外科	- 26 -
(6) 産婦人科	- 28 -
(7) 眼科	- 30 -
(8) 小児科	- 32 -
(9) 耳鼻いんこう科	- 33 -
(10) 麻酔科	- 34 -
(11) 脳神経外科	- 35 -
(12) 泌尿器科	- 36 -
(13) 皮膚科	- 37 -
(14) 研修医	- 38 -
2 診療支援部	- 39 -

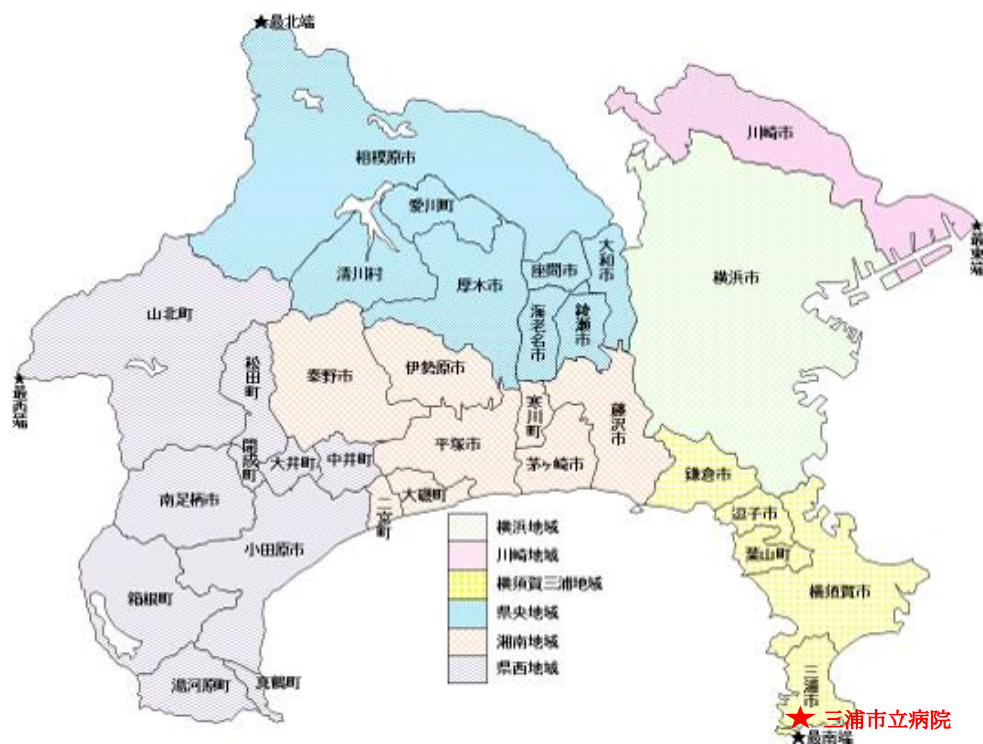
(1) 薬剤科.....	- 39 -
(2) リハビリテーション科	- 42 -
(3) 放射線科	- 46 -
(4) 臨床検査科.....	- 49 -
(5) 地域医療科.....	- 51 -
(6) 医療安全管理室	- 55 -
3 看護部	- 67 -
(1) 看護部.....	- 67 -
(2) 2階病棟	- 70 -
(3) 3階病棟	- 73 -
(4) 4階病棟	- 76 -
(5) 手術室.....	- 79 -
(6) 外来	- 81 -
(7) 看護教育室.....	- 84 -
4 事務局	- 95 -
(1) 総務課.....	- 95 -
(2) 医事課.....	- 98 -
(3) 栄養課.....	- 100 -
III 委員会の状況	- 102 -
1 三浦市立病院リスクマネジメント委員会	- 102 -
2 三浦市立病院感染対策委員会（I C C）	- 107 -
3 三浦市立病院褥瘡対策委員会.....	- 121 -
4 三浦市立病院接遇向上委員会.....	- 126 -
5 三浦市立病院N S T委員会	- 131 -
6 三浦市立病院C S向上委員会.....	- 135 -
7 三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会.....	- 141 -
8 三浦市立病院薬事委員会	- 146 -
9 三浦市立病院情報処理委員会.....	- 148 -
IV 経営状況	- 152 -
1 決算概要	- 152 -
(1) 経常収益比較.....	- 152 -
(2) 損益計算書.....	- 153 -
(3) 貸借対照表.....	- 154 -
2 三浦市立病院改革プラン及び実施状況	- 156 -
3 財務分析	- 158 -
V 各種統計資料	- 159 -

1 入院患者数実績	- 159 -
2 外来患者数実績	- 160 -
3 救急患者数実績	- 161 -
VI スタッフ一覧	- 163 -
VII 編集後記	- 166 -

※表紙の写真は平成 30 年 11 月 13 日から 15 日に世界糖尿病デーのシンボルカラーであるブルーにライトアップした時の写真です。

I 病院の概況

1 位置



※神奈川県ホームページ及びわが街が！より画像転載

本市は、首都 60km 圏内にあたる三浦半島の最南端に位置し、三方を海に囲まれて気候温暖、農耕に適している。海岸線は 42.9km に及び、漁業のみならず、海洋レクリエーションなども盛んである。城ヶ島を天然護岸とし、昔から遠洋、近海及び沿岸漁業の基地として発展した全国的に有名な三崎漁港を有している。

市域面積	東西	南北	東経	北緯
32.16 k m ²	6.8 k m	9.4 k m	139° 37' 24"	35° 08' 27"

2 沿革

昭和26年（1951年）	三崎町町議会にて、三崎町立国民健康保険病院の開設を議する
昭和26年（1951年）12月	初代院長 継 茂 就任
昭和27年（1952年）1月	旧三崎町立伝染病院「南岬院」の建物を診療管理棟に増改築、病棟（30床）新築工事着工
昭和27年（1952年）6月	『三崎町国民健康保険直営病院』開設 内科・外科・産婦人科・眼科4科
昭和28年（1953年）2月	第2病棟（28床）看護婦宿舎（15人）医師住宅（5戸）新築工事着工
昭和30年（1955年）1月	『三浦市国民健康保険直営病院』と改称
昭和32年（1957年）2月	第3病棟（35床）伝染病棟（27床）医師住宅（3戸）新築第1・第2病棟、看護婦宿舎増改築工事着工
昭和32年（1957年）10月	小児科新設 5科
昭和38年（1963年）5月	基準寝具制度の実施
昭和38年（1963年）9月	整形外科新設 6科
昭和39年（1964年）4月	『国民健康保険三浦市立病院』と改称
昭和39年（1964年）10月	診療管理棟（鉄筋コンクリート地下1階、地上3階）新築工事着工
昭和40年（1965年）8月	診療管理棟完成（完成後の病床数 一般65床、結核18床、伝染病27床、計110床）
昭和41年（1966年）6月	国民健康保険三浦市立病院運営委員会設置
昭和42年（1967年）4月	『三浦市立病院』と改称 地方公営企業法の財務規程を適用
昭和42年（1967年）9月1日	未熟児指定養育医療機関となる
昭和43年（1968年）10月	第2次整備事業として、病棟（地下1階、地上3階150床）伝染病隔離病舎（27床）看護婦宿舎（32人）医師住宅3棟（10戸）新築工事着工
昭和44年（1969年）10月	病棟・伝染病隔離病舎完成（完成後の病床数 一般136床、結核14床、伝染病27床、計177床）
昭和45年（1970年）3月	看護婦宿舎、医師住宅完成
昭和47年（1972年）3月	初代院長 継 茂 退職
昭和47年（1972年）4月	初代院長 継 茂 名誉院長に就任 2代院長 丸山 理一 就任

昭和47年（1972年） 6 月	病院開設 20 周年記念行事実施
昭和49年（1972年）	石油ショックによる人件費・材料費高騰、医療費改定の幅が小さく、赤字増大する
昭和50年（1975年） 6 月20日	三浦市救急医療体制「三浦方式」が発足し、当番制実施
昭和54年（1979年）	病院事業経営健全化開始（5 か年継続事業） 不良債務 3 億 7,150 万円の解消をはかる
昭和55年（1980年） 7 月29日	救急指定病院 認可される
昭和55年（1980年）12月 1 日	基準看護特 2 類 承認される（保険第 3062 号）
昭和56年（1981年） 4 月 1 日	耳鼻いんこう科新設 7 科
昭和56年（1981年） 5 月 1 日	総合病院の認可（神奈川県指令医整第 70 号）
昭和57年（1982年） 4 月 1 日	三浦半島広域病院群輪番制開始
昭和57年（1982年） 6 月	開設 30 周年となる
昭和59年（1984年） 3 月	病院事業経営健全化終了（5 か年継続事業）
昭和59年（1984年） 9 月 3 日	病院売店オープン
昭和60年（1985年） 9 月	全身用 C. T. 設置される
昭和62年（1987年） 3 月31日	名誉院長 継 茂 退任
昭和62年（1987年） 7 月 1 日	三浦市立病院運営審議会設置
昭和62年（1987年）10月19日	三浦市立病院運営審議会へ諮問「三浦市立病院の将来のあり方について」
昭和63年（1988年） 3 月31日	2 代院長 丸山 理一 退任
昭和63年（1988年） 4 月 1 日	3 代院長 五十嵐 捷介 就任
昭和63年（1988年） 7 月	病棟に冷暖房機器整備される。
平成元年（1989年） 3 月29日	三浦市立病院運営審議会より「三浦市立病院の将来のあり方について」中間のまとめが報告される
平成元年（1989年） 4 月 1 日	坂本理事就任
平成元年（1989年）11月17日	病院の経営診断を実施し、経営診断等結果報告書及び経営改善事業計画策定に関する報告書が完了
平成 2 年（1990年） 1 月 8 日	院内に病院改善推進委員会を設置
平成 2 年（1990年） 2 月23日	三浦市立病院運営審議会より「三浦市立病院の将来のあり方について」答申される
平成 2 年（1990年） 4 月 1 日	二次診療までを主体に救急 24 時間 365 日応需体制を開始する
平成 2 年（1990年） 5 月25日	三浦市立病院運営審議会へ再諮問 「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」
平成 3 年（1991年） 8 月19日	三浦市立病院運営審議会より、「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」中間のまとめが報告される

平成4年（1992年）2月29日	病院の再整備計画を実施し、三浦市立病院再整備計画策定業務に関する報告書が完了
平成4年（1992年）3月31日	看護婦宿舎1棟（6戸）完成
平成5年（1993年）3月31日	三浦市立病院運営審議会より、「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」答申される
平成5年（1993年）12月2日	三浦市立病院運営審議会へ諮問 1 新病院建設までの間における、当面の現施設のリニューアル及び効率的な病院運営について意見を伺う 2 新病院建設に向けてのプロセスについて意見を伺う（保健・福祉との連携、新病院建設場所の選定も含む） 3 日常の病院経営・病院運営について審議会より常時建議して頂く
平成7年（1995年）3月10日	付属棟完成
平成7年（1995年）3月23日	坂本理事退職
平成7年（1995年）7月21日	小児科外来を診療管理棟3階旧会議室に移転
平成7年（1995年）8月25日	診療管理棟2階旧小児科に内科救急診療室及び内視鏡室新設
平成7年（1995年）11月29日	三浦市立病院運営審議会より、平成5年12月2日付諮問に対する中間のまとめが報告される
平成8年（1996年）3月6日	病院敷地内に三浦藤沢信用金庫現金自動設備及び附帯施設の整備
平成8年（1996年）4月1日	神経内科新設 8科
平成8年（1996年）12月2日	病院へ京浜急行バスの運行
平成9年（1997年）12月5日	C T更新
平成9年（1997年）3月31日	3代院長 五十嵐 捷介 退任
平成9年（1997年）4月1日	4代院長 佐藤 實 就任
平成9年（1997年）4月	整形外科・午後予約診療開始
平成9年（1997年）6月	内科外来・膠原病の午後外来開始
平成9年（1997年）7月	救急24時間365日応需体制の一部委託化（預り金制度廃止）
平成9年（1997年）9月	薬局薬袋氏名のラベル化導入
平成9年（1997年）12月	会計処理のシステム化（ポスシステム導入）
平成10年（1998年）2月10日	三浦市立病院運営審議会より、「新病院建設に向けてのプロセスについて意見を伺う」答申される
平成10年（1998年）3月	適時適温給食の開始
平成10年（1998年）3月31日	4代院長 佐藤 實 退任

平成10年（1998年）4月1日	5代院長 大塚 尚之 就任
平成10年（1998年）6月1日	新看護2.5：1（A）看補6：1採用
平成10年（1998年）8月14日	耐震診断調査委託実施
平成10年（1998年）10月23日	病院建替えに係る基本調査委託実施
平成11年（1999年）2月1日	新看護2：1（A）採用
平成11年（1999年）6月	消化器、肝臓病の午後外来診療開始
平成11年（1999年）8月	ペースメーカー移植術
平成11年（1999年）12月	内科外来予約診療開始
平成12年（2000年）3月	三浦市立病院基本計画策定
平成12年（2000年）4月	医療相談室設置
平成12年（2000年）5月	検体・検査管理加算（1）認可（検1）第86号
平成12年（2000年）7月	S P D（診療材料）システム導入
平成12年（2000年）11月	インフルエンザ予防接種出張接種（施設）
平成13年（2001年）3月	院外処方箋発行へ移行（全科）
平成13年（2001年）5月	内科に第5診療室を設置
平成14年（2002年）3月	第1病棟休止
平成14年（2002年）5月	ウィン号マイクロ無料送迎バスの運行開始
平成14年（2002年）7月	人間ドック無料送迎サービスの運行開始
平成14年（2002年）9月	新病院（地下1階、地上4階）新築工事着工
平成15年（2003年）3月31日	5代院長 大塚 尚之 退任
平成15年（2003年）4月1日	6代院長 五十嵐 俊久 就任
平成15年（2003年）5月	小児救急試行開始
平成16年（2004年）3月17日	新病院開院（免震構造、病床数136床） オーダーリング・システム導入
平成16年（2004年）4月1日	リハビリテーション科新設 9科
平成16年（2004年）8月16日	運営懇話会 発足
平成16年（2004年）9月30日	新病院完成（地上4階地下1階、免震構造、病床数136床、駐車場 約170台分）
平成17年（2005年）2月22日	ドクターヘリ・シミュレーション実施
平成17年（2005年）4月1日	麻酔科新設 10科
平成17年（2005年）8月25日	経営懇話会 発足
平成19年（2007年）3月31日	6代院長 五十嵐 俊久 退任
平成19年（2007年）4月1日	7代院長 小澤 幸弘 就任
平成20年（2008年）4月1日	病院給食業務の民間委託開始
平成20年（2008年）10月1日	脳神経外科新設 11科
平成21年（2009年）3月	三浦市立病院改革プラン策定

平成21年（2009年） 3月1日	SPD システム業務委託開始
平成22年（2010年） 4月1日	地方公営企業法全部適用 総病院長（病院事業管理者） 小澤 幸弘 就任
平成22年（2010年） 4月	地域医療科設置
平成22年（2010年） 5月	訪問診療開始
平成23年（2011年） 7月	皮膚科新設 12 科
平成23年（2011年） 7月	泌尿器科新設 13 科
平成24年（2012年） 1月	来院者駐車場用地の貸付開始
平成25年（2013年） 9月	介護保険指定居宅サービス事業者及び指定介護予防サービス事業者の指定訪問リハビリテーション開始
平成25年（2013年） 10月	入院患者対象土曜リハビリテーション開始
平成25年（2013年） 10月1日	16 列型マルチスライスCTへ更新
平成26年（2014年） 1月13日	電子カルテシステム導入
平成26年（2014年） 3月15日	「在宅看取りを考える」シンポジウム開催
平成26年（2014年） 4月1日	医療安全管理室設置
平成26年（2014年） 6月22日	レスパイト健診開始
平成26年（2014年） 9月1日	地域包括ケア病棟 24 床開始
平成27年（2015年） 1月1日	横須賀共済病院、衣笠病院、聖ヨゼフ及び三浦市立病院による四病院連携会議発足
平成27年（2015年） 3月7日	「在宅療養を考える集い」シンポジウム開催
平成27年（2015年） 3月27日	タブレット端末により、院外にあって電子カルテシステムにアクセスする訪問診療等電子カルテ参照・記入システム導入
平成27年（2015年） 10月4日	三浦市民健康大学を 12 月まで開催
平成28年（2016年） 3月5日	「在宅療養を考えるつどい～地域で支える在宅療養を考える～」シンポジウム開催
平成28年（2016年） 3月10日	地域包括医療・ケア認定施設の認定
平成28年（2016年） 3月20日	三浦市民健康大学オープンキャンパス開催
平成28年（2016年） 3月27日	奈良県西和医療センターとの病院相互連携に関する包括協定締結
平成28年（2016年） 3月31日	デジタルラジオグラフィーへ更新
平成28年（2016年） 3月31日	総務省が作成する「公立病院経営改革事例集」に当院の事例が掲載
平成28年（2016年） 4月1日	地域包括ケア病棟 28 床へ増床
平成28年（2016年） 7月1日	三浦市派遣型救急ワークステーション開始
平成28年（2016年） 9月30日	災害資機材倉庫設置

平成28年（2016年）10月	小児を対象とした外来リハビリテーション開始
平成28年（2016年）10月23日	三浦市民健康大学オープンキャンパス開催
平成28年（2016年）11月 1 日	「みうらホームケアネット」供用開始
平成29年（2017年） 4 月	三浦市立病院運営懇話会発足
平成29年（2017年） 6 月 1 日	健康未来予想図～ブライダルチェック～開始
平成29年（2017年）10月	三浦市立病院改革プラン策定

3 施設の概要

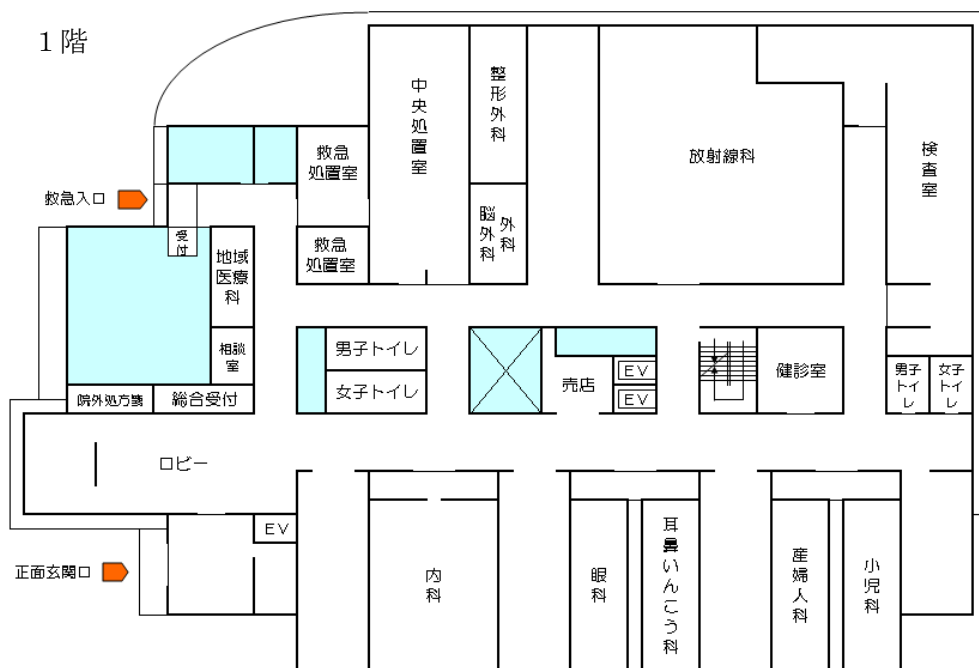
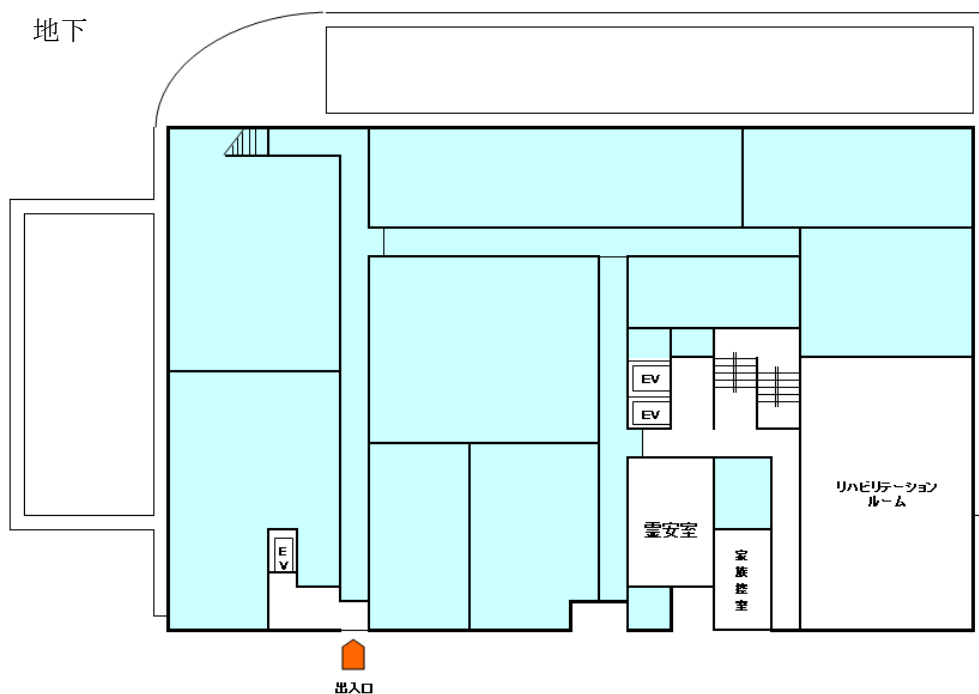
(1) 土地・建物

＜土地＞	13,756.53 m ²
＜建物＞	3,080.96 m ²
病院（地下1階、地上4階、免震構造）	2,870.32 m ²
キャノピー（1）	92.89 m ²
キャノピー（2）	12.98 m ²
ブロー室（地上1階）	15.91 m ²
マニホールド室（地上1階、空気機械室）	18.80 m ²
付属棟（地上2階、作業室、図書室）	70.06 m ²

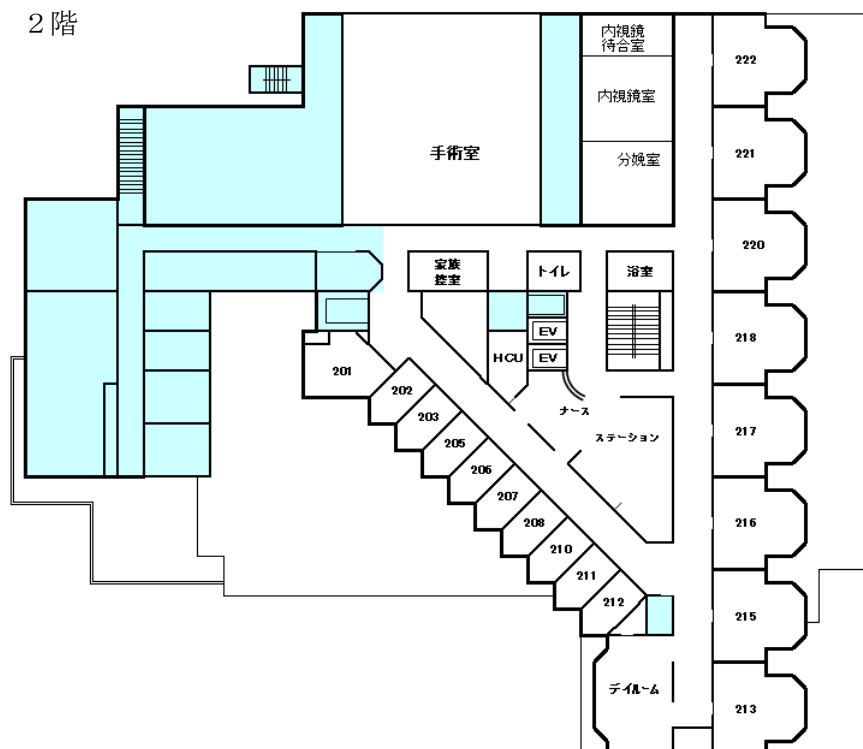
(2) 設備

＜電気設備＞	845KW 受電、負荷容量 2,000KVA
＜蓄電池設備＞	10 分間蓄電池
＜無停電設備＞	瞬断バックアップ方式（手術室、HCU、乳児室）
＜弱電設備＞	インターホン、ナースコール、ITV 設備、TV 共聴設備電気時計設備、院内 LAN
＜電話設備＞	蓄積プログラム方式、一般内線 162 台、院内 PHS72 台、ナースコール対応 PHS12 台
＜自家用発電機＞	自動始動発電機、開放保護形自己通風三相交流発電機 500 KVA カスタービーン発動機、単純開放サイクル軸式、自己空冷式、灯油、燃料、燃料オイルタンク 30,000ℓ
＜消火設備＞	消火器設備 10 型 40 箇所、20 型 6 箇所、スプリンクラー設備、特殊消火設備電気室、発電機室、ボイラー室
＜医療ガス設備＞	酸素、笑気、窒素、圧縮空気、吸引、余剰ガス排出
＜昇降機設備＞	5 基（寝台用 3 基、乗用 1 基、配膳・荷物用 1 基）
＜給水設備＞	上水入水槽 55 m ³ 、雑用水入水槽 144 m ³ 、緊急用浄水ろ過装置
＜自動火災報知設備＞	自動火災報知設備、防火扉閉鎖設備、ガス漏れ警報設備
＜空調設備＞	冷暖房、水熱源ヒートポンプシステム（補助熱源貫流ボイラー） ファンコイルユニット 188 基、パッケージ方式 55 基
＜消毒設備＞	オートクレーブ 2 基、簡易滅菌装置 3 基
＜給排水衛生設備＞	給水設備、給湯設備、浄化槽設備
＜免震設備＞	南関東地震対応、国土交通大臣認定 鋼材型ダンパー 3 基・鉛ダンパー 6 基・オイルダンパー 12 基

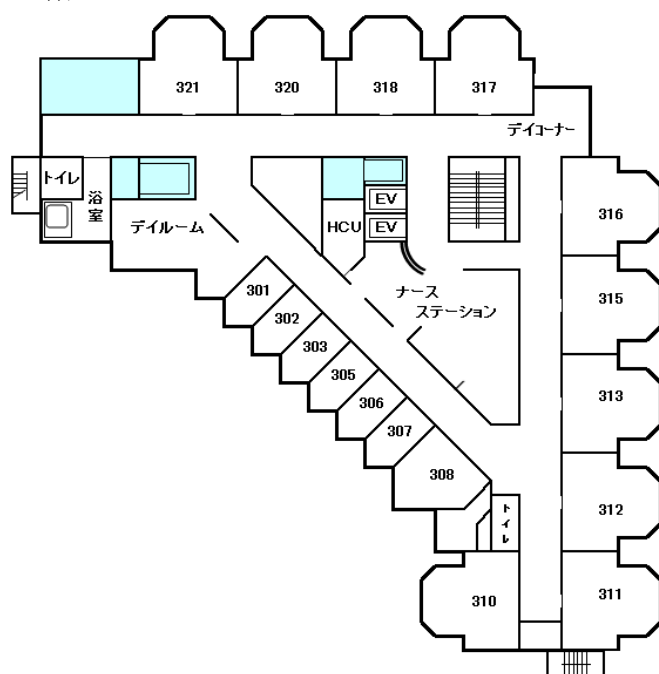
4 配置図

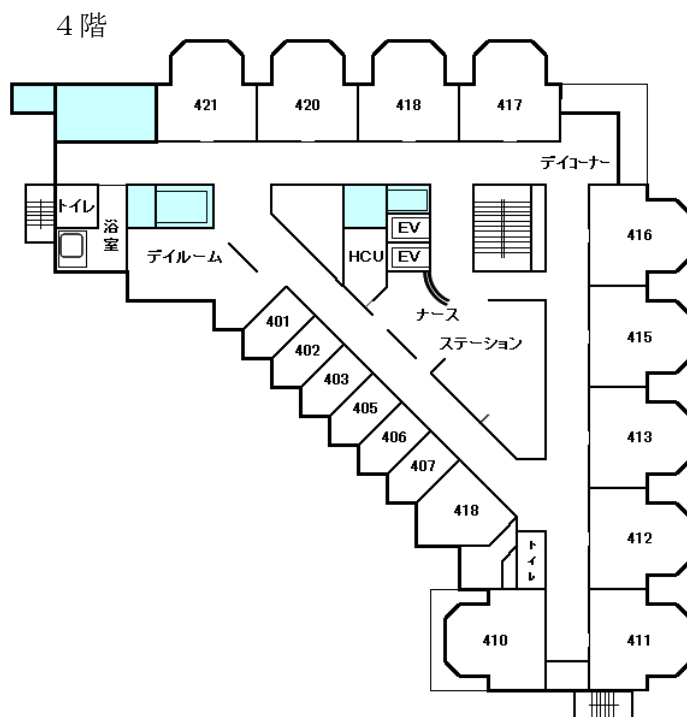


2階



3階





5 現況

施設名	三浦市立病院
開設者	三浦市長 吉田 英男
管理者	総病院長 小澤 幸弘
所在地	神奈川県三浦市岬陽町4番33号
開設年月日	昭和27年6月4日
診療科目	13科（内科、神経内科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、小児科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科）
病床数	一般病床 136 床
地方公営企業法全部適用	平成 22 年 4 月 1 日
敷地面積	13,756.53 m ²
建物面積	建築面積 3,080.96 m ² 延べ床面積 9,392.75 m ² （附属棟 136.08 m ² 含む）
指定等	保険医療機関、生活保護法指定医療機関、結核予防法指定、労災指定、船員保険法指定、救急告示病院、身体障害者福祉法指定医、母体保護法指定医等

6 施設基準

平成 30 年 3 月 31 日現在

(1) 基本診療料

一般病棟入院基本料 (10 対 1)
急性期看護補助体制加算 (50 対 1)
一般病棟看護必要度評価加算 2
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
診療録管理体制加算 2
医師事務作業補助体制加算 2 (50 対 1)
療養環境加算
退院支援加算 1
地域包括ケア病棟入院医療管理料 I
データ提出加算 1
感染防止対策加算 (1)
感染防止対策地域連携加算
患者サポート体制充実加算
医療安全対策加算 1
地域加算 6 級地
病棟薬剤業務実施加算
ADL 維持向上等体制加算
認知症ケア加算 2

(2) 特掲診療料

がん性疼痛緩和指導管理料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出 (簡易ジェノアタイプ判定)
検体検査管理体制加算 (II)
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)
運動器リハビリテーション料 (I)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
輸血管理料 2
輸血適正使用加算

在宅療養支援病院（「第 14 の 2」の 1 の（1）に規定する在宅療養支援病院〔機能強化〕）

在宅時医学総合管理料及び特定施設入居時等医学総合管理料

在宅がん医療総合診療料

病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に対する体制

遠隔画像診断

糖尿病合併症管理料

がん患者指導管理料 1

外来リハビリテーション診療料

夜間休日救急搬送医学管理料

喘息治療管理料

糖尿病透析予防指導管理料

院内トリアージ実施料

C T 撮影及びMR I 撮影

人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

在宅患者訪問看護・指導料

在宅緩和ケア充実加算

同一建物居住者訪問看護・指導料

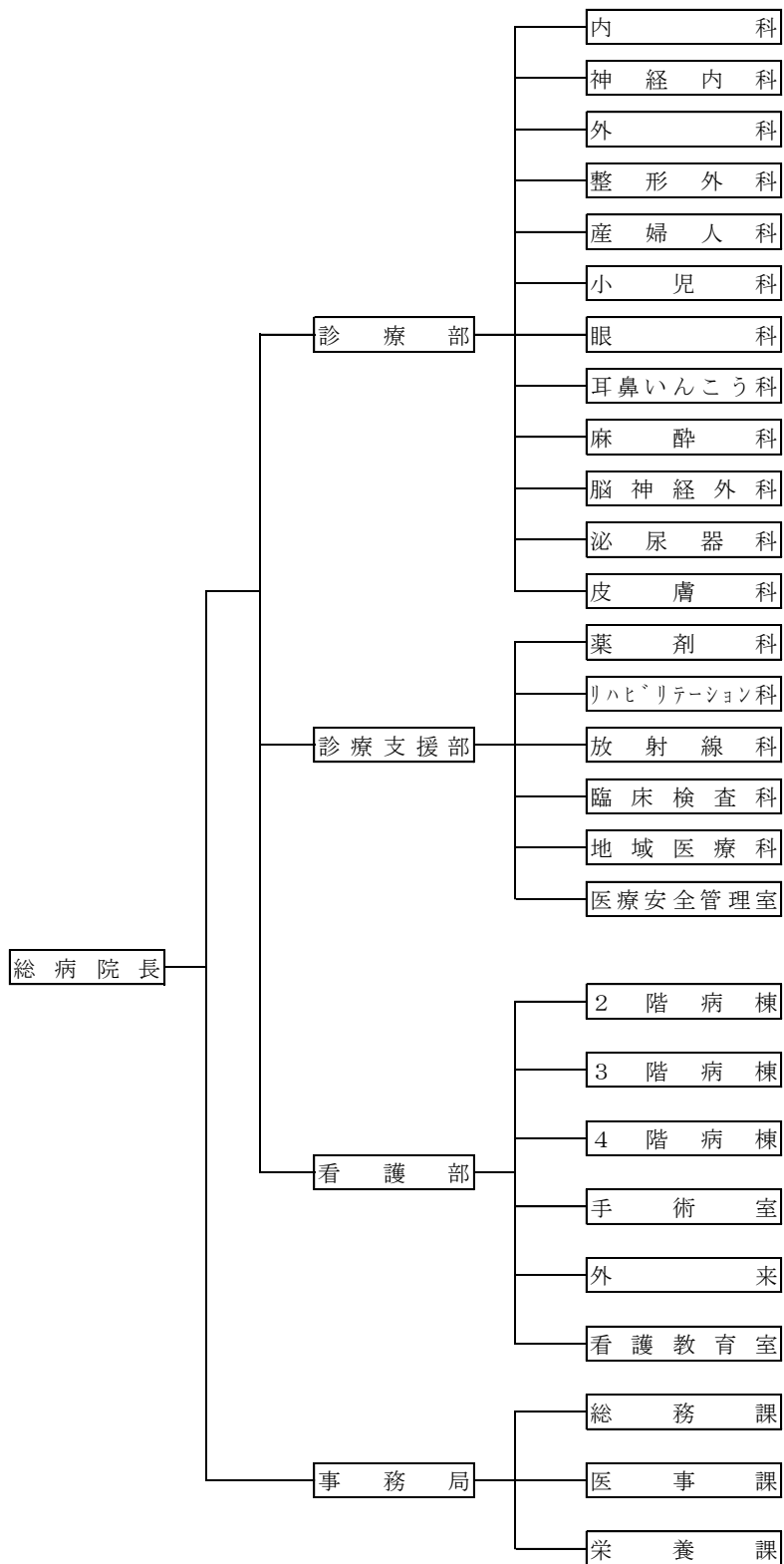
胃瘻造設術

造血器腫瘍遺伝子検査

廃用症候群リハビリテーション料（Ⅱ）

7 組織及び職員配置状況

(1) 組織図



(2) 職員の状況

(単位：人)

職 名	平成 28 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数	平成 29 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数	平成 30 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数
管 理 者	1	1	1
医 師	13	14	14
看 護 師 准 看 護 師	(1) 79	(1) 78	(0) 79
医 療 技 術 員	29	30	29
事 務 員	9	9	9
そ の 他	(1) 0	(0) 0	(0) 0
計	(1) 131	(1) 132	(0) 132

() は、外書きで、再任用短時間勤務職員

Ⅱ 各科の活動状況

1 診療部

(1) 医局



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

平成 29 年度の医局内の人事は外科のみで、人員の増減は特になかった。

(2) 業務実績

区分	H25	H26	H27	H28	H29
内科	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真
	来田 亮二	来田 亮二※	兒玉 康史	兒玉 康史	兒玉 康史
	兒玉 康史	兒玉 康史	堀内 俊治	堀内 俊治	堀内 俊治
	堀内 俊治	堀内 俊治	森 琢磨	森 琢磨	森 琢磨
	森 琢磨	森 琢磨			
(地域医療科)	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末
				林 路子	林 路子
外科	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一
	和田 博雄	佐々木一喜	和田 博雄	和田 博雄	和田 博雄
	青山 徹	和田 博雄	川邊 泰一	川邊 泰一	渥美 陽介
整形外科	内川 健	内川 健	内川 健	内川 健	内川 健
	石田 良太	石田 良太	石田 良太	石田 良太	石田 良太
小児科	五味渕一三	五味渕一三	五味渕一三	五味渕一三	五味渕一三
眼科	望月 至	望月 至	望月 至	望月 至	望月 至
産婦人科	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰
麻酔科	欠	欠	欠	欠	欠

(2) 内科



医長 齊藤 真

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア 外来診療

午前是新患及び予約のない再診外来と予約一般外来を行っている。午後の外来は主に専門医による専門外来を行っている。平成 29 年度は引き続き循環器外来、呼吸器外来、糖尿病外来及び健診結果外来を設け診療にあたった。

イ 入院患者の疾患分類

平成 29 年度の入院患者数は前年度に比べ増加した。当院の特徴として、入院患者の半数以上が高齢者であるため、肺炎の入院頻度が他の地域と比べて極端に多くなっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

(ア) 業務実績

平成 29 年度は平成 28 年度に比べ外来患者数が減少した。今後も専門外来に力を入れ、様々な疾患に対応していきたい。

(イ) 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 28 年度	平成 29 年度
外来	32,278	31,338

イ 入院患者

(ア) 業務実績

平成 29 年度は平成 28 年度と比べ入院患者数が増加した。肺炎の入院頻度が他の地域と比べて極端に多いので、疾患分類に対応した診療をしていきたい。

(イ) 入院患者

(単位：人)

区分	平成 28 年度	平成 29 年度
入院	19,986	21,229

(3) 神経内科



○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

当院では毎週月曜・火曜・木曜・金曜日の午後に横浜市立大学の応援を得て、パーキンソン病、脳血管疾患及び神経難病の患者の診療にあたっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 29 年度の外来患者数は 1,609 人、平成 28 年度の外来患者数は 1,772 人、平成 27 年度は 1,950 人であった。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
外来	1,950	1,772	1,609

(4) 外科



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア スタッフ

平成 29 年度は 5 月に 2 年間勤務された川邊泰一医師が退職され、代わりに 6 月より渥美陽介医師が入職された。その他は和田外科医師と私（木谷勇一）の 3 人体制で診療を行った。

イ 診療範囲

頸部、胸部（心臓は除く）、腹部、骨盤及び下肢に至るまでの範囲で、診断・治療（主として手術）・後療法を行った。昨年同様、麻酔科の医師派遣が困難な状況が続き、麻酔の先生に少し早く登院して頂き、縦 2 列で手術することが多く、関連各所に多大な迷惑をかけている次第である。また、以前より非常勤で当科の E R C P を担当していた清野先生が、開業のため来院できなくなり、総胆管結石症等の治療を他院にお願いするようになり、同疾患の加療症例数が減少している。

(2) 業務実績

ア 年度別外科手術件数

(単位：件)

区分	術式	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 28 年度
甲状腺	甲状腺切除	1	0	0
	甲状腺切除＋頸部リンパ節廓清	0	0	0
	頸部リンパ節廓清	0	0	0
乳腺	B t＋Ax	5	4	5
	B p＋Ax	2	3	0
	B p	3	1	0
	B t	0	1	1
	乳腺腫瘍生検	4	0	0
肺	開胸肺葉切除	4	0	0
	開胸肺部分切除	0	0	0

(単位：件)

区分	術式	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
肺	開胸ブラ切除	0	0	0
	胸腔鏡下肺部分切除	0	0	0
	胸腔鏡下ブラ切除	1	0	0
食道	胸部食道切除術	0	0	0
	食道バイパス術	0	0	0
	アカラシア手術	0	0	0
胸壁	胸壁腫瘍摘出術	0	0	0
胃	幽門側胃切除	2	4	3
	胃全摘術	4	1	3
	単開腹	0	1	0
	残胃全摘	0	1	0
	胃空腸吻合	0	1	0
	局所切除	0	0	0
	腹腔鏡審査	1	0	0
	腹腔鏡下胃部分切除	0	0	1
十二指腸潰瘍 穿孔	穿孔部閉鎖、大網被覆	0	0	0
	N i s s e n 噴門形成術	1	0	1
肝癌	経皮ラジオ波焼灼術	0	0	1
	開腹ラジオ波焼灼術	1	0	0
	区域切除	1	0	0
	葉切除	0	0	1
	腹腔鏡下肝嚢胞開窓術	0	0	0
	部分切除	0	1	0
胆管	総胆管切除	0	0	0
	肝管空腸吻合術	0	0	0
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	8	5	6
	開腹胆嚢摘出術	3	5	4
	総胆管結石採石術	1	2	0
膵	幽門輪温存膵頭十二指腸切除術	0	0	0
	膵体尾部切除	2	0	0
小腸	イレウス解除術	3	2	1
	小腸部分切除	6	1	4

(単位：件)

区分	術式	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
小腸	腸吻合・腸縫合	1	0	0
結腸	結腸切除	18	15	15
	腹腔鏡補助下結腸切除	0	0	0
	人工肛門造設	2	3	1
	人工肛門閉鎖	2	1	2
虫垂	虫垂切除	1	15	4
	腹腔鏡下虫垂切除	0	0	0
直腸	高位前方切除	1	2	1
	低位前方切除	5	4	1
	直腸切断術	2	1	3
	ハルトマン手術	1	0	0
	経肛門的切除	3	0	5
	G a n t－三輪法	0	0	1
	痔核根治術	2	0	0
ヘルニア（鼠径）	鼠径ヘルニア根治術	30	23	18
（大腿）	大腿ヘルニア根治術	1	2	0
（小児鼠径）	小児鼠径ヘルニア根治術	2	0	0
（臍）	臍根治術	0	0	1
（腹壁瘢痕）	腹壁瘢痕ヘルニア根治術	1	1	0
（閉鎖孔）	閉鎖孔ヘルニア根治術	0	0	2
体表	植皮	0	1	1
	皮下埋め込み型ＣＶポート設置	23	21	24
	リンパ節生検	2	0	0
	皮下腫瘍	11	4	3
その他	その他	2	3	3

イ 年度別外科インターベンション数

(単位：件)

区分	術式	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
EMR	食道癌	0	0	0
	胃癌	2	2	4
	大腸癌	7	5	7
ステント	食道ステント	1	2	1
	十二指腸ステント	2	3	5
	胆道ステント	4	3	1
	大腸ステント	0	3	9
	経肛門のイレウス管	4	0	0
経皮経肝ドレナージ	P T C D	7	3	4
	P T G B D	1	2	0
	P T A D	1	0	0
	肝嚢胞ドレナージ	0	0	0
血管造影	腹部血管造影	0	0	0
	T A C E	0	0	0
	T A I	1	0	0
食道静脈瘤	食道静脈瘤 E V L	1	1	0
	食道静脈瘤硬化療法	1	1	0
内視鏡的ブジー	G F バルーンブジー	3	0	5
	C F バルーンブジー	1	3	2
その他内視鏡的治療	P E G	7	7	7
	G F 止血術	1	2	0
	G F A P C 止血術	0	1	0
	G F エタノール注入	1	0	0
	G F 異物除去	3	1	4
	C F 異物除去	0	0	0
	S 状結腸捻転解除	1	0	1
	E R C P / E S T	19	12	0

(5) 整形外科



科部長 内川 健

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

三浦市立病院整形外科は医師 2 名にて外来診療、病棟業務、救急対応及び手術を行っている。ひとつひとつのことを丁寧に確実に誠意をもって診療にあたりたいと考えている。

超音波検査は様々な臓器をリアルタイムかつ安全に観察することが可能で、今や多くの領域で画像検査のファーストチョイスとして利用されている。当院では今回新たに、整形領域における運動器（筋・腱など）に特化した超音波検査機器を導入した。これにより、日常診療に即した超音波診断が可能となり、効率的な診療が可能となった。

(2) 業務実績

ア 手術実績

(単位：件)

区分	計
(時)骨折観血の手術（大腿）	1
(時)骨折非観血的整復術（前腕）	1
(深)骨折非観血的整復術（上腕）	1
(幼)(休)関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	1
(幼)(深)関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	1
(幼)関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	2
(幼)関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	2
観血的関節授動術（指・手）	1
観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの）（大腿）	1
関節脱臼非観血的整復術（肩）	5
関節脱臼非観血的整復術（指・手）	1
関節脱臼非観血的整復術（指・足）	2
関節内骨折観血の手術（足）	2

(単位：件)

区分	計
関節内骨折観血の手術（肘）	1
筋肉内異物摘出術	1
鋼線等による直達牽引	1
骨折観血の手術（下腿）	5
骨折観血の手術（鎖骨）	2
骨折観血の手術（上腕）	1
骨折観血の手術（前腕）	4
骨折観血の手術（足）	2
骨折観血の手術（大腿）	38
骨折観血の手術（膝蓋骨）	3
骨折経皮的鋼線刺入固定術（指（手，足））	4
骨折経皮的鋼線刺入固定術（前腕）	3
骨折非観血の整復術（鎖骨）	1
骨折非観血の整復術（手）	2
骨折非観血の整復術（上腕）	1
骨折非観血の整復術（前腕）	8
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	1
骨内異物（挿入物）除去術（鎖骨）	2
骨内異物（挿入物）除去術（上腕）	1
骨内異物（挿入物）除去術（前腕）	4
骨内異物（挿入物）除去術（大腿）	1
骨内異物（挿入物）除去術（膝蓋骨）	2
四肢切断術（大腿）	1
人工関節置換術（膝）	4
人工骨頭挿入術（股）	7
難治性骨折電磁波電気治療法（一連につき）	1
腱縫合術（指）	1

イ 患者数実績

(単位：人)

区分	一日平均患者数	合計
外来患者数	99	24, 121
入院患者数	28	10, 250

(6) 産婦人科



科部長 大庭 信彰

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア 外来診療

平日午前中は新患・一般外来・ドック検診を行っている。火曜・金曜日の午後は三浦市のがん検診を、それ以外の曜日の午後は婦人科予約患者の診療を行っている。当院は原則として土曜は休診であるが、毎月第 2 土曜日は婦人科外来で三浦市の子宮がん検診とドック検診を行っている。

イ 婦人科外来休診日

年間 12～14 回の市役所合同庁舎など市内各所を会場にして行われる集団健診や、介護施設入居者の健診、流行シーズン到来前の成人ワクチン接種は当科医師が担当して行っている。したがってこれらの日は婦人科外来を休診としている。

(2) 業務実績

ア 子宮がん検診業務

(ア) 業務実績

平成 29 年度の子宮がん検査受診者は 760 人であった。平成 28 年の 803 人より少ないが、平成 27 年の 756 人、平成 26 年の 714 人よりは増加している。

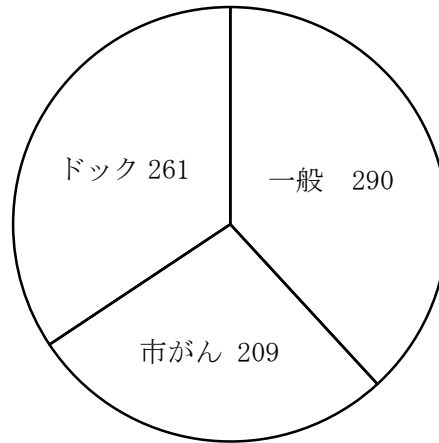
(イ) 分類

子宮頸がん検査受診者人数

一般	290 人	そのうち体がん検査も受けた人＝53%
市がん	209 人	そのうち体がん検診も受けた人＝51%
ドック	261 人	そのうち体がん検診も受けた人＝56%

体がん検査はどの分類でも頸がん検査を受ける人の半数強が受けている。

子宮がん検診（人）



(7) 眼科



医師 望月 至

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア 外来診療

視能訓練士不在のため、検査目的の紹介患者数が増えた。結果として、地域連携がより深まることとなった。

イ 手術

白内障手術が主体である。睫毛乱生症に対する睫毛電気分解術を開始した。睫毛乱生症の根治が期待できるようになった。

(2) 業務実績

ア 外来業務

(ア) 外来・入院患者数

外来患者数は増加傾向である。視能訓練士不在となり、診療体系改善をした結果であると考ええる。昨年同様、待ち時間を減らすことが、今後の課題である。白内障手術件数が増加傾向のため、入院患者数は増加傾向にある。

(イ) 入院・外来患者数

(単位：人)

区分	平成 28 年度	平成 29 年度
外来	5,681	5,806
入院	104	152

イ 手術業務

(ア) 白内障手術件数

手術件数は増加傾向である。理由として、外来患者数の増加が、考えられる。昨年同様、待ち時間を減らし、白内障手術希望者を獲得する事が、今後の課題である。

(イ) 手術件数

(単位：件)

区分	平成 28 年度	平成 29 年度
白内障手術	321	400
その他	2	4
合計	323	404

(8) 小児科



科部長 五味渕 一三

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア 外来業務

平成 24 年 4 月、小児科常勤医として、五味渕が着任。今までの診療体制を引き継ぎ、午前中は一般外来、午後は予約外来として、月曜日及び木曜日はぜんそく外来、火曜日及び水曜日は予防接種外来を行っている。また、行政機関の依頼による結核接触者健診並びに福島県外避難者県民健康管理調査も受諾している。

イ 地域との連携

現在、常勤医 1 名であり、小児の入院受入れは行っていないため、周辺の医療施設との連携が必須となる。そこで、市内の医院からの患者紹介を受け、そこで入院適応のある場合には、横須賀市立市民病院、横須賀市立うわまち病院、神奈川県立こども医療センター、横浜市立大学付属病院などに紹介するようにしている。

(2) 業務実績

ア 院外活動

院外活動として、三浦市の児童虐待対策や乳児健診などにも携わっている。特に児童虐待対策については、神奈川県、鎌倉保健福祉事務所三崎センター、三浦市の児童虐待対策会議に参加している。児童虐待対策は、早期発見が重要な社会的な課題であるため、今後は地域で児童虐待対策チームなどを立ち上げ、活動していく必要性を感じている。

(9) 耳鼻いんこう科



○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・火曜・水曜・木曜日の午後に横浜市立大学及び横須賀共済病院の応援を得て、耳鼻いんこう科外来を実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

外来患者数は、平成 27 年度は 3,098 人、平成 28 年度の外来患者数は 3,175 人、平成 29 年度は 2,922 人であった。平成 28 年度から平成 29 年度にかけて外来患者数は減少した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
外来	3,098	3,175	2,922

(10) 麻酔科



○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・火曜・金曜日の午後に横須賀共済病院及び横浜南共済病院の応援を得て、麻酔科を実施している。手術前の患者に手術の説明から術中覚醒までの麻酔管理を行っている。

(2) 業務実績

ア 平成 29 年度麻酔実施状況

平成 29 年度は局所麻酔の件数が 453 件、全身麻酔が 116 件、全麻・硬麻は 37 件、腰椎麻酔が 20 件、伝達麻酔 1 件、硬膜外 0 件、という実績であった。

イ 麻酔件数表

(単位：件)

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
全麻・硬麻	3	3	5	3	2	0	2	3	4	5	4	3	37
全身麻酔	16	13	8	10	9	11	4	8	8	10	10	9	116
硬膜外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腰椎麻酔	1	2	0	1	1	2	2	4	0	3	2	2	20
伝達麻酔	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
局所麻酔	22	34	35	48	33	30	45	51	39	27	49	40	453
計	42	53	48	62	45	43	53	66	51	45	65	54	627

(11) 脳神経外科



○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

当院では、毎週水曜・金曜日の午後に、横須賀共済病院の応援を得て、脳神経外科外来を実施している。また脳ドックの読影についても実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

外来患者数は平成 27 年度 1,695 人、平成 28 年度 1,773 人、平成 29 年度 1,858 人であった。平成 27 年度から平成 28 年度にかけて外来患者数は増加した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
外来	1,695	1,773	1,858

(12) 泌尿器科



○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・水曜・木曜日の午後に、横須賀共済病院の応援を得て、泌尿器科外来を実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 28 年度から平成 29 年度にかけて外来患者数は増加した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
外来	2,441	2,565	2,901

(13) 皮膚科



○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

当院では、毎週火曜日・金曜日午後に横須賀共済病院の応援を得て、皮膚科外来を実施している。また、病棟における入院患者の皮膚疾患管理も担っている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 27 年度の外来患者数は 2,568 人で、平成 28 年度の外来患者数は 2,534 人、平成 29 年度の外来患者数は 2,762 人であった。今後も三浦市ならではの診療ができるようにしていきたいと思う。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
外来	2,568	2,534	2,762

(14) 研修医



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

平成 29 度は、横須賀共済病院より 15 名、横浜市大附属病院より 4 名、横浜市立大学附属市民総合医療センターより 2 名、奈良県の西和医療センターより 2 名の研修医の方々が、それぞれ約 1 か月程度当院で地域医療を研修された。派遣元の病院と異なり医療資源が少ない当院で医療を行うに当たり、いかに知恵を絞り医療を行っているかを実感できたかと思われる。当院での研修が、その後の医者としての医療において少しでも役立てれば幸いである。

(2) 平成 29 年度研修医一覧

平成 29 年度	湯本 亜美	劉 昱寛		
	以上横浜市立大学附属市民総合医療センターより			
	東 親吾	田中 舞	山下 舞子	木下 颯花
	以上横浜市大附属病院より			
	益田 泰光	足立 詩織		
	以上奈良県西和医療センターより			
	池松 真人	大山 徹真	古賀 大靖	佐藤 皓祐
	大坊 侑	高畑 篤	永塚 啓博	仁禮 卓磨
	畠山 まりか	本郷 剛	丸山 拓実	宮井 敏孝
	中村 玲菜	島田 直幸	原 果里奈	
	以上横須賀共済病院より			

2 診療支援部



(1) 薬剤科

科長 今村 里絵

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア 病棟薬剤業務加算算定

月平均 475 件、475,000 円の算定となり、昨年度より増加した。薬物療法の有効性・安全性向上のため医師・看護師等との連携を図り、適切な薬物治療の推進に努めている。

イ 薬剤管理指導業務

今年度は算定件数の増加を目標に掲げ、指導件数を大幅に増加することが出来た。その結果、化学療法の患者の指導はすべて介入でき、また退院時指導もほぼ全員に行うことができた（地域包括ケア病床の患者も含む。）。

ウ 院内医薬品在庫管理

棚卸資産減耗費はここ数年、毎年十数パーセントの削減となり経費削減に繋がっている。次年度も引き続き、各科定数配置薬の品目、数量の見直しを図り、更なる在庫管理を進めていく所存である。また後発医薬品の導入推進を行い、医療費削減と医療資源の有効活用に努めていきたい。

エ 6 年生薬学生実務実習（11 週間）

横浜薬科大学より 1 名受け入れた。薬学生を指導することにより職員の更なる知識及び技術の向上並びに意識改革に繋がっていると考えている。

(2) 業務実績

ア 調剤業務

区分	処方箋枚数			調剤数		院外処方
	外来		入院	外来	入院	疑義照会
	院内処方	院外処方				件数
年間	2,380	57,195	20,080	3,984	51,026	2,587

イ 薬剤管理指導業務

区分		内科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	小児科	耳鼻科	計
服薬指導患者数		639	665	253	0	0	0	0	1,557
総服薬指導件数		1,525	1,495	893	0	0	0	0	3,913
算定件数	380 点	493	769	226	0	0	0	0	1,488
	325 点	402	318	204	0	0	0	0	924
麻薬加算件数									122
退院時薬剤情報加算件数									886

ウ 注射剤混合業務

区分	無菌調剤処方件数		無菌調整件数（中心静脈）	調整本数
年間	1,864		688	728
	化学療法	入院	469	946
	調整	外来	0	

エ 麻薬管理業務

区分	処方箋枚数		
	内服	外用	注射
年間	252	107	1,504

オ 血液製剤管理業務

区分	件数
年間	49

カ 院内製剤業務

区分	件数
年間	150

キ 持参薬管理業務

区分	件数
年間	2,053

ク 病棟薬剤業務

区分	件数
年間	5,711

(2) リハビリテーション科



技師長 清水 隆人

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア 介護予防啓発事業「三浦市民健康大学オープンキャンパス」の開催について

平成 29 年 10 月 29 日、介護予防啓発事業「三浦市民健康大学オープンキャンパス」を YMC A 三浦ふれあいの村（現 三浦 YMC A グローバル・エコヴィレッジ）にて開催した。

(2) 業務実績

ア 入院

(ア) 業務実績

新患者数は 777 件と昨年度よりも増加し、延べ患者数、実施単位数及び 1 件当たりの平均実施単位数は、同程度であった。

(イ) 実績表

		平成28年度	平成29年度	前年度比
新患者数 [件]	理学療法	620	622	1.00
	作業療法	124	155	1.25
	計	744	777	1.04
延べ件数 [件]	理学療法	15,549	16,276	1.05
	作業療法	2,628	2,992	1.14
	計	18,177	19,268	1.06
単位数 [単位]	理学療法	29,108	27,857	0.96
	作業療法	4,982	5,120	1.03
	計	34,090	32,977	0.97
平均単位数 [単位]	理学療法	1.9	1.7	0.91
	作業療法	1.9	1.7	0.90
	計	1.9	1.7	0.91
退院前訪問実施件数 [件数]		78	59	0.76
摂食嚥下対応患者数 [患者数]		163	108	0.66
摂食嚥下延件数 [件数]		1,716	2,036	1.19

イ 外来

(ア) 業務実績

外来の新患数は 320 件、実施延べ患者数は 7,551 件、実施単位数は 10,045 単位であった（前年比 新患数 1.12 倍、延べ患者数 0.92 倍、単位数 1.07 倍）。また、1 件当たりの単位数は、1.3 単位であった（前年比 1.16 倍）。

(イ) 実績表

		平成28年度	平成29年度	前年度比
新患数 [件]	理学療法	184	165	0.90
	作業療法	102	155	1.52
	計	286	320	1.12
延べ件数 [件]	理学療法	5,990	4,559	0.76
	作業療法	2,205	2,992	1.36
	計	8,195	7,551	0.92
単位数 [単位]	理学療法	6,490	4,925	0.76
	作業療法	2,880	5,120	1.78
	計	9,370	10,045	1.07
平均単位数 [単位]	理学療法	1.1	1.1	1.00
	作業療法	1.3	1.7	1.31
	計	1.1	1.3	1.16

ウ 地域包括ケア病床

(ア) 業務実績

地域包括ケア病床 28 床に対し、月平均のリハ実施患者数、年間の総実施単位数とも昨年度より増加を認めた。

(イ) 実績表

	平成28年度	平成29年度	前年度比
月平均患者数 [人]	49.8	53.2	1.07
総実施単位数 [単位]	18,965	19,585	1.03
平均実施単位数 [単位]	2.17	2.07	0.96

エ ADL維持体制等向上加算

(ア) 業務実績

昨年度同様、2 階、3 階それぞれに専従の理学療法士を配置し、入院直後より日常生活動作能力の低下を予防することに努めた。

今年度の月平均の加算取得件数は 607 件、年間の総取得件数は 7,282 件であった。

オ 小児を対象とした外来リハビリテーション

(ア) 業務実績

作業療法士が疾患別リハビリテーションとして算定した年間実施件数は 58 件、単位数は 167 単位であった。

また、担当作業療法士が下記の通り地域の幼稚園や保育園、小中高等学校、放課後等デイサービスなど各施設にて活動し、当該児及びその家族が関わる様々な施設やサービスとの連携を図った。

日程	実施場所	参加・活動内容
6 月 6 日	武山養護学校	情報収集、担任教諭への挨拶
6 月 15 日	三浦合同庁舎	巡回リハビリテーション参加
6 月 30 日	武山養護学校	運動会参加
10 月 7 日	小羊保育園	運動会参加
10 月 10 日	白ゆり総合リハクリニック	下肢装具仮合わせ
11 月	武山養護学校	情報収集、担任教諭への挨拶
11 月 22 日	上宮田小学校	情報収集
11 月 29 日	当院	座位保持装置付車椅子作成カンファレンス
12 月 18 日	すくすく教室	X m a s 会参加
2 月 7 日	すくすく教室	対象児の指導
2 月 7 日	三浦合同庁舎	健診フォロー教室「こあらんど」
2 月 14 日	三浦市社会福祉協議会	障害年金学習会参加
2 月 15 日	三浦合同庁舎	巡回リハビリテーション参加
3 月	双葉保育園	卒園式参加

カ 訪問リハビリテーション

(ア) 業務実績

訪問リハビリテーションの実施延べ件数は 1,640 件、実施単位数は 4,831 単位であった（前年比 延べ患者数と単位数は同程度、新規件数と終了件数は半数程度であった）。

(イ) 実績表

	平成28年度	平成29年度	前年度比
件数 [件]	1,565	1,640	1.05
単位数 [単位]	4,626	4,831	1.04
新規件数 [件]	25	14	0.56
終了件数 [件]	22	10	0.45

キ 実習生の受入れ

本年度の実習生は、下記の理学療法士養成校 1 校より 2 名を受け入れた。

学校名	テーマ	期間	実習生
神奈川県立保健福祉大学	臨床実習（4年生）	4月10日～5月28日	1名
横浜リハビリテーション 専門学校	臨床実習（4年生）	6月11日～8月4日	1名

ク 研修会・学会等での発表

本年度は、下記の内容を外部にて発表した。

演者	テーマ	学会等	期日
理学療法士 藤井 伸行	多施設間、多職種協働による介護 予防の取り組み	第 67 回神奈川県国保診 療施設部会 研修会	5 月 27 日
理学療法士 藤井 伸行	生涯学習と理学療法の専門領域	平成 29 年度第 2 回新人 教育プログラム研修会	10 月 1 日
理学療法士 藤井 伸行	多施設間、多職種協働による介護 予防の取り組み “三浦を元気にする” 三浦市民健 康大学、オープンキャンパスの開 催について	第 56 回 全国自治体病院学会	10 月 19 日 20 日

ケ 介護予防啓発事業（三浦市民健康大学オープンキャンパス）の開催

本事業は、地域在住高齢者への介護予防や未病を治す取組などの健康意識の啓発を図ることを目的とし、平成 27 年度より神奈川県立保健福祉大学、三浦市高齢介護課、三浦市社会福祉協議会、市内外の事業所とともに実行委員会を編成して企画・運営しており、YMCA 三浦ふれあいの村にて実施している事業である。平成 29 年度は 10 月 29 日（日）に実施し、特別企画の落語独演会に加え、体操を実践する教室、健康や栄養・尿漏れ等についての個別相談ブース、福祉用具の展示ブースを開設した。各ブースや運営スタッフとして、当院リハビリテーション科スタッフや事務局・管理栄養士が担当した。

当日は荒天により縮小内容での運用に変更し、参加者数は 33 名となった。参加者は、市内外より 10 歳未満から 90 代までの幅広い年齢層の方々に参加していただいた。開催後、報告書を作成し関係各所へ配布するとともに病院ホームページに掲載した。

(3) 放射線科



診療支援部長 五味 潤 一三

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

平成 29 年 7 月に X 線 TV の老朽化により更新を行った。これに伴い動画も導入され、検査の幅が広がった。検査室内のモニターも厚みのあるものから薄型壁付となり余裕のあるスペースが生まれた。前年度の課題であった一般撮影 I G（インテリジェントグリッド：グリッド無撮影時の画像処理での散乱線除去）設定処理については、日々の検証により完成と言ってよいレベルまで達した。

放射線科全体での検査人数は、前年度比 0.98 倍と僅かながら減少した。また、放射線技師 1 人欠員に伴い、1 人当たりの業務負担は増したがスタッフ一丸となり、互いにカバーし合い乗り切ることができた。

(2) 業務実績

ア 一般撮影

(ア) 前年度と比較し、個々の検査（胸部・腹部、骨部、MMG 等）毎での差異はなく、一般撮影総人数に応じて一律に減少し、前年度比 0.97 倍となった。

(イ) 一般撮影実績

(内数)

区分	外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
胸部	7,545	962	8,507	8,501
腹部	1,847	899	2,746	2,746
骨部・他	5,071	2,268	7,339	8,844
(体幹)	(2,870)	(1,964)	(4,834)	(6,019)
(四肢)	(2,201)	(304)	(2,505)	(2,825)
(ポータブル)	(359)	(1,308)	(1,667)	(2,152)
乳房	886	3	889	889
合計	15,349	4,132	19,481	20,980

イ X線TV検査

(ア) 血管造影検査は増減なし。消化器検査は、人間ドック等健診での胃バリウム検査は若干減少。その他の検査では、外来で行う検査（胃瘻交換・ED-tube交換等）も入院で行う各種検査（PTCD・ERCP・ED-tube等）が前年度比0.79と減少。X線TV検査全体では、前年度比0.92倍と減少。

(イ) X線TV検査実績

	外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
心 血管	0	7	7	7
消化器	442	84	526	526
泌尿・生殖器	4	3	7	7
その他	74	92	166	166
合計	520	186	706	706

ウ X線CT検査

(ア) 撮影後の各種画像処理出力（MPR・3D等）は増加。四肢撮影が前年度比1.19、躯幹造影検査が前年度比1.21の増加。入院の検査数減少で、CT検査全体では前年度比0.99倍となった。

(イ) X線CT検査実績

		外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
単純	頭部	1,097	114	1,211	1,267
	躯幹	2,111	432	2,543	2,818
	四肢	85	9	94	96
	小計	3,293	555	3,848	4,181
造影	頭部	2	0	2	2
	躯幹	541	132	673	750
	四肢	0	0	0	0
	小計	543	132	675	752
合計		3,836	687	4,523	4,933

エ MR I 検査

(ア) 外来患者数は増加するものの、入院時検査が前年度比 0.75 と減少。造影検査総数は前年度比 0.76 の減少。MR I 検査全体では、前年度比 0.98 倍。

(イ) MR I 検査実績

		外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
単純	頭部	807	59	866	867
	躯幹	617	139	756	817
	四肢	99	19	118	118
	小計	1,523	217	1,740	1,802
造影 (単+造含)	頭部	8	0	8	8
	躯幹	15	3	18	18
	四肢	3	0	3	3
	小計	26	3	29	29
合計		1,549	220	1,769	1,831

（４）臨床検査科



技師長 鈴木 正芳

○活動状況

（１）平成 29 年度のトピックス

ア 検体検査

（ア）平成 29 年 7 月から市内在住の中学生に対する H.ピロリ検査を実施する。

＊受診者は、516 人（受診率 73%）

＊陽性率は、1 %（他地区での陽性率は 3 ～ 5 %）

（イ）平成 30 年 2 月から D ダイマーの院内検査で実施する。

＊生化学自動分析装置 AU680 にて行う。

イ 生理機能検査

（ア）平成 29 年度も毎週水曜日の週 1 回、脳ドックの患者の MR I 検査を実施する。

＊平成 29 年度実施者数は 85 人（全脳ドック患者の 23%相当を実施）

（イ）平成 30 年 2 月に、ホルター心電計及び解析装置を更新。新しい心電計では、シャワーや入浴が可能となり、患者の負担が大幅に軽減された。

（２）業務実績

ア 検体検査部門

区分	一般	血液	細菌	生化学	血清	輸血	外注検査	合計
件数	28,619	50,595	4,765	71,889	19,231	1,521	13,701	190,321
点数	902,453	969,178	417,080	6,086,537	1,683,776	57,483	2,418,440	12,534,947

	H27 年度		H28 年度		H29 年度	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数
院内検査	194,176	11,065,833	181,792	10,370,751	176,620	10,116,507
外注検査	13,604	2,676,385	13,594	2,518,560	13,701	2,418,440
合計	207,780	13,742,218	195,386	12,889,311	190,321	12,534,947

- ・平成 27 年度をピークに、2 年連続で検体検査数及び点数が減少している。

イ 生理機能検査部門

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
件数	16,438	16,228	16,164	16,257	15,962
点数	4,297,402	4,190,948	4,181,520	3,964,504	3,957,322

- ・昨年度と比べると若干ではあるが検査数及び点数の減少だったが、過去 5 年間の比較では、最も少ない年度となった。

ウ 検査部門総評

- ・臨床検査科総収入は、診療報酬点数の減額や入院数減少等による厳しい状況が続き、昨年度に続き連続で減収となり、収益は 1 億 9,882 万円（昨年度－2.1%）となった。
- ・利益率は 52% となり、昨年と比べて 3% 減となった。

＊総収入に占める経費の内訳

- ・試薬代・保守点検代を含めた経費率＝26%（昨年度＋3%）
- ・人件費率＝22%（昨年度＋2%）
- ・高齢化率の高い三浦市は、これから人口減に伴う患者数の減少が考えられる。今後検査数の増加のみを求めていくことは厳しいと思われる中、「三浦ならではの地域医療の確立」という病院の方針の基、地域のニーズにあった検査の提供を更に進めていく方針の中、今年度は三浦市在住の中学生に対する H. ピロリ検査を実施することできた。これにより臨床検査科では成人だけでなく中学生の検査結果も一元管理ができる仕組みが確立された。今後は、この事業における受診率の向上や通常の学校検診尿検査の中に H. ピロリ検査が組み込まれることを目指していく。

(5) 地域医療科



科長 嘉山 静子

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

地域包括ケア病床の役割として、高度急性期からの後方支援では在宅及び療養先に戻る際のADL回復目的のリハビリ支援や終末期による緩和ケア、地域の開業医からの後方支援、在宅患者の急性増悪時のバックベッド機能及び医療依存度の高い患者のレスパイト入院機能があり、連携・支援・調整の強化を図った。

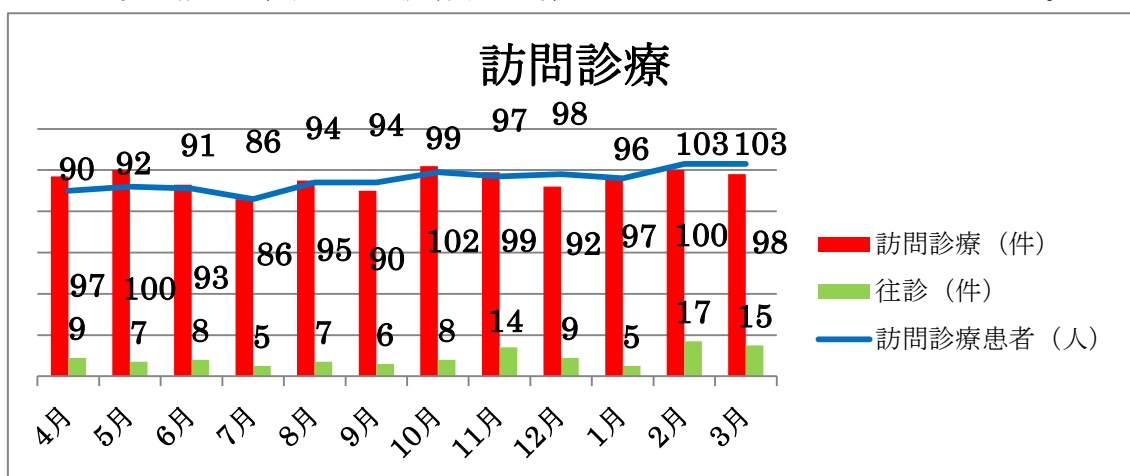
平成 28 年度より退院支援加算 1 を算定したことにより、多職種連携の強化に繋がり、早期より退院支援に着手し、シームレスな地域への移行支援が図れている。

今後地域医療は医療の主軸になることから、ますます地域連携を強化し、「こころのわかる関係」を継続していきたい。

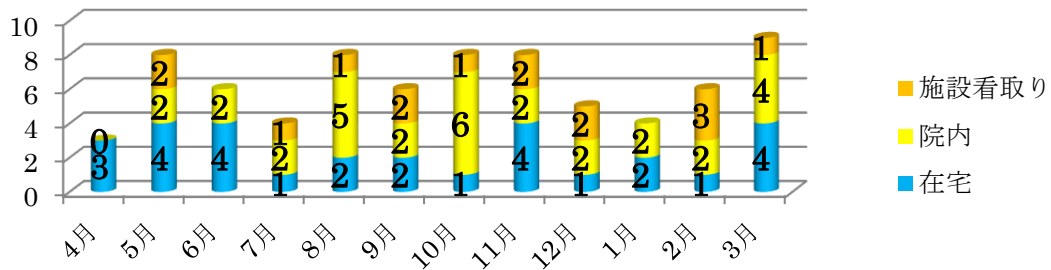
(2) 業務実績

ア 在宅医療

機能強化型在宅療養支援病院として訪問診療を実施した。29 年度の訪問診療件数 1,149 件、往診 110 件、訪問看護 33 件、在宅看取りは 29 件、施設看取り 15 件となっており、いずれも大幅に増加している。これらは、「三浦ならでは」を始め、シンポジウムや公開講座など様々な取り組みによって、「最後まで住み慣れた地域で暮らす」といった意識向上と、地域との連携が強化されたことで「看取り」に対しての不安を減少し、在宅・施設看取りに繋げていけるのではないかと感じている。



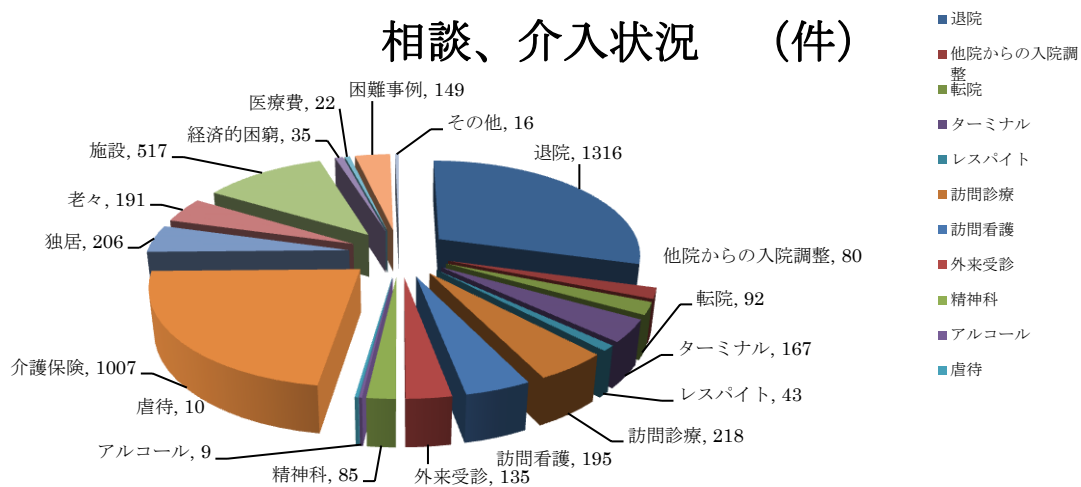
看取り内訳 (単位：件)



イ 退院支援・調整

入院3日以内に行政やケアマネージャーなど関係者へ連携し、ADL、介護環境、介護保険状況等の情報収集及びスクリーニングを行い早期介入につなげた。独居や老々世帯、医療依存度の高い症例であっても、本人・家族との面談、退院前訪問、ケア会議を経て訪問診療を導入するなど、地域医療へのシームレスな移行に繋げた。

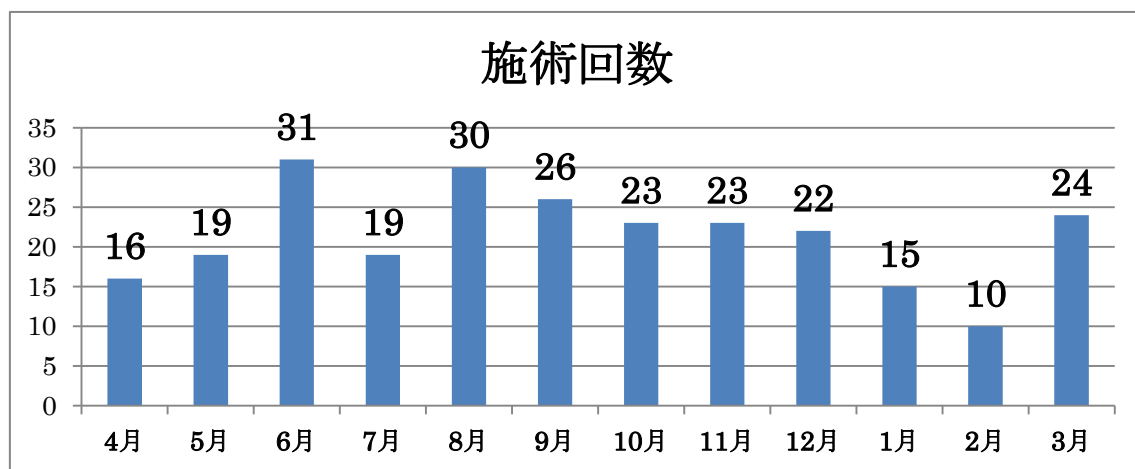
相談、介入状況 (件)



ウ リンパ浮腫外来

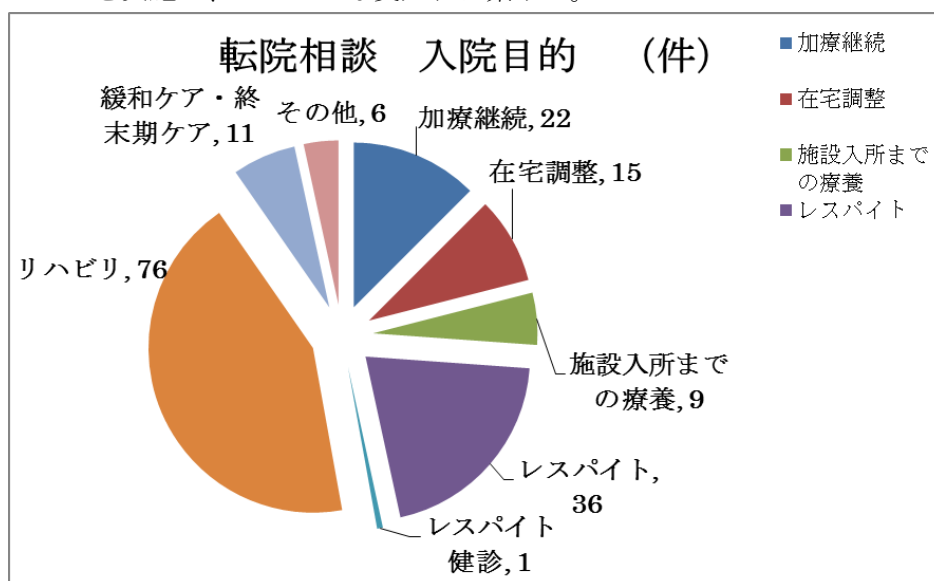
術後二次的に起こるリンパ浮腫は早期からケアを開始する事で重症化を防ぎ、QOLを維持させることができる。また、終末期に於いて発症したリンパ浮腫に関しても、緩和ケアの一環としてケアを導入し、最期まで自分らしく過ごせるお手伝いを担うことができた。外来だけでなく在宅への訪問や病棟など幅広く活動していることから、リンパ浮腫ケアの受容が高くなり平成29年10月よりリンパ浮腫セラピストを1名から3名へ増員した。半年間にて約10%増の患者にリンパ浮腫ケアを提供することができた。

リンパ浮腫外来		平成29年度年報																							着衣のみ購入		
総患者数	総施術回数	施術回数			診療科			性別		部位								施術場所				終了顛末					
		一人あたりの年間平均	最多者	最少者	内科	外科	婦人科	男性	女性	右上肢	左上肢	両上肢	右下肢	左下肢	両下肢	全身	顔面	外来	病棟	在宅	外来↓訪問	転居	軽快	訪問リンパへ		死亡	その他
29名	258回	8.89回	47回	1回	11	16	2	8	21	3	3	0	0	2	16	5	0	12	6	8	3		1		10	3	0



工 転院相談・受入れ

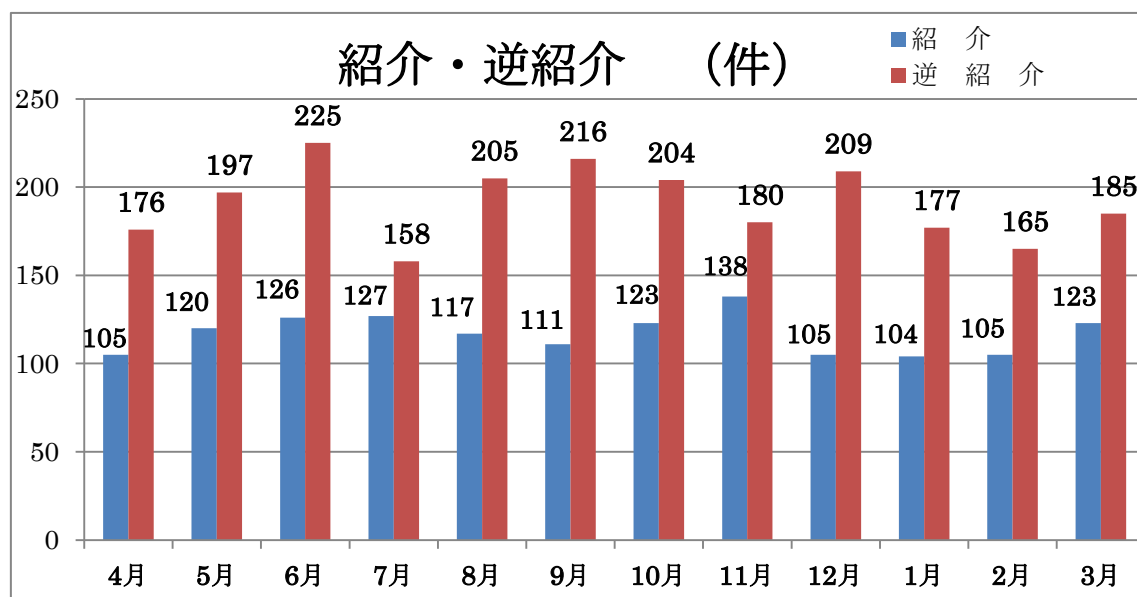
3次救急を中心とした他施設からの継続加療や、在宅調整、終末期による緩和ケア、施設待機、リハビリを必要としている方の転院相談が多く、シームレスな連携を実施し、スムーズな受入れに繋げた。



オ レスパイト健診

家族を介護している介護者の健康を守るためのレスパイト検診が前年度と同様1件と少ない。介護者の健康維持のため、次年度はリーフレットを作成し配布するなど努力をしていく。「安心して介護に専念できる」レスパイト支援は、地域に定着しつつあり、介護者が自分のリズムを保ちながら介護に当たれるよう受入れ調整を図った。

カ 紹介・逆紹介



(6) 医療安全管理室



室長 大庭 信彰

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

平成 29 年度の医療安全管理室は、「患者が安心して安全な医療を受けられるように環境を整え、「安心してかかれる病院」として患者確保の基盤になる。」を目標として業務に取り組んだ。リスクマネジメント担当と感染管理担当の院内合同ラウンドを年 4 回実施し、評価結果を周知して業務改改善につなげることができた。また、職員の医療安全に対する意識及び知識を高めるため、全職員対象の研修の出席率向上に取り組み、一定の成果を上げることができた。

引き続きリスクマネジメントの視点と感染管理の視点を効果的に取り入れた多職種連携を具現化するための組織として、様々な課題に取り組んでいきたい。

ア ミーティングの開催

医療安全管理室ミーティングは、リスクマネジメント担当と感染管理担当それぞれの所掌事項に関する 1 か月の実績及び今後の予定を報告し、必要な情報共有及び協議を行う場である。このミーティングでの議論を踏まえ、医療安全管理室が所掌する感染対策委員会及びリスクマネジメント委員会において必要な協議調整を行う。各委員会で決定した事項がこのミーティング等を通じて医療安全管理室にフィードバックされ、院内の感染対策及びリスク管理についてトータル的なマネジメントを行っていく。

イ ミーティングの概要

(ア) 第 1 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 29 年 4 月 25 日 (火) 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・ 合同ラウンドについて
 - ・ 研修について
 - ・ 平成 28 年度感染防止対策加算及び医療安全対策加算の診療報酬について
 - ・ 平成 29 年度医療安全管理室の目標について
- リスクマネジメント担当からの報告
 - ・ 患者のリスク情報の電子カルテ上の運用について

- ・平成 28 年度のインシデント事例数について
- ・L 字柵の購入について
- ・離床センサーの購入について
- 感染管理担当からの報告
 - ・インフルエンザ検査数・陽性率について
 - ・針刺し切創の報告について
 - ・VRE の収束について
 - ・神奈川県国民健康保険団体連合会診療施設部会研修会の参加について
 - ・神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について
- c 出席人数 8 人

(イ) 第 2 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所

平成 29 年 5 月 23 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・平成 29 年度医療安全管理室の目標について
 - ・合同ラウンドについて
 - 感染管理担当からの報告
 - ・針刺し切創の報告について
 - ・インフルエンザ陽性患者報告について
 - ・神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・医療事故等の公表について
 - ・マニュアルの一部改正について
 - ・患者のリスク情報の電子カルテ上の運用について
 - ・介助柵管理・運用について
 - ・神奈川県 7 市公立病院医療安全管理者交流会について
- c 出席人数 8 人

(ウ) 第 3 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所

平成 29 年 6 月 27 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・合同ラウンドについて

- ・ C Vカテーテルの使用状況の把握について
- リスクマネジメント担当からの報告
 - ・ 患者のリスク情報の電子カルテ上の運用について
 - ・ 介助柵管理・運用について
 - ・ 患者誤認防止マニュアルの策定等について
 - ・ 離床センサーについて
 - ・ 神奈川県 7 市公立病院医療安全管理者交流会について
- 感染管理担当からの報告
 - ・ 針刺し切創の報告について
 - ・ 神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について
 - ・ V R E に関する研修について
- c 出席人数 6 人

(エ) 第 4 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所

平成 29 年 7 月 25 日 (火) 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・ 合同ランドについて
 - 感染管理担当からの報告
 - ・ スワブスティックヘキシジン及びスワブポピオンヨードの適正使用について
 - ・ 針刺し切創の報告について
 - ・ V R E に関する研修について
 - ・ キシロカインゼリーの使用について
 - ・ バルーンカテーテルを挿入している患者の把握について
 - ・ 面会制限表示について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・ 患者のリスク情報の電子カルテ上の運用について
 - ・ マニュアルの制定及び改正について
 - ・ 介助柵管理・運用について
- c 出席人数 6 人

(オ) 第 5 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所

平成 29 年 8 月 22 日 (火) 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・ 合同ラウンドについて
- リスクマネジメント担当からの報告
 - ・ 院内暴力対応マニュアルの改正について
 - ・ 医療安全研修について
 - ・ 介助柵管理・運用について
 - ・ 神奈川県 7 市公立病院医療安全管理者交流会について
- 感染管理担当からの報告
 - ・ 面会制限表示について
 - ・ キシロカインゼリーの使用について
 - ・ 宗教上輸血を拒否する患者の取扱いについて

c 出席人数 8 人

(カ) 第 6 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 29 年 9 月 26 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・ 合同ラウンドについて
 - ・ 平成 28 年度医療安全管理室年報について
- 感染管理担当からの報告
 - ・ 神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について
 - ・ キシロカインゼリーの使用について
 - ・ 新型インフルエンザ等対策医療機器整備費補助金について
 - ・ インフルエンザ高感度キットについて
- リスクマネジメント担当からの報告
 - ・ 研修について
 - ・ 神奈川県 7 市公立病院医療安全管理者交流会について
 - ・ 転倒転落防止マニュアルについて

c 出席人数 5 人

(キ) 第 7 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 29 年 10 月 24 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・ 合同ラウンドについて
 - ・ 平成 28 年度医療安全管理室年報について
 - ・ 研修について
 - ・ 平成 29 年度医療監視の結果について
- リスクマネジメント担当からの報告
 - ・ インシデントレポートの改正について
- 感染管理担当からの報告
 - ・ キシロカインゼリーの使用について
- c 出席人数 7 人

(ク) 第 8 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所

平成 29 年 11 月 28 日 (火) 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・ 予算要求について
 - ・ 合同ラウンドについて
 - ・ 研修について
 - 感染管理担当からの報告
 - ・ キシロカインゼリーの使用について
 - ・ 神奈川県 7 市公立病院感染管理交流会について
 - ・ 高感度インフルエンザ検査について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・ F A X の誤送信について
 - ・ 平成 29 年度転倒転落に関する調査研究について
 - ・ 神奈川県 7 市公立病院医療安全管理者交流会について
- c 出席人数 9 人

(ケ) 第 9 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所

平成 29 年 12 月 26 日 (火) 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・ 予算要求について
 - ・ 合同ラウンドについて

- ・研修について
- リスクマネジメント担当からの報告
 - ・FAX誤送信予防マニュアルについて
 - ・輸血に伴うインシデントに関する研修会について
 - ・職員間における暴力対応マニュアル等について
 - ・平成29年度転倒転落に関する調査研究について
- 感染管理担当からの報告
 - ・キシロカインゼリーの使用について
 - ・病院NEWS及び三浦市民への記事掲載について
 - ・インフルエンザ検査の状況について
- c 出席人数 7人

(コ) 第10回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成30年1月23日（火） 三浦市立病院2階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・適時調査について
 - ・研修について
 - 感染管理担当からの報告
 - ・インフルエンザについて
 - ・神奈川県7市公立病院感染管理交流会について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・FAX誤送信予防マニュアルについて
 - ・平成29年度転倒転落に関する調査研究について
 - ・神奈川県7市公立病院医療安全管理者交流会について
 - ・緊急時の呼出し方法について
- c 出席人数 5人

(サ) 第11回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成30年2月27日（火） 三浦市立病院2階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・合同ラウンドについて
 - ・研修について

- ・適時調査及び診療報酬改定について
- リスクマネジメント担当からの報告
 - ・放射線業務従事者の研修について
 - ・転倒調査について
 - ・FAX誤送信について
- 感染管理担当からの報告
 - ・インフルエンザの流行状況について
 - ・結核疑い患者について
- c 出席人数 7人

(シ) 第12回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成30年3月27日(火) 三浦市立病院2階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・合同ラウンドについて
 - ・適時調査について
 - ・新たな施設基準の対応について
 - 感染管理担当からの報告
 - ・インフルエンザの流行状況について
 - ・針刺し切創報告について
 - ・結核の接触者健診について
 - ・神奈川県7市公立病院感染管理交流会について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・転倒転落調査について
 - ・神奈川県7市公立病院医療安全管理者交流会について
- c 出席人数 9人

ウ リスクマネジメント業務

(ア) 医療安全講習会院内研修

日時	対象者	テーマ	参加人数
4月14日	新人看護師	医療安全について	6名
10月24日 10月27日 12月5日	全職員	平成29年度第1回医療安全講習会 「医療機器の電気と安全」	計112名

日時	対象者	テーマ	参加人数
11月21日 1月23日	教育ラダーⅢ	リスクマネジメントについて、インシデント分析・対策立案	計7名
2月9日 2月15日	看護助手	医療安全とは「事例を通じて考える」	計14名
3月14日 3月24日	全職員	平成29年度第2回医療安全講習会 「薬品・輸血に関するインシデント」	計86名

(イ) インフォメーション

医療安全の観点から週4日午前中にインフォメーションを担当し、併せて、医療相談やご意見（賞詞含む。）の窓口となり、病院利用者の生の声を聞いて各部署と連絡調整を図り、適切な業務執行に寄与した。

(ウ) 医療安全ラウンド

週4日院内各所のラウンドを実施し、リスク回避等の助言を行った。

(エ) レポートについて

リスクマネジメント委員会、リスクマネジメント看護部会等を通じ、レポート作成の重要性を周知するとともに、各部署から提出されたレポートのチェックを行い、分析、対策及び再発防止についての指導及び助言を行い、再発防止対策の評価、修正を行った。

(オ) ADLと転倒に関する調査研究プロジェクトチーム

平成26年4月から転倒転落に関する調査研究を行い、平成28年度は転倒予防を目的とした取組を開始した。平成29年度は、引き続き調査を継続するとともに、L字柵の運用手順を作成し、運用を開始して転倒予防に努めた。

エ 感染管理業務

(ア) 感染対策講習会 院内研修

日時	対象者	テーマ	参加人数
4月11日 13日 17日 20日	新人看護師	標準予防策・感染経路別予防策 真空管採血・安全機能付留置針 針刺し切創血液曝露対策 流行性ウイルス性疾患等対策 フォーリーカテ基礎/実技演習	各6名
6月12日	感染コースⅡ	感染対策の重要性	4名

日時	対象者	テーマ	参加人数
7月20日	感染コースⅢ	薬剤耐性菌の基礎知識	4名
9月29日	感染コースⅡ	職業感染対策	4名
10月30日	感染コースⅢ	問題となる細菌感染症1	4名
11月27日	感染コースⅡ	ノロウイルス感染対策	3名
11月17日 20日 28日	全職員	第1回感染対策講習会 インフルエンザの予防と対策	計173名
12月21日	感染コースⅢ	問題となる細菌感染症2	4名
2月21日	看護助手	知ってて良かった！感染対策ピ ットホール	13名
3月13日 15日 19日	全職員	第2回感染対策講習会 当院におけるVREアウトブレ イクの分析～この経験を今後の 感染対策にどう活かすべきか	計162名

(イ) 感染対策公開講座

日時	テーマ	院外参加人数	院内参加人数	参加人数合計
10月20日	ノロウイルスについて	7名	7名	14名
12月15日	インフルエンザについて	3名	5名	8名
2月16日	結核について	3名	10名	13名

(ウ) 感染対策 健康宅配便

日時	テーマ	対象者	参加人数
7月10日 11日	VREを正しく理解する	パシフィック・ホスピタル 職員	計149名
9月15日	ノロウイルス・疥癬・VREなどの感染予防とまん延防止	遊楽の丘職員	26名
9月12日 25日 26日	感染症講座 肺炎の予防	みうらふれあいサロン参加者	計27名

(エ) コンサルテーション

依頼部署等	件数
2 階病棟	4
3 階病棟	2
4 階病棟	2
手術室	1
外来	5
薬剤科	1
診療部（内科）	3
診療部（外科）	1
地域医療科	2
リハビリテーション科	1
院外	24
計	46

(オ) 感染症患者報告（入院）

感染症名	報告数
インフルエンザ A	18
インフルエンザ B	15
インフルエンザ A B 不明	1
インフルエンザ 疑い	1
結核（疑い例）	12
結核（確定例）	2
感染性胃腸炎	5
ウイルス性腸炎	1
帯状疱疹	2
汎発性帯状疱疹	1
疥癬（疑い例）	1
流行性耳下腺炎（疑い例）	1
V R E（保菌）	4
計	64

(カ) 感染症患者報告（訪問診療/外来）

感染症名	報告数
疥癬	3
インフルエンザ A	1
計	4

(キ) 感染症職員報告

感染症名	報告数
インフルエンザ A	4
インフルエンザ B	12
インフルエンザ AB 不明	1
感染性胃腸炎	2
手足口病	2
帯状疱疹	1
計	22

(ク) 高感度インフルエンザキットの導入

インフルエンザの早期診断による患者の苦痛の軽減及び感染拡大防止のため、インフルエンザ高感度キットの導入を行った。通常キットと高感度キットの選択基準やオーダ入力方法については、全職員を対象とした研修会で周知を行った。

(ケ) 演題発表

a 平成 29 年 5 月 27 日（土）

第 67 回神奈川県国民健康保険団体連合会診療施設部会研修会

会場 三浦市民ホール

演題 VREアウトブレイクで当院が直面した難題～地域を視野に入れた感染対策の実践～

演者 杉崎 絵美

b 平成 29 年 9 月 21 日（木）

第 57 回全国国保地域医療学会

演題 超高齢社会と向き合う感染対策～VREアウトブレイクから見えた地域を視野に入れた感染対策の実践～

会場 ホテルメルパルク東京／メルパルクホール

演者 杉崎 絵美

c 平成 29 年 11 月 18 日（土）

第 35 回神奈川県看護協会横須賀支部看護・介護研究発表会

会場 ウェルシティ市民プラザ／横須賀市生涯学習センター（まなびかん）

演題 医療機関から暮らしの場につなげる感染対策～積極的な退院指導への
介入を試みて～

演者 杉崎 絵美

3 看護部

(1) 看護部



看護部長 嘉山 静子

○活動状況

新任看護師長3名が加わり体制を整え、「心ある、あたたかい看護」を提供し「三浦ならではの」地域医療を目指して、看護部総勢128名、看護職員101名（常勤看護師83名）でスタートした。

新しい体制の中、「開かれた看護部」として①言える環境（受け止める環境）②褒める環境（良いところを見つけ伸ばす）③認める環境（承認・成長を認める）これらの環境を整え人材育成に力を入れての体制を重点事項とした。しかし、多くの人材が退職を選択してしまう状況となり、マグネットホスピタルに繋げることができなかった。これらの状況を振り返り、3つの環境が整っていなかったと強く感じている。一人ひとりの成長を受け止め承認できる体制を強化し、辞めない職場にするための体制改善を考えていきたい。

(1) 平成29年度のトピックス

ア 「三浦ならではの」地域包括ケアシステムの構築

(ア) 30年度の診療報酬改定を見据え、地域包括ケア病床の適正運用の検討会を実施。在院日数・看護必要度・在宅復帰率などの要件を加味し、平成30年4月より40床稼働に向け準備を行った。また、住み慣れた地域で安心して療養生活を送れるよう、患者・家族の意思決定や思いに寄り添い、退院調整の支援を行った。

(イ) 「時々入院ほぼ在宅」の方向性から、医療・介護サービスの提供の場は、病院から在宅へと移行が始まり、地域の人々の「生活」を大切にしながら「医療」の視点でのマネジメントが重要となってきた。看護師一人ひとりが地域包括の知識を得て、地域連携の中心的役割を担いながら、療養の場を見据えての退院支援を行うことができた。

イ 病院相互連携研修

研修を通して、地域における看護の現状・人材育成・地域包括ケアシステムに関する課題について理解し、担当領域での活用に資することを目的に実施。平成28年度より実施し今年度で2年目となる。他施設を知り、自部署を理解する機会となり

自部署におけるマネジメントに効果を得ている。

(ア) 職員交流研修受入れ

奈良県立病院機構奈良県西和医療センター 看護師長 1 名
期 間：平成 29 年 10 月 10 日から 10 月 20 日までの 9 日間

(イ) 職員交流派遣研修

派遣場所：奈良県立病院機構奈良県西和医療センター 看護師長 1 名
期 間：平成 29 年 11 月 27 日から 12 月 8 日までの 10 日間

(2) 看護職員状況

ア 看護職人員確保（平成 29 年度）

（単位：人）

	看護師 常勤	看護師 非常勤	准看護師	看護助手 非常勤	合計
採用	9	2	0	2	13
退職	14	2	1	3	20

イ 職別構成（平成 29 年 4 月 1 日現在）

（単位：人）

区分	看護 部長	主幹	看護 師長	主任 看護師	看護師	准看護師	看護 助手	産休 育休	合計
職員	1	1	10	9	57	0	0	5	83
非常勤	0	0	0	0	11	7	27	0	45
計	1	1	10	9	68	7	27	5	128

ウ 年齢別構成（平成 29 年 4 月 1 日現在）常勤

（単位：人）

区分	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55 歳以上	平均年齢
看護師	12	9	3	10	13	19	7	10	41.8

(3) 看護部の目標と評価

ア 医療安全・接遇・倫理観

(ア) 安全・安楽な療養環境を整え、患者中心の看護の提供

転倒予防に関しては、継続し分析データをもとに他部署と情報を共有しながら、対策を実施し転倒リスク減少に繋がられた。職員の意識や危険予知対策は強化できた。

(イ) 人権を尊重し、心地よい対応を提供する

「品格」「感性（センス）」を強化し「やさしさと思いやり、あたたかい看護」に繋げていき、心地よい対応ができたことで、賞詞も常に頂けるようになってきた。謙虚な心で接し安心できる環境を提供し、市民に必要とされいつまでも愛される病院として継続できるようにしたい。

イ 経営参画

（ア）受入れ態勢の強化に努め予算目標達成に最善を尽くす

（イ）多職種・多施設との連携を行い、地域とともに支え合う体制を整える

常にデータを把握し、経営目標値を維持していくよう受け入れ体制の強化を継続していったが、予算目標には到達できない結果となった。今後は、データの見える化を強化し、どんな状況でも予算目標に近づけるための対策、今自分たちは何ができるかを常に考えながら実践していきたい。

ウ 人財育成・教育

（ア）誰でも、どこでもできる看護師を育成し、リリーフ体制の構築を図る

（イ）「個」の力が最大限に発揮で出来るよう教育体制を整え、成長を承認していく

少ない人数での体制だからこそ、お互いの協力体制が整い、受入れ態勢の強化やケアの充実に繋げることができた。

看護教育においては、クリニカルラダーが順調に進んでいたが、どこでも通用するラダーが必要と考え、30年度からラダーのレベル分けの検討を行った。新たなレベルで30年度からすすめ、スタッフ「個々」の意欲の向上・やりがいに繋げた教育にしていきたい。

(2) 2階病棟



看護師長 山本 浩文

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

特色

H29 年 4 月 1 日 看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 15 名
 非常勤看護師 2 名 非常勤看護助手 5 名
H30 年 3 月 31 日 看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 14 名
 非常勤看護師 1 名 非常勤看護助手 5 名

外科系急性期病棟 42 床 (HCU 2 床)

入院対象は主に外科・整形外科の急性期・眼科手術目的(白内障)・短期滞在検査入院外科系疾患は主に消化器がん(胃癌・大腸癌)、肝胆膵系疾患、ヘルニア、乳癌、イレウス、外傷、急性腹症など 378 名であった。

今年度、大腸内視鏡検査入院は、約 281 名、化学療法(日帰り・2泊3日)は、439 名であり、化学療法においては前年度より 100 名程度の増加傾向にあった。
整形外科入院 241 名中、大腿骨頸部・転子部骨折、胸腰椎圧迫骨折が大半を占める。
前年度とほぼ入院数の変化は見られない。

眼科入院 389 名は、全て白内障手術目的であり前年度より 100 名ほど増加にあった。
内科(検査入院を除く)28 名の入院があり、前年度を下回った。

(2) 業務実績

H29 年度総入院数は、1,767 名(月平均患者数は 147 名)で、うち、外科系 1,070 名(53.77%)、整形外科 241 名(16.03%)、眼科 389 名(19.31%)、内科 67 名(10.89%)であった。

1,767 名中、100 歳以上 1 名(0.06%)、90 歳以上 99 名(5.6%)、80 歳以上 577 名(32.64%)、70 歳以上 637 名(36.03%)、60 歳以上 315 名(17.87%)であった。

昨年同様 60 歳以上が、1,629 名(92%)と大幅に占めており、昨年度より 2%上昇がみられ、その中でも 60 歳から 70 歳までは 6%減少し、70 歳以上 80 歳未満、80 歳以上 90 歳未満の割合が 8%上昇しており、入院患者の高齢化は上昇の一途をたどっている。

今までは、入院治療後スムーズに自宅退院できていたが、高齢化等により望む場所への退院が困難なケースも増加傾向にある。また、在院日数も増加傾向にあり、今後はスムーズな退院に向け、早期の退院支援が必要である。その為、来年度は退院支援にも力を入れていきたいと考える。

(単位：人)

区分	5歳 以上 20歳 未満	20歳 以上 30歳 未満	30歳 以上 40歳 未満	40歳 以上 50歳 未満	50歳 以上 60歳 未満	60歳 以上 70歳 未満	70歳 以上 80歳 未満	80歳 以上 90歳 未満	90歳 以上 100歳 未満	100歳 以上	計
内科	0	1	2	4	5	9	25	16	5	0	67
外科	6	4	4	35	43	224	377	341	36	0	1,070
整形外科	6	2	0	5	15	16	56	96	44	1	241
眼科	0	0	0	1	5	66	179	124	14	0	389
計	12	7	6	45	68	315	637	577	99	1	1,767

(3) 病棟目標評価

ア 安全・安楽な統一した看護・ケアを提供する。

- ① 毎朝のチームカンファレンス・ワークシートを有効活用・1回/週の定期的なカンファレンスを行い、患者情報を共有できる。
- ② 各セクションからの応援体制がスムーズに行なえるよう、マニュアル・指導内容の統一をはかる。
- ③ 医師とのカンファレンスを定期的に行なう。

<評価>

カンファレンスは短時間ではあるが、毎日行うことで情報の共有に努めた。また、各チームリーダーと受持ち看護師でのショートカンファレンスも行い、日々の看護ケアに対してもカンファレンスを行えた。Drとのカンファレンスは、回診が中心となってしまったので、身体拘束や症例カンファレンスも行なえるようにしていきたい。

イ 個々の責務を果たし、病棟運営に参画する。

- ① 各病棟内係における目標を達成する。
- ② 受け入れ態勢、ベットコントロールを確実にし、急性期病棟として緊急入院の受け入れ100%を達成する。

<評価>

外科や整形外科の急性期疾患に関しては、満床でなければ受け入れることが出来た。しかし、眼科や検査入院にて入院予約が多数あることもあり、ベットコントロールにてキープをせざる状況もあるため、ベットコントロール、予約入院が今後の課題となる。

ウ 急性期看護師としてのキャリアアップを行う。

- ① 分散教育(外科・整形領域看護)を1回／月以上を行なう。

急性期看護における知識・技術の共有・向上に努める。

- ② 積極的に院内、院外研修に参加し（2回/年以上）知り得た知識を共有していく。

<評価>

各個人にて積極的に研修に参加する姿勢があり、急性期間後の技術や知識を深めることはできた。しかし、分散教育は毎月実施にはできておらず、各月程度となってしまった。しかし、研修に参加した内容を、病棟会議や昼のカンファレンスの時間を使い、分散教育で他のスタッフに伝達することで学びを深め、情報の共有を行う事はできた。学びの共有は継続して行い、来年度は回数を定期的に増やすよう努力していく。

(3) 3階病棟



看護師長 舘林 美加子

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

特色

内科系急性期病棟として常に入院を受け入れている。今年度は、尿路感染症・肺炎などの疾患が多くみられた。また、病状や症状が落ち着き A D L の拡大や退院支援・調整が必要になった場合は、院内での機能分化が定着し地域包括病床への移行ができています。

昨年度は感染対策に対し、課題を多く確認し、感染管理認定看護師と共に感染対策を強化した。それ以来、継続して感染対策の徹底に努めている。

職員構成は看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 17 名 非常勤看護師 2 名
非常勤看護助手 5 名

病床数 : 47 床 (H C U 2 床 個室 6 床 特別室 1 床 4 人部屋 40 床)

入院対象 : 急性期内科 (24 時間救急患者入院対応)
ベットコントロールにて外科・整形患者の受入れも実施

看護方式 : 固定チームナーシング : A ・ B 2 チーム制、継続受け持ち看護方式
を取り入れ、準夜・深夜ともに看護師 3 名体制で質の高い看護を提供

(2) 業務実績

ア 入院患者の状況

区分	H29	
	入院患者数(人)	構成比(%)
内科	1, 019	88. 3%
外科	108	9. 4%
整形	12	1. 0%
眼科	15	1. 3%
合計	1, 154	100. 0%

イ 入院患者の年齢別状況

(単位：人)

区分	9歳 以下	10～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80～ 89歳	90～ 99歳	100歳 以上	合計
内科	0	4	7	15	37	28	98	241	388	197	4	1,019
外科	0	0	1	1	4	1	30	44	25	2	0	108
整形	0	0	0	0	0	0	0	4	4	3	1	12
眼科	0	0	0	0	0	1	2	8	4	0	0	15
合計	0	4	8	16	41	30	130	297	421	202	5	1,154

(ア) 主な疾患

肺炎・脳梗塞・心不全・糖尿病・尿路感染症・脱水・腎盂腎炎・肝機能障害・
肺癌・急性扁桃炎・肝癌・イレウス・胆石・胆のう炎

(イ) 対象手術

・MRIポート挿入術・胃瘻造設術・大腸ポリープ切除術

ウ 平成29年度3階病棟看護目標

(ア) 患者中心の看護

チーム間、多職種での患者の情報を共有し、患者の状態に合わせたチーム医療ができる

【評価】週一回のカンファレンスの実施にて、患者の情報共有ができ、スムーズに地域包括ケア病床への転棟や退院調整ができた。患者に合わせた看護を提供するために、地域医療科との連携が必須であり、情報交換を密にすることで、退院後まで目を向けたチーム医療ができている。

(イ) 医療安全

- a 業務手順に沿って看護実践・指導ができる
- b 決められたこと、きめたことを継続して実践する
- c 同じインシデントを繰り返さない

【評価】高齢者が多く、転倒・転落のインシデントが一番多かった。次いで、薬剤関連のインシデントが17件と多かった。確認不足など、ヒューマンエラーによるものが多く、マニュアルの改善など見直し、改善に努めた。また、病棟会などで決めたことを維持できず、逸脱する傾向もあるため、チーム医療でのル

ールを決め、統一した業務ができるように指導している。

(ウ) 感染管理

a 感染管理を徹底することで、感染の拡大を起こさない

【評価】平成 28 年度の感染管理課題の教訓から、感染対策を徹底することで、一人ひとりの意識が向上し、感染対策の強化を図ることができた。

(4) 4階病棟



看護師長 原田 左和子

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

特色

平成 29 年 4 月 1 日 看護師長 1 名 主任看護師 1 名
看護師 16 名 (うち非常勤看護師 2 名)
看護助手 8 名

平成 30 年 3 月 31 日 看護師長 1 名 主任看護師 1 名
看護師 15 名 (うち非常勤看護師 2 名)
看護助手 8 名

・慢性期病棟 47 床 (うち地域包括ケア病床 28 床)

・4階病棟では、ポストアキュート・サブアキュート・在宅復帰支援・レスパイト入院等を受け入れ地域包括ケア病床を運営している。

(2) 統計

平成 29 年度総入院患者数は 536 名で、うち内科は 306 名 (57.1%)、外科 30 名 (5.6%)、整形外科は 200 名 (37.3%) であった。入院患者は 70 歳以上が 91.4%以上を占め、地域包括ケア病床の占床率は 97.5%で前年より 8.5%増加した。在宅復帰率は 86.3%であり、その内訳は、自宅が 50.9%、施設 (居住形態) が 24.3%であった。

3 月末日現在数 (単位：人)

区分	20 ~29 歳	30 ~39 歳	40 ~49 歳	50 ~59 歳	60 ~69 歳	70 ~79 歳	80 歳 ~89 歳	90 歳 以上	合計
内科	1	0	0	4	21	79	138	63	306
外科	0	0	0	2	0	12	14	5	33
整形外科	0	1	0	4	13	42	98	42	200

(3) 病棟看護目標

ア 患者・家族が日常生活の場に安心して戻れるよう支援します

- ・患者・家族の思いを大切にし、信頼関係の構築を行う

(評価)

患者・家族が安心して療養生活が過ごせるよう声掛けを行いコミュニケーションを図ることを積極的に取り組んだ。患者・家族から感謝の手紙や言葉を頂くことも多く患者に寄り添う看護が実践できた。大きなクレームもなく患者・家族との信頼関係を深めることができた。

イ チーム力を向上させ、患者一人ひとりに合わせたプランの実践を行います

- ・チームでの情報共有を徹底し、チームの連携を強化することでチームの機能を最大限に発揮できる。

(評価)

在宅への退院支援を行う中でチームの情報共有はもちろん多職種との情報共有が求められる。情報共有ができなかったことで退院日がずれこむことがあり改めて情報共有の大切さを実感した。患者がどこに帰るのか、必要なサービス等しっかりと患者の個別性を考えた支援を継続していきたい。

- ・リスクを回避し患者が安全に過ごせるよう環境を整える。

(評価)

インシデント報告件数は58件であった。そのうちレベル3bは2件であった。項目別では転倒・転落に関連したインシデント数は37.9%で前年度より2.1%の低下があった。薬剤関連のインシデントは17.2%と前年より2.2%増加している。また、療養関連のインシデントが22%と高いため、日常生活のアセスメントをしっかり行いリスク回避に努めていきたい。

ウ 地域包括ケア病床の受け入れ強化を行い、占床率アップに努めます

- ・スタッフ一人ひとりが地域包括ケア病床を理解し、占床率をアップすることができる。
- ・地域包括ケア病床の占床率90%を維持する。

(評価)

地域包括ケア病床の占床率は目標より多く保つことができた。日々のベットコントロールを丁寧に行うことで占床率が安定しコンスタントに病床を運用できた。また、スタッフ一人ひとりの地域包括ケアシステムの理解が低く基準など知らない状況があったため、病棟全体の勉強会開催などスタッフ全員が参加できる環境を提供した。

4階病棟では、患者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるように、多職種と協働しながら患者の在宅復帰を支援している。超高齢化により「認知症」「老々介護」「独居」「経済困窮」等の問題を抱えている高齢者が多く、退院支援が困難な事例も多い。例えば、老々介護でサポート力の低下があることや、認知症の対応が困難な状況で帰ることができず施設等に入所せざるを得ないケース、患者は自宅に帰りたいが、独居で徘徊がある等、退院支援が進まないケースがある。このように超高齢地域における問題点は多く、治療や安全など退院支援に弊害がある。これらの問題に関して、病院のみならず地域密着型を確立し、地域と連携を取りながら問題解決を図っていく必要がある。「三浦市ならではの」地域包括システムを構築していくために、地域との連携のパイプを太く確実にし、安心して在宅に帰れる環境を地域と共に考えていく必要がある。地域に密着した看護を提供し、高齢者に優しい病棟を目指していきたい。

(5) 手術室



看護師長 渡辺 みゆき

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

看護目標及び評価

ア 患者・家族が安心して手術に臨めるような体制

(ア) 患者・家族・職員に笑顔であいさつをする。

(イ) 他部門との情報共有

a 術前訪問 100%維持と術前チェックリストでの再確認

b 術後チェックリストに沿った術後訪問の検討と実行で、情報共有により患者中心の看護が提供できる。

評価：緊急手術以外入院患者に対し 100%の術前訪問ができた。

来年度も更なる接遇向上に努める。

又、術前訪問の時間で術後患者へ挨拶・声掛けを時間の範囲で行っている。

患者の思いや言葉が聞け、周手術期の看護の振り返りと訪問により他患者へも還元できた。

(ウ) 手術が安全に遂行するよう点検・整備

a 始業前・始業後チェックリストでダブルチェックをする。

b 機材異常時、速やかに報告・対応する。

イ スタッフが安全・円滑に働ける職場環境を整える

(ア) 手術が円滑に流れるようお互いが声を掛け合い、ミーティング時情報共有で、各人の動きがわかるようにする。

(イ) コスト意識を持ち、材料費削減・材料の予備を最小限にとどめ無駄のない業務をする。

(ウ) 各人は年 1 回以上の研修に行き中材・手術室のキャリアアップをする。

評価：スタッフ 2 名の中、他部署の応援を得られたことで人数確保ができた。

また、時間の有効活用、事前のイメージトレーニングと、声の掛け合いにより安全な手術展開となった。

(2) 業務実績

ア 手術室・中央材料室

(ア) 業務実績

平成 29 年度の手術件数は 627 件。内訳は外科 119 件 整形外科 97 件
眼科 411 件 内科 0 件 前年度より 82 件増であった。

今年度は、タニケット・コンテナ・チューブ乾燥機が新しく交換設置された。

中央材料室では院内で使用する医療機器の洗浄から滅菌まで一括業務を行っている。また単包化により滅菌有効期限の延長が向上した。

今年度より、生物学的モニタリングシステムを導入したことでより安全な手術を行えるようになった。

職員構成は、看護師長 1 名 看護師 2 名 看護助手 1 名の 4 名体制であった。

日々医療機器・備品点検を行い安全に手術が行えるよう、また緊急手術にも備えている。術前訪問を実施し患者の不安軽減に努めている。術前訪問は 100% 実施できている。

(イ) 手術件数

科別

(単位：件)

区分	外科	整形外科	眼科	内科	婦人科	その他	計
手術	110	88	411	0	0	0	609
緊急手術	9	9	0	0	0	0	18

年齢別

(単位：人)

区分	0~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80 歳以上	計
外科	1	0	1	5	5	25	50	32	119
整形外科	4	3	1	6	13	8	17	45	97
眼科	0	1	0	1	4	73	184	148	411
内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	4	2	12	22	106	251	225	627

(6) 外来



看護師長 市川 夏実

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア 診療科：内科（循環器科 呼吸器科 糖尿病） 外科 整形外科 眼科 耳鼻咽喉科 産婦人科 小児科 神経内科 脳神経外科 泌尿器科 皮膚科
内視鏡 フットケア外来 リンパ浮腫外来

イ 救急外来：24 時間体制（地域医療科・手術室・病棟師長の応援体制あり）

ウ 人員： 看護師長 1 名
主任看護師 2 名
看護師 9 名
非常勤看護師 4 名
非常勤准看護師 6 名
非常勤看護助手 8 名 （合計 30 名）

(2) 業務実績

ア 患者数 80,280 人／年
平均患者数 330 人／日

イ 健診業務：ドック
国保・なごみ・特定・一般健診
市職・船員・その他事業所等の健診
集団健診
土曜日健診（毎月第 2 土曜日）癌検診と国保等健診を行う。

ウ 予防注射：インフルエンザ（院内）
インフルエンザ（出張）
破傷風・HB ワクチン
肺炎球菌ワクチン

エ 平成 29 年度科別患者数

(単位：人)

区分	内科	神経 内科	外科	整形 外科	産婦 人科	小児科	眼科	耳鼻咽 喉科	脳神経 外科	泌尿 器科	皮膚科
4 月	2,385	166	607	1,573	119	181	523	260	157	207	242
5 月	2,419	140	672	1,608	134	75	516	289	144	258	290
6 月	2,557	167	739	1,611	158	71	563	274	158	259	342
7 月	2,520	143	721	1,548	131	117	501	221	132	256	284
8 月	2,625	154	842	1,580	173	218	583	242	144	277	293
9 月	2,422	137	706	1,444	128	174	417	251	161	237	276
10 月	2,602	160	700	1,521	210	227	379	252	132	255	253
11 月	2,520	157	747	1,506	140	198	568	253	156	284	207
12 月	2,615	133	670	1,467	176	241	541	242	137	268	242
1 月	2,646	152	649	1,388	130	272	415	292	138	336	189
2 月	2,473	131	651	1,324	141	222	493	280	122	226	205
3 月	2,679	158	714	1,483	139	161	466	279	145	261	260
計	30,463	1,798	8,418	18,053	1,779	2,157	5,965	3,135	1,726	3,124	3,083

オ フットケア外来

第 1 木曜日、第 2 第 4 火曜日の 3 日／月

H29 年度は 195 件であった。

カ 内視鏡

上部内視鏡 : 1,449 件／年

下部内視鏡 : 828 件／年

その他 (ERCP・ステント留置等) : 6 件／年

(3) 外来目標

「来て良かった」「また受診したい」といってもらえるような
安全で思いやりのある看護を提供します

ア 安全な看護の提供と心地よい対応をします

「マニュアルやルールを守り、お互いに声掛けや注意ができる環境をつくる。
常に丁寧な言葉使いと会話はゆっくり話す事を心がける」

イ 他職種の専門性をお互いに尊重します

「お互いの役割を理解、協力、コミュニケーションエラーを防ぎ患者さんに満足いく医療を提供します。」

「他職種・他施設との連携を強化し患者さんに満足ゆく看護を提供します。施設職員などの電話連絡時、相手の状況を考え応対を行い、情報の共有が統一して行う事ができるよう、継続して行く。」

ウ 専門性を活かし自己啓発に努めます

「院外・院内研修は積極的に参加する。専門分野の分散勉強会を行う」

(7) 看護教育室



看護師長（H30.3.31現在） 鈴木 三恵子

○活動内容

(1) 平成29年度のトピックス

ア 公開講座 7コース

- (ア) 感染管理
- (イ) 褥瘡対策
- (ウ) リハビリテーション
- (エ) 糖尿病ケア
- (オ) 認知症ケア
- (カ) 地域連携
- (キ) 救急処置

(2) 業務実績

ア 院内研修

(ア) 新採用職員研修及び新人看護師研修

月 日	内 容	受講者
平成29年4月3日	・辞令交付式・オリエンテーション・職員紹介 ・看護部の理念・概要・体制・組織について ・新人の心構え・服装について ・公務員としての心構え ・倫理綱領 ・三浦市の防災について	5名
4日	・情報セキュリティ ・市長講話 ・市の歴史等について(見学)	
5日	・人事諸制度(給与・服務・福利厚生) ・地方財政制度と本市の財政状況 ・市の施設について(見学)	
6日	・ラダー教育について ・固定チームナーシング	

月 日	内 容	受講者
平成29年 4 月7日	・院内の災害について ・地方自治法・地方公務員法入門	5 名
10日	・接遇（マナーと実技） ・先輩の看護観から学ぶ ・復命書・出張命令書兼旅費請求書伝票の記載について ・看護技術（包帯法等について）	
11日	・感染管理①（当院の組織について・標準予防策・感染経路予防策・手洗いと手指消毒） ・地域医療科について ・訪問診療同行（2名）病棟見学（3名）	6 名
12日	・静脈注射・静脈点滴の概念① ・フィジカルアセスメント ・電子カルテ操作	
13日	・感染管理②（留置針の使用方法・真空管採血・翼状針の使用方法） ・内視鏡見学 ・病棟見学	
14日	・医療安全について① ・高齢者のコミュニケーションについて ・接遇マニュアルについて・ロールプレイング	8 名
17日	・口腔ケアについて ・浣腸について ・感染管理③（針刺し切創・血液曝露対策・職業感染対策等について）	7 名
18日	・病棟見学 ・オムツのあて方について ・抗がん剤曝露について ・薬剤管理	5 名
19日	・外来見学 ・看護必要度について ・静脈注射・採血訓練② ・輸液ポンプ・シリンジポンプ・モニターについて	6 名
20日	・感染管理④（フォーリーカテーテルについて） ・看護記録・マニュアルについて ・緩和ケア・看取りについて	7 名

月 日	内 容	受講者
平成29年 4 月21日	・ 静脈注射・採血訓練③ ・ 訪問診療同行（2名） ・ 病棟見学（3名）	5名
25日	・ 訪問診療同行（2名） ・ 新採用職員向け給与等関係説明会	
5月11日	・ 看護フェスティバル ・ 医療安全について② ・ 救急蘇生法・AEDの使用方法	6名
6月14日	・ 3ヶ月フォローアップ研修 現在の思いについて 夜間のリーダーとは 採血・ポンプ類再チェック 急変時の看護 3ヶ月振り返り	5名
9月15日	・ 6ヶ月フォローアップ研修 ナラティブ① 看護過程の概念 6ヶ月の私へ チーム力を高めよう 6ヶ月振り返り	
12月15日	・ 9ヶ月フォローアップ研修 呼吸器の基礎知識 看護過程の展開 多重課題 9ヶ月振り返り	4名
平成30年 3 月16日	・ 12ヶ月フォローアップ研修 ナラティブ② 日勤のリーダー業務・役割について 呼吸器について	
3月28日	・ 1年の振り返りと今後の課題 発表	

（イ）クリニカルリーダー

レベル	月 日	内 容	受講者
Ⅰ―Ⅱ	平成29年 6 月 6 日	ケースレポート導入講義	6名
	9 月 4 日	ローテーション企画書提出	
	平成29年11月～ 30年 1 月	ローテーション期間 企画書をもとに行動	
	平成29年11月 9 日	ケース対象者 途中経過報告 グループワーク	
	平成30年 2 月 8 日	ケース対象者 経過最終確認 グループワーク	
	3 月15日	原稿・パワーポイント提出	
	3 月22日	ケースレポート発表	

レベル	月 日	内 容	受講者
Ⅰ－Ⅲ	平成29年 6 月15日	再構成導入講義（ウェーデンバック臨床の本質）	6 名
	9 月29日	再構成課題レポート提出「自分の心に残っている場面について」	
	10月17日	再構成レポート発表 グループワーク	
	12月22日	課題レポート提出「再構成を終えて」	
	平成30年 2 月22日	リーダーシップについて	
Ⅱ	平成29年 5 月30日 6 月 1 日	看護研究導入講義	6 名
	9 月22日10月 5 日	看護理論①	3 名
	12月20日	看護理論②発表	5 名
	平成30年 3 月 7 日	看護研究発表・原稿検討会	3 名
Ⅲ	平成29年 7 月12日	看護学生実習アドバイザーについて	5 名
	9 月14日	看護倫理①	
	11月21日	インシデント分析①	
	平成30年 1 月23日	インシデント分析②	
	2 月23日	看護倫理②	
	3 月14日	トリアージについて	
	3 月29日	院内防災訓練トリアージ	
Ⅳ	平成29年 5 月 9 日	グループワーク（各部署が目視すべき目標を考える）	8 名
	6 月 5 日	各部署の問題の抽出・分析・戦略的課題 S W O T	
	9 月27日	業務倫理①	
	11月 6 日	業務倫理②	
	平成30年 2 月 5 日	S W O T 分析 結果 グループワーク	
管理	平成29年 5 月16日	バランススコアカード	9 名
	6 月20日	ベストプラクティス	
	平成30年 3 月23日	ベストプラクティス発表	

（ウ）選択コース

コ ー ス	日 程	受講者
感染Ⅱ	①平成 29 年 6 月 16 日感染対策の重要性②9 月 29 日職業感染対策 ③11 月 27 日ノロウイルス感染対策・吐物処理演習 ④平成 30 年 1 月 5 日課題レポート提出	4 名

コ ー ス	日 程	受講者
感染Ⅲ	①平成 29 年 7 月 20 日薬剤耐性菌の基礎知識②10 月 30 日問題となる細菌感染症 1・結核菌・クロストリジウム・デフィシルなど③12 月 21 日問題となる細菌感染症 2 MDR P E S B L 産生菌など④平成 30 年 1 月 31 日課題レポート提出	4 名
看取り	①平成 29 年 5 月 31 日グリーンケアとしてのエンゼルケアメイク②9 月 26 日演習③12 月 5 日トータルペインに寄り添うコミュニケーション	8 名
災害看護	①平成 29 年 6 月 7 日当院の防災について（防災扉・スプリンクラー）②9 月 6 日当院におけるトリアージ③11 月 30 日災害の一般知識 1④30 年 2 月 15 日災害の一般知識 2	6 名
退院支援	①平成 29 年 7 月 6 日退院支援と退院調整②11 月 16 日病棟における退院支援③平成 30 年 3 月 8 日公開講座に参加しグループワーク	7 名
リンパ浮腫	①平成 29 年 6 月 28 日リンパ浮腫の定義②10 月 25 日リンパマッサージについて③平成 30 年 2 月 28 日リンパバンテージの実践	9 名

(エ) 公開講座

コ ー ス	日 程	内 容	受講者
感染管理講座	平成29年10月20日	ノロウイルスについて	14 名
	12月15日	インフルエンザについて	8 名
	2 月16日	結核について	13 名
褥瘡対策講座	平成29年 9 月28日	褥瘡ケアについて	19 名
	10月31日	褥瘡ケアに大切な体圧管理について	20 名
リハビリテーション講座	平成29年11月15日	やってみよう乗り移り	10 名
	平成30年 2 月 7 日	効果的なリハビリテーション	14 名
糖尿病ケア講座	平成29年 9 月19日	糖尿病の基礎知識	17 名
	平成30年 1 月16日	糖尿病の合併症について	11 名
認知症ケア講座	平成29年 7 月28日	認知症を知ろう	17 名
	11月24日	認知症患者の対応について 認知症患者のMR I の見方	19 名
地域連携	平成29年11月 2 日	在宅緩和ケア事例検討会①	43 名
	平成30年 3 月 8 日	在宅緩和ケア事例検討会②	24 名
救急蘇生法	平成29年 5 月24日	消防体制 一般蘇生法・A E D の使用方法について	16 名

(オ) 院内研修会・伝達講習会

月 日	研 修 内 容	受講者
平成29年4月4日	ゾラテックスについて	17名
4月25日	平成29年度新採用者向け給与等関係説明会	22名
5月11日	退院支援は人生の再構築を支援すること（オンデマンド）	24名
5月19日	化学療法ポート針固定方法	41名
5月29日	ペンニードルプラス（インスリン針）について	10名
6月8日	人工呼吸器を安全に使用するために	11名
6月21日、22日	ストーマについて	17名
6月21日	第1回接遇研修①	30名
6月26日、29日	アディボメーターの使用法・栄養アセスメント	41名
6月28日	術後せん妄について	8名
7月5日	上部消化管出血・胃カメラについて	41名
7月19日	第1回接遇研修	35名
7月27日	白内障について	16名
8月4日	モビブレップの使用法について	7名
8月23日	パルスオキシメータについて	13名
9月27日	VERAについて	9名
10月4日、11日	VERAについて	17名
10月11日	静脈血栓塞栓症について	23名
10月24日、27日	医療安全研修会①②機器の電気と安全	94名
11月13日	化学療法について①	18名
平成29年11月17日、20日、 28日	第1回感染対策講習会	92名
11月22日	肺胞の仕組みとCOPD	20名
12月1日	化学療法について②	10名
12月5日	医療安全研修③	20名
12月7日	疼痛緩和について	16名
12月12日、14日	褥瘡管理	49名
平成30年1月17日	第2回接遇研修①	17名
1月24日	献血グロベニンについて	21名
2月7日、21日	カリウム製剤について	21名
2月14日	より効果的な口腔ケアを目指そう②	14名

月 日	研 修 内 容	受講者
平成30年 2月15日、 20日、22日	ランタスXRについて	16 名
2月20日、26日	診療報酬について	57 名
2月21日	第2階接遇研修②	17 名
3月13日、15日、 19日	第2回感染対策講習会「当院におけるVREアウトブレイクの分析～この経験を今後の感染対策にどう活かすべきか～」	95 名
3月14日、20日	第2回医療安全研修「薬品・輸血に関するインシデント」	86 名

(カ) 看護助手研修

月 日	研 修 内 容	受講者
平成29年 6月 7日、13日	ギャジアップ時のポジショニング	17 名
10月18日、25日	接遇について	14 名
12月 5日	医療安全（医療機器の電気と安全）	7 名
平成30年 2月 9日、15日	感染管理（知ってよかった感染対策のピットフォール）	13 名

イ 院外研修

(ア) 出張研修・参加状況

月 日	研 修 テ ー マ	開 催 場 所	受講者
平成29年 5月30日	平成 29 年度 がんばれ新人ナース	横浜市民文化会館	5 名
5月27日～11月30日	看護実習指導者講習会	神奈川県立保健福祉 大学実践教育センタ ー	1 名
6月23日、24日	第 22 回日本緩和医療学会学術大会	パシフィコ横浜	1 名
6月18日	認定看護師のための特別研修「医の倫理を考える～オランダの安楽死事情と患者の視点から」	明治大学リバティタ ワー	1 名
11月 5日	診療・介護報酬同時改定を見据えた看護必要度ステップアップ研修	平塚共済病院	1 名
平成30年 1月 9日、12日、 17日	新人看護職員研修責任者研修	神奈川県総合医療会 館	1 名
平成30年 3月28日	平成 30 年度 介護報酬・診療報酬改定説明会	神奈川県総合医療会 館	1 名

(イ) 神奈川県看護協会 教育研修A群～D群

研 修 テ ー マ	開 催 場 所	受 講 者
看護協会教育研修A群	神奈川県総合医療会館	4名
看護協会教育研修B群	神奈川県総合医療会館	9名
看護協会教育研修C群	神奈川県総合医療会館	7名
看護協会教育研修D群	神奈川県総合医療会館	8名

(ウ) 看護管理研修会

期 間	研 修 テ ー マ	開 催 場 所	受 講 者
平成29年7月8日	平成 29 年度七市公立病院師 長・主任研修会	藤沢商工会議所（ミナパー ク6階）	16名
5月12日 ～9月16日	認定看護管理者教育課程フ ァーストレベル	国際医療福祉大学看護生涯 学習センター	中川恵
11月 ～12月（7日間）	医療安全管理者養成研修	神奈川県総合医療会館	舘林美加子
11月27日 ～12月8日	相互派遣研修	奈良県西和医療センター	山本浩文

(エ) 全国自治体病院協議会研修

期 間	研 修 テ ー マ	開 催 場 所	受 講 者
平成29年7月20日21日	看護師研修会	東京「A P 浜松町」	長谷川嘉寛
8月23日 ～25日	看護管理研修会（第1回）	東京「ベルサール神田」	原田左和子
11月29日 ～12月1日	看護管理研修会（第3回）	東京「都市センターホテル」	渡辺みゆき

(オ) 学会 研修会 シンポジウム等で講師等を行った職員

氏 名	所 属	学会等の名称	テーマ 内容
嘉山静子	看護部兼地域医 療科	横須賀市立衣笠中学校2年総合 実習	進路講座
		神奈川歯科大学短期大学部看護 学科1年	人間関係論Ⅱ

氏 名	所 属	学会等の名称	テーマ 内容
嘉山静子	看護部兼地域医療科	神奈川県看護協会 認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	総合演習 (演習指導者)
石川智子	看護部兼地域医療科	順天堂大学医学部附属静岡病院 E L N E C - J 看護師教育	エンドオブライフケアの看護 痛み・症状マネジメント等実践に必要なケア
		健康宅配便 みうらふれあいサロン	緩和ケアの紹介
		健康宅配便 (はまゆう・たんぽぽ)	病期に対応したケア
山本浩文	看護部	横浜内科学会	フットケア外来の現状と課題
		中島内科糖尿病勉強会	フットケア外来の現状と課題
萩原京子	看護部	神奈川県糖尿病療養指導士認定 機構	当院における糖尿病療養指導活動

ウ 院内発表会

(ア) 新人看護師発表会

月 日	テ ー マ	発 表 者
平成30年 3 月28日	一年の振り返りと今後の課題	4 名

(イ) ラダーⅠ～Ⅱ ケースレポート発表会

月 日	所 属	発 表 者	テ ー マ
平成30年 3 月22日	2 階病棟	飯島悠介	高齢者へのストーマ管理指導～患者と家族との関わりからコミュニケーションを考える～
	2 階病棟	鳴海芽衣	終末期がん患者～ニーズを充足し最後まで自分らしく生きるための看護～
	3 階病棟	伊藤愛	訴えの少ない高齢終末期患者に大切な看護とは
	3 階病棟	氏家弘之	終末期医療における家族支援～家族が悔いのない看取りの時期を過ごすための看護とは～
	3 階病棟	本沢志織	血糖コントロールを必要とする患者との関わり～退院後の生活を見据えた看護の重要性～
	4 階病棟	渡辺俊孝	高齢者の不安によりそう看護

(ウ) ラダーⅡ 看護研究発表会

月 日	所 属	発 表 者	テ ー マ
平成29年 4 月27日	地域医療科	益島美帆	原発性リンパ浮腫に対する複合的理学療法とその効果～安価な弾性着衣の作成～
	3階病棟	一條生久	看護師の接遇意識の向上に向けて
	4階病棟	石渡綾子	入浴後の皮膚油分・水分量変化と保温の効果

(エ) 看護研究 院外発表

月 日	開 催 地	テ ー マ	発表者
平成29年 5 月27日	第 67 回神奈川県国民健康保険団体連合会 診療施設部会研究報告	VREアウトブレイクで当院が直面した 難題 ～地域を視野に入れた感染対策の実践～	杉崎絵美
9 月20日、21日	第 57 回全国国保地域医療学会	超高齢社会と向き合う感染対策 ～VREアウトブレイクから見えた地域 を視野に入れた感染対策の実践～	杉崎絵美
11月18日	第 35 回 神奈川県看護協会横須賀支部 看護・ 介護研究発表会	医療機関から暮らしの場につなげる感染 対策 ～積極的な退院指導への導入を試みて～	杉崎絵美

エ 職場体験

月 日	体 験 者 数
平成29年11月16日、17日	衣笠中学校 9 名
平成30年 1 月24日、25日	三崎中学校 5 名
1 月18日、19日	初声中学校 3 名
1 月31日、2 月 1 日	南下浦中学校 5 名

オ 1日看護体験

月 日	体 験 者 数
平成29年 7 月25日	高校生 9 名
7 月26日	高校生 11 名
7 月27日	高校生 6 名
8 月 3 日	高校生 1 名

カ 神奈川歯科大学短期大学部看護学科実習

実 習 内 容	実 習 期 間	受 入 人 数
基礎看護学基礎Ⅱ	平成29年5月8日～5月18日（8日間）	8名
老年看護学実習Ⅲ	9月25日～10月5日（8日間）	2名
基礎看護学実習Ⅰ	10月23日～10月26日（4日間）	9名
基礎看護学実習Ⅱ	平成30年1月15日～1月25日（8日間）	12名

4 事務局



(1) 総務課

総務課長 矢尾板 昌克

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア 経営状況

平成 28 年度に 6 年ぶりに経常損益が赤字となった原因の一端である VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）のアウトブレイクが適切な感染防止対策を継続した結果、平成 29 年 4 月に収束した。

このこと及び 1 日 1 人平均入院診療費の増により、平成 29 年度は入院収益が前年度を上回った。しかしながら、給与費等の費用が増加したため、経常損益は赤字を計上した。

イ 三浦市立病院改革プランの策定

当院の経営改善は、平成 21 年 3 月に策定した三浦市立病院改革プランに基づき取り組んできたが、今後も経営改善を進めて持続可能な安定した経営基盤を確保し、地域住民の皆様に更なる信頼を受けるため、神奈川県地域医療構想との整合を踏まえて当院の役割の明確化を図った新たな三浦市立病院改革プランを策定した。

ウ 三浦市立病院運営懇話会の開催

新たな改革プランの下で取り組む経営改善などの病院運営に対して、外部の有識者や病院利用者から広く意見を聴くため、三浦市立病院運営懇話会を設置し、2 回の懇話会を開催した。

(2) 業務実績

ア 経理

(ア) 業務実績

本年度の事業収益は、2,540,990,401 円で、これに対して事業費用は、2,677,097,634 円となり、収入、支出差引き 136,107,233 円の赤字である。

事業収益 2,540,990,401 円の内容は、医業収益 2,425,203,445 円、医業外収益 115,786,956 円である。

一方、事業費用 2,677,097,634 円の内容は、医業費用 2,539,884,851 円、医業外費用 129,116,182 円、特別損失 8,096,601 円である。

(イ) 事業収益に関する事項

区分	平成 29 年度
医業収益	2,425,203,445 円
医業外収益	115,786,956 円
事業収益	2,540,990,401 円

(ウ) 事業費用に関する事項

区分	平成 29 年度
医業費用	2,539,884,851 円
医業外費用	129,116,182 円
特別損失	8,096,601 円
事業費用	2,677,097,634 円

イ 工事等

(ア) 業務実績

改良工事は、防犯カメラ録画システム設置工事を行った。

医療機器等については、X線透視装置機器、セントラルモニター(4階病棟)、整形外科用超音波画像診断装置等の整備を図った。

(イ) 改良工事の概況

工事名	工事費 (円)	竣工年月日	契約の相手方
防犯カメラ録画システム設置工事	489,240	平成 30 年 2 月 27 日	都築電気 (株) 神奈川支店

(ウ) 器械備品取得の概況 (1,000,000 円以上)

購入年月日	品名	金額 (円)	購入先
平成 29 年 7 月 11 日	X線透視装置機器	45,259,668	コニカミノルタジャパン (株)
平成 30 年 1 月 11 日	セントラルモニター(4階病棟)	11,822,436	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 30 年 1 月 22 日	整形外科用超音波画像診断装置	6,107,400	協和医科器械 (株) 横浜支店

購入年月日	品名	金額（円）	購入先
平成 30 年 2 月 8 日	臨床検査科用糖尿病検査システム	3,186,000	アルフレッサ（株）横須賀支店
平成 30 年 2 月 13 日	臨床検査科用ホルター心電図解析システム	1,759,320	（株）MMコーポレーション

(2) 医事課



医事課長 石塚 真司

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア みうら市民健康大学オープンキャンパスの開催

平成 27 年度から毎年、市内外の介護事業所等とみうら市民健康大学オープンキャンパス実行委員会を組織し、平成 29 年度も YMC A 三浦ふれあいの村で「学ぶ・遊ぶ・食べる・笑う」をテーマに「三浦市民健康大学オープンキャンパス」を開催した。当日は、台風の影響で悪天候の中、33 名の方が市内・市外から参加された。

イ 健診業務（土曜健診に向けて）

毎月第 2 土曜日に実施している土曜健診の実施回数は、平成 29 年度においては全 10 回となった。実受験者数は 99 件で、そのうちドック受診件数は 41 件となった。

ウ 「みうらホームケアネット」の基幹病院としての役割

三浦市医師会が中心となり神奈川県医師会在宅医療 ICT システム構築モデル事業として「みうらホームケアネット」の運用が平成 28 年 10 月から開始された。当院は、「みうらホームケアネット」における基幹病院として役割を担うことになり、運用開始から 1 ヶ月間の集計では、10 事業所、対象患者 16 名の参加であったが、平成 30 年 3 月末では 14 事業所、対象患者 97 名と参加者の増員に一翼を担えた。

エ ふるさと納税制度を活用した人間ドックと脳ドック

ふるさと納税制度の活用として、ドック 2 種類を返礼品として登録した。一つはふるさとで脳ドックを受診してもらうための「ふるさとで脳ドック」ともう一つは人間ドックに脳ドックの併診をセットにした「ふるさとでセットドック」の 2 種類を登録した。「ふるさとで脳ドック」については、18 件の受検があり、「ふるさとでセットドック」は 13 件*の申し込みがあった。

*13 件の申し込みは、翌年度 4 月から 5 月にドックを受検

(2) 業務実績

ア 健康診断

(ア) 三浦市集団健診

本年度は、三浦合同庁舎、南下浦市民センター及び初声市民センターの各会

場に赴き、三浦市国民健康保険の特定健診を実施した。

三浦合同庁舎 6 回、南下浦市民センター 4 回及び初声市民センター 2 回合計 12 回実施し、延べ 1,297 名の方が受診した。

(イ) 出張健診

市内医療介護福祉関係施設 3 施設で実施し、延べ 542 人の方が受診し入居者の方々と勤務されている方々を効率的に健診は受けられるよう配慮して実施した。

(ウ) 出張予防接種

インフルエンザ予防接種について官庁 1 施設、104 名の出張予防接種を実施した。

イ 施設基準

平成 29 年度中届出した施設基準

- (ア) 基本診療料 地域包括ケア入院医療管理料 1 「変更」
- (イ) 基本診療料 患者サポート体制充実加算 「変更」
- (ウ) 基本診療料 ADL 維持向上等体制加算 「変更」
- (エ) 基本診療料 退院支援加算 1 「変更」
- (オ) 基本診療料 診療録管理体制加算 2 「変更」
- (カ) 基本診療料 病棟薬剤業務実施加算 1 「変更」
- (キ) 基本診療料 医師事務作業補助体制加算 2 「変更」
- (ク) 特掲診療料 在宅緩和ケア充実診療所・病院加算 「新規」
- (ケ) 特掲診療料 運動器リハビリテーション料Ⅰ 「変更」
- (コ) 特掲診療料 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ 「変更」
- (サ) 特掲診療料 在宅がん医療総合診療料 「変更」
- (シ) 特掲診療料 がん患者指導管理料 1 「変更」
- (ス) 特掲診療料 がん患者指導管理料 2 「新規」
- (セ) 特掲診療料 院内トリアージ実施料 「変更」
- (ソ) 特掲診療料 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算 「変更」
- (タ) 特掲診療料 糖尿病透析予防指導管理料 「辞退」
- (チ) 入院時食事療養Ⅰ・入院時生活療養Ⅰ 「変更」

(3) 栄養課



栄養課長 矢尾板 昌克

○活動状況

(1) 平成 29 年度のトピックス

ア 人員体制

4 月から 1 名増員となり管理栄養士 3 名体制(うち非常勤 1 名)となった。

イ 給食業務委託

公募型プロポーザルの結果、11 月 1 日から日清医療食品株式会社と 3 年間の契約を締結した。これで同社への給食業務委託は 7 年目に入った。

ウ 嚥下食の見直し

定期的を実施している職員による病院食の検食について、嚥下食を中心に行った。多職種からの様々な意見を参考に、食事内容の見直し、改善を図った。

エ 横須賀地区嚥下調整食分類早見集の参画

横須賀地区栄養士連絡協議会が日本摂食嚥下リハビリテーション学会分類 2013 に沿って作成している各施設の食事形態をマッピングした「横須賀地区嚥下調整食分類早見集」に参画し、地域における管理栄養士・栄養士及び多職種共同の対象者支援に取り組んだ。

(2) 業務実績

ア 栄養食事指導実績数表

(単位：件)

年度 区分	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
入院患者	48	53	96
外来患者	124	80	113
合計	172	133	209

イ 年度別食数表

(単位：食)

年度 区分		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
患者給食数	一般食	69,286	73,365	73,498
	特別食	23,651	21,574	19,347
	経管栄養	3,181	2,496	3,262
	小計	96,118	97,435	96,107
患者外給食数		2,286	2,459	2,274
合計		98,404	99,894	98,381

ウ 平成 29 年度 月別食数表

(単位：食)

区分 月	患者給食数				患者外 給食数	合計
	一般食	特別食	経管栄養	小計		
4 月	5,849	1,560	189	7,598	180	7,778
5 月	5,557	1,672	360	7,589	194	7,783
6 月	5,080	1,655	279	7,014	180	7,194
7 月	6,848	829	154	7,831	216	8,047
8 月	6,592	1,348	99	8,039	192	8,231
9 月	6,611	1,314	195	8,120	184	8,304
10 月	5,904	1,348	352	7,604	191	7,795
11 月	5,944	1,447	295	7,686	185	7,871
12 月	5,892	1,733	284	7,909	200	8,109
1 月	6,283	2,177	332	8,792	190	8,982
2 月	6,038	2,212	343	8,593	176	8,769
3 月	6,900	2,052	380	9,332	186	9,518
合計	73,498	19,347	3,262	96,107	2,274	98,381

Ⅲ 委員会の状況

1 三浦市立病院リスクマネジメント委員会



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ア 医療事故防止対策に関すること。
- イ 医療事故の分析及び再発防止策に関すること。
- ウ 訴訟及び和解に関すること。
- エ その他医療事故に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 4 月 25 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・リスクマネージャーの変更について報告
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・Ｌ字柵購入について協議
- c 参加人数 12 名

イ 第２回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 5 月 23 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・介護柵の管理運用について協議
 - ・患者誤認防止策について協議
- c 参加人数 12 名

ウ 第3回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年6月27日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・ADLと転倒転落の調査研究について報告
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・医療安全管理指針制定について協議
- c 参加人数 12名

エ 第4回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年7月25日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・転倒予防策についての協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 12名

オ 第5回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年8月22日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 12名

カ 第6回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年9月26日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・医療安全管理室で所管するマニュアルの協議
- c 参加人数 12名

キ 第7回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年10月24日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議

- ・インシデントレポートの改定について協議
- c 参加人数 13 名

ク 第 8 回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 11 月 28 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・FAX 誤送信について報告
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
 - ・平成 29 年度第 1 回医療安全管理研修について報告
- c 参加人数 12 名

ケ 第 9 回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 12 月 26 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・FAX 誤送信予防マニュアルについての協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 14 名

コ 第 10 回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 1 月 26 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 12 名

サ 第 11 回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 2 月 27 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・防犯カメラについての協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 13 名

シ 第 12 回「リスクマネジメント委員会」

平成 29 年 2 月 28 日 三浦市立病院会議室

a 開催日時及び場所

平成 30 年 3 月 27 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

- ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- ・ADL と調査研究について報告

c 参加人数 13 名

② 研修

ア 第 1 回 院内研修

a 開催日時及び場所

平成 29 年 10 月 24 日 三浦市立病院会議室

平成 29 年 10 月 27 日 三浦市立病院会議室

平成 29 年 12 月 5 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

テーマ「医療機器の電気と安全」

講師 日本光電株式会社 阿部

c 参加人数 112 名

イ 第 2 回 院内研修

a 開催日時及び場所

平成 30 年 3 月 14 日 三浦市立病院地下食堂

平成 30 年 3 月 24 日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

テーマ「薬品と輸血に関するインシデント」

講師 医療安全管理室職員 園田恵美子

c 参加人数 86 名

③ その他の活動

当院における、平成 29 年度のインシデント数は下記のとおりです。

平成 29 年度 月別 インシデント事例及びアクシデント報告数

レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0				2	1	2				1	1		7
1	11	3	13	15	9	15	11	11	7	8	5	10	118
2	3	3	9	7	13	4	2	4	7	4	7	11	74
3a	1					1	1		2	1	1		7
3b			1	1									2
4a													0
4b													0
5													0
合計	15	6	23	25	23	22	14	15	16	14	14	21	208

平成 29 年度 分類別 インシデント事例及びアクシデント報告数

事象区分／レベル	レベル								合計	構成比	備考
	0	1	2	3a	3b	4a	4b	5			
転倒転落		41	16	2	1				60	28.8%	
薬品・輸血	1	15	23	1					40	19.2%	
チューブ類管理		8	27	2					37	17.8%	
療養関連	1	21	1	1	1				25	12.0%	
診療情報管理	2	10							12	5.8%	
リハビリ	1		3						4	1.9%	
検査	1	7		1					9	4.3%	
オーダー・指示出し等		2	2						4	1.9%	情報伝達も含む
無断離院		3							3	1.4%	
院内感染		6	1						7	3.4%	
治療・処置・手術・麻酔	1	2	1						4	1.9%	
その他		3							3	1.4%	
合計	7	118	74	7	2	0	0	0	208	100.0%	

当院における、インシデント・アクシデントのレベル分類基準

(レベル 0 ～レベル 3 a =インシデントとし、レベル 3 b ～レベル 5 はアクシデントとする。)

レベル	傷害の内容		
	傷害の継続性	傷害の程度	具体的な内容
レベル 0	－	－	エラーや医薬品、医療用具等の不具合が見られたが、患者には実施はされなかった。
レベル 1	なし	－	患者への実害は、無かった場合。(何らかの影響の可能性は、否定できない)
レベル 2	一過性	軽度	処置や治療は行わなかった場合。(患者観察の強化、V S の軽度変化等)
レベル 3a	一過性	中等度	簡単な治療等の条件が生じた場合。(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤投与等)
レベル 3b	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した場合。(V S の高度変化、手術、入院日数延長、骨折等)
レベル 4a	永続的	軽度～中等度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害等は伴わない場合。
レベル 4b	永続的	中等度～高度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害等が伴う場合。
レベル 5		死亡	事故が死因となった場合。(原疾患の自然経過によるものを除く)

* V S =バイタルサイン (血圧・心拍数・体温・呼吸数・意識レベル)

2 三浦市立病院感染対策委員会（I C C）



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（1）設置目的

当委員会は、医療安全管理室が所掌し、医療関連感染に対する感染防止対策に関し、組織を横断して行うべき施策の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため設置されているが、院内にとどまらず地域の感染防止対策にも注力し、次に掲げる任務を遂行している。

ア 院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応に関すること。

イ 院内感染の発生原因の分析、改善策の立案、実施及び見直し並びに病院職員に対する周知に関すること。

ウ 地域の医療機関、保健福祉施設等からの医療関連感染に関する支援に関すること。

エ 感染対策チーム（I C T）への助言及び支援に関すること。

オ その他感染対策に関すること。

当委員会の下部組織として、医療関連感染対策上の実践チームである感染対策チーム（I C T）及び臨床現場の役割モデルとしての感染対策リンクナース会を設置し、院内感染対策や職業感染防止などに関連する知識、技術等の職員への周知を実施している

（2）活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 29 年 4 月 7 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M 一覧 3 月（2017 年）
- ・ インフルエンザ 3 月（2017 年）
- ・ V R E 検出経過（2017 年 3 月）
- ・ 抗 M R S A 薬品使用患者リスト（H29. 3）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H29. 3）
- ・ H29 抗インフルエンザ薬使用人数
- ・ 抗菌薬使用量（H28. 3）

- ・感染症患者/職員報告
- ・VREに関する対応について
- ・VRE感染の沈静化について
- ・VRE保菌患者対応専従化業務範囲の拡大について
- ・3月29日以降の病棟管理体制等について
- ・VRE感染の収束について
- ・面会者の手指衛生について
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・平成28年度B型肝炎ワクチン接種報告
- ・病院職員及び委託職員に対するB型肝炎ワクチン接種について
- ・平成28年度第2回感染対策講習会参加状況最終報告
- ・平成28年度感染管理報告
- ・感染防止対策カンファレンス実施報告

c 出席人数 10人

イ 第2回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成29年5月10日（水） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧4月（2017年）
- ・VRE検出経過（2017年4月）
- ・VREに関する対応
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト（H29.4）
- ・使用制限抗菌薬使用患者リスト（H29.4）
- ・抗菌薬使用量（H29.4）
- ・感染症患者/職員報告
- ・4月12日以降の病棟管理体制等について
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・三浦市立病院感染対策委員会（ICC）設置要領等の一部改正について
- ・三浦市立病院感染管理体制組織図の一部改正について
- ・感染防止対策加算診療報酬報告
- ・患者ファイルの海外渡航歴申出に関する掲示について

c 出席人数 9人

ウ 第3回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 29 年 6 月 2 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M 一覧 5 月（2017 年）
- ・ V R E 検出経過（2017 年 5 月）
- ・ 抗 M R S A 薬品使用患者リスト（H29. 5）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H29. 5）
- ・ 抗菌薬使用量（H29. 5）
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 針刺し切創血液汚染事象報告
- ・ V R E の対応について
- ・ 手指消毒薬使用状況報告
- ・ 内視鏡で使用するマウスピースの単回使用について
- ・ 滅菌工程のフローチャートの制定について

c 出席人数 10 人

エ 第 4 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 29 年 7 月 4 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議 事

- ・ M 一覧 6 月（2017 年）
- ・ V R E 検出経過（2017 年 6 月）
- ・ V R E に関する対応
- ・ 抗 M R S A 薬品使用患者リスト（H29. 6）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H29. 6）
- ・ 抗菌薬使用量（H29. 6）
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 感染管理情報（針刺し切創血液汚染）
- ・ 手指消毒薬使用状況報告
- ・ 健康宅配便について

c 出席人数 10 人

オ 第 5 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 29 年 8 月 4 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M 一覧 7 月（2017 年）

- ・ V R E 検出経過（2017 年 7 月）
- ・ V R E 陽性者の推移/検査履歴
- ・ 抗MR S A 薬品使用患者リスト（H29. 7）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H29. 7）
- ・ 抗菌薬使用量（H29. 7）
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 手指消毒薬使用状況報告
- ・ 面会制限の表示について
- ・ 滅菌工程における B I 陽性判定報告
- ・ 滅菌工程における B I 陽性報告書について
- ・ 健康宅配便、横須賀市院内感染ネットワーク合同カンファレンス及び地域連携相互評価について

c 出席人数 9 人

カ 第 6 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 29 年 9 月 5 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議 事

- ・ M 一覧 8 月（2017 年）
- ・ V R E 検出経過（2017 年 8 月）
- ・ V R E 陽性者の推移/検査履歴
- ・ 抗MR S A 薬品使用患者リスト（H29. 8）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H29. 8）
- ・ 抗菌薬使用量（H29. 8）
- ・ 感染症患者報告/職員報告
- ・ 手指消毒薬使用状況報告
- ・ 横須賀市院内感染ネットワーク合同カンファレンス報告
- ・ 滅菌工程における B I 陽性判定報告
- ・ 平成 30 年度新型インフルエンザ等対策医療機器整備費補助金について
- ・ 全国国保地域医療学会及び健康宅配便について

c 出席人数 11 人

キ 第 7 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 29 年 10 月 6 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M一覧 9 月（2017 年）
- ・ V R E 検出経過（2017 年 9 月）
- ・ 抗MR S A 薬品使用患者リスト（H29. 9）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H29. 9）
- ・ 抗菌薬使用量（H29. 9）
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 手指消毒薬使用状況報告
- ・ 滅菌工程における B I 陽性判定報告
- ・ 平成 29 年度医療法第 25 条第 1 項に基づく病院立入検査について
- ・ 消毒・滅菌マニュアルの策定について
- ・ 抗菌薬適正使用マニュアルの策定について
- ・ 麻疹（疑いを含む）患者対応フローチャートの一部改正について
- ・ 食中毒対応フローの一部改正について
- ・ 平成 30 年度新型インフルエンザ等対策医療機器整備費補助金について
- ・ 新型インフルエンザ等感染症患者対応のモデルケースについて
- ・ 全国国保地域医療学会及び健康宅配便について

c 出席人数 11 人

ク 第 8 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 29 年 11 月 9 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M一覧 10 月（2017 年）
- ・ V R E 検出経過（2017 年 10 月）
- ・ 抗MR S A 薬品使用患者リスト（H29. 10）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H29. 10）
- ・ 抗菌薬使用量（H29. 10）
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 結核患者の状況報告
- ・ 手指消毒薬使用状況報告
- ・ インフルエンザの流行に伴う面会制限の基準及びインフルエンザの流行に伴う面会制限の基準に関する事務取扱いについての制定について
- ・ 新型インフルエンザ等感染症患者対応のモデルケースについて
- ・ 平成 27 年度三浦市立病院感染対策委員会年報について
- ・ 公開講座及び感染対策講習会について

c 出席人数 8 人

ケ 第9回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成29年12月8日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧11月（2017年）
- ・VRE検出経過（2017年11月）
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト（H28.11）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H28.11）
- ・抗菌薬使用量（H28.11）
- ・感染症患者/職員報告
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・結核患者接触者リストについて
- ・陰圧環境の確認等について
- ・感染対策講習会及び公開講座について
- ・VRE既往歴のある患者の対応について

c 出席人数 11人

コ 第10回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成30年1月5日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧12月（2017年）
- ・VRE検出経過（2017年12月）
- ・インフルエンザ（2017年12月）
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト（H28.12）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H28.12）
- ・抗菌薬使用量（H28.12）
- ・感染症患者/職員報告
- ・風しん及び百日咳に関する感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行等について
- ・結核の接触者健康診断について
- ・エピネット日本版について
- ・手指消毒薬使用状況報告
- ・感染対策講習会及び公開講座について

c 出席人数 9人

サ 第 11 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 30 年 2 月 2 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M 一覧 1 月（2018 年）
- ・ V R E 検出経過（2018 年 1 月）
- ・ インフルエンザ 1 月（2018 年 1 月）
- ・ 抗 M R S A 薬品使用患者リスト（H30. 1）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H30. 1）
- ・ 抗菌薬使用量（H30. 1）
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 抗菌薬適正使用ハンドブックの策定及び抗菌薬適正使用マニュアルの一部改訂について
- ・ 使用制限抗菌薬使用届出書の一部改訂について
- ・ インフルエンザの流行に伴う面会制限基準に関する報告
- ・ 平成 29 年度 B 型肝炎ワクチン接種報告及び平成 29 年度流行性ウイルス性疾患ワクチン接種報告
- ・ 流行性ウイルス性疾患及び B 型肝炎に関する抗体獲得状況の提出について
- ・ 手指消毒薬使用状況報告
- ・ 公開講座及びカンファレンスについて

c 出席人数 10 人

シ 第 12 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 30 年 3 月 2 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M 一覧 2 月（2018 年）
- ・ V R E 検出経過（2018 年 2 月）
- ・ インフルエンザ 2 月（2018 年）
- ・ 抗 M R S A 薬品使用患者リスト（H30. 2）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H30. 2）
- ・ 抗菌薬使用量（H30. 2）
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 結核患者接触者リストについて
- ・ 感染症法に基づく医師の届出について
- ・ 携帯用手指消毒薬について

- ・手指消毒薬使用状況報告
 - ・施設基準等に係る適時調査について
 - ・感染防止対策カンファレンス実施報告
 - ・公開講座及び感染対策講習会について
- c 出席人数 9人

② 研修

ア 院内全体研修

- a 平成29年11月17日（金）、20日（月）及び28日（火）
「平成29年度 第1回 感染対策講習会」
対象者：病院職員
テーマ：「インフルエンザの予防と対策」
講師：ICT 島崎時朗、長谷川澄子、杉崎絵美
参加者：173名
- b 平成30年3月13日（火）、15日（木）及び19日（月）
「平成29年度 第2回 感染対策講習会」
対象者：病院職員
テーマ：「当院におけるVREアウトブレイクの分析～この経験を今後の感染対策にどう活かすべきか～」
講師：ICT 杉崎絵美
参加者：162名

イ 感染対策公開講座

- a 平成29年10月20日（金）
テーマ：「ノロウイルスについて」
参加者：14名（院内7名・院外7名）
- b 平成29年12月15日（金）
テーマ：「インフルエンザについて」
参加者：8名（院内5名・院外3名）
- c 平成30年2月16日（金）
テーマ：「結核について」
参加者：13名（院内10名・院外3名）
・インフルエンザ対応について

- ・手指消毒薬使用状況報告

ウ 感染対策出張講座（健康宅配便）

- a 平成 29 年 7 月 10 日（月）・11 日（火） 会場：パシフィック・ホスピタル
対象者：病院職員
テーマ：「VRE を正しく理解する」
参加者：149 名

- b 平成 29 年 9 月 15 日（金） 会場：遊楽の丘
対象者：施設職員
テーマ：「ノロウイルス・疥癬・VRE などの感染予防とまん延防止」
参加者：26 名

- c 平成 29 年 9 月 12 日（火） 会場：南下浦市民センター
対象者：みうらふれあいサロン参加者
テーマ：「感染症予防について」
参加者：8 名

- d 平成 29 年 9 月 25 日（月） 会場：初声市民センター
対象者：みうらふれあいサロン参加者
テーマ：「感染症予防について」
参加者：6 名

- e 平成 29 年 9 月 26 日（火） 会場：上宮田県営集会所
対象者：みうらふれあいサロン参加者
テーマ：「感染症予防について」
参加者：13 名

③ その他の活動

ア 感染防止対策カンファレンス

- a 平成 29 年 5 月 12 日（金）「感染防止対策合同カンファレンス」
会場：横須賀共済病院
参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病院
- b 平成 29 年 7 月 7 日（金）「感染防止対策合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病院

c 平成 29 年 9 月 1 日（金）「感染防止対策合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病院

d 平成 29 年 11 月 10 日（金）「感染防止対策合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病院

e 平成 30 年 1 月 12 日（金）「感染防止対策合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、
パシフィック・ホスピタル、神奈川歯科大学附属病院、三浦市立病院

f 平成 30 年 2 月 26 日（月）「感染防止対策カンファレンス」

会場：三浦市立病院

参加施設：パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

g 平成 30 年 3 月 12 日（月）「感染防止対策カンファレンス」

会場：パシフィック・ホスピタル

参加施設：パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

イ 地域連携相互評価

a 平成 29 年 11 月 10 日（金）「感染防止対策地域連携相互評価」

会場：横須賀共済病院

評価施設：三浦市立病院

b 平成 29 年 12 月 1 日（金）「感染防止対策地域連携相互評価」

会場：三浦市立病院

評価施設：横須賀共済病院

ウ サーベイランス

a 厚生労働省サーベイランス事業（JANIS）全入院患者部門

目的：本サーベイランスの目的は、全入院患者を対象として主要な薬剤耐性菌による感染症患者の発生率に関するデータを継続的に収集・解析し、医療機関における薬剤耐性菌感染症の発生状況を明らかにすることである。

平成 29 年 薬剤耐性菌感染症患者及び罹患率（‰）

区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
感染症患者数	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
MRSA	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
VRE	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MDRP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PRSP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VRSA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MDRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MRSA 罹患率(‰)	0.00	3.00	3.23	3.47	0.00	0.00	0.00	2.65	0.00	0.00	0.00	0.00
自施設 年間罹患率(‰)	1.31											
対象医療機関全体 MRSA 年間罹患率(‰)	4.26											

感染症患者＝（新規感染症患者数）＋（継続感染症患者数）

罹患率（‰）＝（新規感染症患者数）÷（総入院患者数－継続感染症患者数）×1000

対象医療機関 MRSA 罹患率（‰）は、平成 29 年 1 月～12 月における全集計対象医療機関のうち 200 床未満である 217 施設の罹患率（‰）

b 厚生労働省サーベイランス事業（JANIS）SSI 部門

目的：本サーベイランスの目的は、術後に発生する手術部位感染（SSI）のリスク因子ごとの発生率やその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、医療機関における SSI の発状況を明らかにすることである。

平成 29 年 手術件数及び SSI 発生率

手術手技 コード	手術手技	自施設		対象医療機関	
		SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率	SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率
CHOL	胆嚢手術	0/2	0.0	833/28,090	3.0
COLO	大腸手術	0/9	0.0	5,163/46,244	11.2

手術手技 コード	手術手技	自施設		対象医療機関	
		SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率	SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率
GAST-D	幽門側胃切除	0/1	0.0	682/9,787	7.0
GAST-O	胃手術	0/1	0.0	399/5,295	7.5
HER	ヘルニア手術	0/6	0.0	118/18,579	0.6
REC	直腸手術	0/4	0.0	2,288/16,542	13.8
FX	骨折の観血的整復術	0/25	0.0	146/19,726	0.7
BRST	乳房切除術	0/2	0.0	114/7,334	1.6

対象医療機関は、平成 29 年 1 月 1 日～12 月 31 日における集計対象医療機関 772 件の SSI 発生率（％）

SSI 発生率（％）＝（集計対象医療機関の SSI 件数合計）÷（集計対象医療機関の手術件数合計）×100

c 厚生労働省サーベイランス事業（JANIS）検査部門

目的：本サーベイランスの目的は、細菌検査により各種検体から検出される主要な細菌の分離頻度及びその抗菌薬感受性を継続的に収集・解析し、医療機関における主要菌種・主要薬剤耐性菌の分離状況を明らかにすることである。

平成 29 年 特定の耐性菌の分離患者数及び分離率

区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
MRSA 対象医療機関 9.87%	2 4.44%	7 12.5%	6 13.95%	4 9.09%	4 9.09%	0 0.00%	3 5.88%	4 7.69%	1 1.56%	5 7.94%	6 13.04%	8 14.04%
VRSA 対象医療機関 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
VRE 対象医療機関 0.01%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
PRSP 対象医療機関 0.38%	0 0.00%	1 1.79%	0 0.00%	0 0.00%	1 2.27%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
MDRP 対象医療機関 0.07%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
MDRA 対象医療機関 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
CRE 対象医療機関 0.13%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カルバペネム耐性 緑膿菌 対象医療機関 1.07%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
第三世代セファロス ポリン耐性肺炎桿菌 対象医療機関 0.48%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
第三世代セファロス ポリン耐性大腸菌 対象医療機関 3.03%	0 0.00%	0 0.00%	3 6.98%	0 0.00%	1 2.27%	2 4.26%	2 3.92%	4 7.69%	1 1.56%	2 3.17%	1 2.17%	4 7.02%
フルオロキノロン 耐性大腸菌 対象医療機関 6.91%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

分離率 (%) = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

対象医療機関分離率 (%) は、平成 29 年 1 月～12 月における全集計対象医療機関のうち 200 床未満である 483 施設の分離率 (%)

対象医療機関分離率 (%) = (対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

平成 29 年 主要菌の分離患者数と分離率

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
<i>S. aureus</i> 対象医療機関 17.33%	7 15.56%	15 26.79%	12 27.91%	8 18.18%	11 25.0%	5 10.64%	6 11.76%	8 15.38%	4 6.25%	9 14.29%	7 15.22%	17 29.82%
<i>S. epidermidis</i> 対象医療機関 2.37%	0 0.00%	0 0.00%	2 4.65%	0 0.00%	2 4.55%	0 0.00%	0 0.00%	4 7.69%	2 3.13%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%
<i>S. pneumoniae</i> 対象医療機関 1.28%	0 0.00%	1 1.79%	1 2.33%	0 0.00%	1 2.27%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.92%	0 0.00%	1 1.59%	1 2.17%	0 0.00%
<i>E. faecalis</i> 対象医療機関 4.56%	1 2.22%	2 3.57%	1 2.33%	0 0.00%	1 2.27%	1 2.13%	4 7.84%	3 5.77%	0 0.00%	3 4.76%	2 4.35%	0 0.00%
<i>E. faecium</i> 対象医療機関 1.52%	0 0.00%	1 1.79%	1 2.33%	1 2.27%	1 2.27%	1 2.13%	0 0.00%	1 1.92%	0 0.00%	1 1.59%	0 0.00%	0 0.00%
<i>E. coli</i> 対象医療機関 16.56%	3 6.67%	8 14.29%	5 11.63%	8 18.18%	9 20.45%	10 21.28%	8 15.68%	9 17.31%	2 3.13%	9 14.29%	4 8.7%	10 17.54%
<i>K. pneumoniae</i> 対象医療機関 7.48%	2 4.44%	3 5.36%	3 6.98%	2 4.55%	2 4.55%	2 4.26%	5 9.8%	2 3.85%	4 6.25%	6 9.52%	3 6.52%	7 12.28%
<i>Enterobacter. spp</i> 対象医療機関 3.37%	4 8.89%	1 1.79%	1 2.33%	3 6.82%	0 0.00%	3 6.38%	2 3.92%	7 13.46%	3 4.69%	3 4.76%	1 2.17%	0 0.00%
<i>S. marcescens</i> 対象医療機関 1.94%	1 2.22%	0 0.00%	1 2.33%	1 2.27%	0 0.00%	0 0.00%	2 3.92%	0 0.00%	2 3.13%	0 0.00%	0 0.00%	2 3.51%

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
<i>P. aeruginosa</i>	3	6	2	1	2	3	1	8	7	8	6	5
対象医療機関 9.41%	6.67%	10.71%	4.65%	2.27%	4.55%	6.38%	1.96%	15.38%	10.94%	12.7%	13.04%	8.77%
<i>Acinetobacter</i>	1	1	1	0	0	1	1	2	0	1	0	0
<i>ssp.</i>	2.22%	1.79%	2.33%	0.00%	0.00%	2.13%	1.96%	3.85%	0.00%	1.59%	0.00%	0.00%
対象医療機関 1.10%												

分離率（％）＝（対象菌の分離患者数）÷（検体提出患者数）×100

対象医療機関分離率（％）は、平成 29 年 1 月～12 月における全集計対象医療機関のうち 200 床未満である 483 施設の分離率（％）

対象医療機関分離率（％）＝（対象医療機関の対象菌の分離患者数合計）÷（対象医療機関の検体提出患者数合計）×100

エ インフルエンザの流行に伴う面会制限の基準の作成

例年、冬季を中心に流行する季節性インフルエンザについて、早期対応の徹底を行うことによって院内での感染拡大を防止する目的で、面会制限の基準を作成し運用を開始した。

3 三浦市立病院褥瘡対策委員会



委員長 石田 良太（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

褥瘡の予防等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報の共有及び実施のため、三浦市立病院褥瘡対策委員会を設置する。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 5 月 11 日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

褥瘡回診の実施について

創管理やポジショニングについて

昨年度の振り返り

c 参加人数 5 名

イ 第２回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 6 月 13 日 三浦市立病院 DPC 室

b 活動内容

褥瘡回診について（NST 対象者）

褥瘡発生状況報告

目標設定（予防ケアの取り組み）

c 参加人数 7 名

ウ 第３回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 7 月 11 日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

褥瘡勉強会について

エアマットレスの使用状況の確認

c 参加人数 9名

エ 第4回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年9月12日 三浦市立病院DPC室

b 活動内容

褥瘡発生状況報告

褥瘡患者の管理方法について

褥瘡の公開講座について（講師：長島）

c 参加人数 6名

オ 第5回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年10月10日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

褥瘡発生状況報告

褥瘡回診の基準（ラウンドの方法）

公開講座について「褥瘡対策・ポジショニングについて」

c 参加人数 9名

カ 第6回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年11月14日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

褥瘡発生状況報告

エアマットレスの使用状況の確認（管理方法）

枕の取り扱い（管理方法）

院内研修の実施依頼について

c 参加人数 9名

キ 第7回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年12月13日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

褥瘡発生状況報告

エアマットレスの使用状況の確認

新規の褥瘡発生者や継続して治療を行っている患者について

枕の管理方法

院内研修（褥瘡評価DESIGN-R）

c 参加人数 6名

ク 第8回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年2月13日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

褥瘡発生状況報告

エアマットレスの使用状況の確認

適時調査について

褥瘡対象者の管理について（回診について）

DESIGN-R

c 参加人数 6名

ケ 第9回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年3月13日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

褥瘡の発生状況報告

エアマットレスの使用状況の確認

褥瘡回診

診療報酬改定（スキンテア）

適時調査での指摘について（マニュアルの見直し）

院内研修の企画検討（公開講座について）

c 参加人数 8名

褥瘡持ち込みと褥瘡院内発生数・率

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
褥瘡持ち込み	6	6	5	7	9	12	10	5	2	5	5	6
褥瘡院内発生	4	3	3	3	3	2	0	2	2	4	2	0
合計	10	9	8	10	12	14	10	7	4	9	7	6
病床数全体	95.5	97.5	91.1	112.2	103.9	107.9	96.0	106.0	104.3	113.6	126.2	121.5
持ち込み率	6.3%	6.2%	5.5%	6.2%	8.7%	11.1%	10.4%	4.7%	1.9%	4.4%	4.0%	4.9%
発生率	4.2%	3.1%	3.3%	2.7%	2.9%	1.9%	0.0%	1.9%	1.9%	3.5%	1.6%	0.0%

褥瘡持ち込み率 平均 6.2%

褥瘡発生率 平均 2.2%

② 研修

ア 第1回 院内全体研修

a 開催日時及び場所

平成29年12月12日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

テーマ「褥瘡研修①DESIGN-R」

講師 マルホ株式会社

c 参加人数 33名

イ 第2回 院内全体研修

a 開催日時及び場所

平成29年12月14日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

テーマ「褥瘡研修②DESIGN-R」

講師 マルホ株式会社

c 参加人数 16名

ウ 第1回 公開講座

a 開催日時及び場所

平成29年9月28日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

テーマ「褥瘡ケアについて」

講師 長島 好美

エ 第2回 公開講座

A 開催日時及び場所

平成29年10月31日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

テーマ「褥瘡ケアに大切な体圧管理について」

講師 長島 好美

③ その他

各病棟 褥瘡患者の回診

エアマットレスの使用状況の確認

a 開催日

第1・3月曜日 15時30分～

b 場所

各病棟

c 活動内容

(a) 褥瘡のある患者の回診を行い、適切な治療が行われること。

(b) 記録を残し、情報を共有すること。

d 参加人数

医師 1名 看護師（各部署）

4 三浦市立病院接遇向上委員会



委員長 渡辺 みゆき（看護師長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

（設置）

接遇の向上に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院接遇向上委員会を設置する。

（所掌事項）

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な審議、決定、情報交換及び施策を行う。

- ア 相手を大切に思う心を表す対応に関すること。
- イ 表情、言葉づかい、身だしなみ及び態度に関すること。
- ウ 信頼、安心感、納得及び癒しを満たす対応に関すること。
- エ 質の高いサービスに関すること。
- オ 接遇研修に関すること。
- カ その他接遇に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 29 年 4 月 18 日 地下食堂兼会議室
- b 活動内容
「三浦市立病院やさしい接遇マニュアル」改定案について審議
- c 参加人数 8 名

イ 第２回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 29 年 5 月 17 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
今年度の班分けについて（アンケート班・ポスター班・チェックリスト班）

各班から前年度の反省について
接遇マニュアルの改訂について
司会・書記について
院内ラウンドについて
院内接遇研修について：議題「患者接遇マナー」

c 参加人数 5名

ウ 第3回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成29年6月21日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

接遇ラウンドの報告

各班からの報告 年間目標発表

接遇マニュアルの改訂

接遇委員会後に院内研修1回目①

c 参加人数 7名

エ 第4回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成29年7月19日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

院内ラウンドの報告・各班からの報告

接遇マニュアルの改訂

接遇委員会後に院内研修1回目②

c 参加人数 6名

オ 第5回「接遇向上委員会」

a 開催日及び場所

平成29年9月20日 三浦市立病院会議室

b 活動内容

やさしい接遇マニュアルについて改訂報告

各班からの報告

上半期院内接遇自己チェックリスト配布

c 参加人数 7名

カ 第6回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 29 年 10 月 17 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
各班からの報告
上半期院内接遇自己チェックリスト集計・結果報告
- c 参加人数 7 名

キ 第 7 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 29 年 11 月 15 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
接遇マニュアル内容再検討
- c 参加人数 6 名

ク 第 8 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 29 年 12 月 27 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
接遇マニュアルの改訂について
院内接遇研修について：議題「チェックリストの結果を考える」
病棟ナースステーションテーブル配置変更
- c 参加人数 6 名

ケ 第 9 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 30 年 1 月 17 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
接遇委員会後に院内研修 2 回目①
- c 参加人数 6 名

コ 第 10 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 30 年 2 月 21 日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
 接遇ラウンド報告・各班の活動報告
 下半期院内接遇自己チェックリスト配布
- c 参加人数 6名

サ 第11回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
 平成30年3月14日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 各班の活動報告
 下半期院内接遇自己チェックリスト集計・結果報告
 次年度の全体研修時期（案）
- c 参加人数 7名

② 研修

ア 第1回①「患者接遇マナー」

- a 開催日及び場所
 平成29年6月21日 三浦市立病院会議室
- b 講師
 三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）
 渡辺みゆき
- c 参加人数 30名

イ 第1回②「患者接遇マナー」

- a 開催日及び場所
 平成29年7月19日 三浦市立病院会議室
- b 講師
 三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）
 吉田朱里
- c 参加人数 35名

ウ 第2回①「チェックリストの結果を考える」

- a 開催日及び場所
 平成30年1月17日 三浦市立病院会議室
- b 講師
 三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）

渡辺みゆき

c 参加人数 28 名

エ 第2回②「チェックリストの結果を考える」

a 開催日及び場所

平成 30 年 2 月 21 日 三浦市立病院会議室

b 講師

三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）

吉田朱里

c 参加人数 17 名

5 三浦市立病院NST委員会



委員長 和田 博雄（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施すること等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院NST委員会を設置する。

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ① 適切な栄養管理法の選択に関すること。
- ② 適切かつ質の高い栄養管理の提供に関すること。
- ③ 早期栄養障害の発見及び早期栄養療法の開始に関すること。
- ④ 栄養療法による合併症の予防に関すること。
- ⑤ 疾患罹患率及び死亡率の減少に関すること。
- ⑥ 病院スタッフへの栄養管理に関する知識の啓蒙及び修得に関すること。
- ⑦ 医療安全管理の確立及びリスクの回避に関すること。
- ⑧ 栄養素材及び資材の適正使用による経費削減に関すること。
- ⑨ 在院日数の短縮及び入院費の節減に関すること。
- ⑩ 在宅治療症例の再入院及び重症化の抑制に関すること。
- ⑪ その他栄養管理に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回「NST委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 5 月 11 日 三浦市立病院地下食堂

b 活動内容

NST回診状況報告

NST 介入の流れ

栄養スクリーニングの測定方法

研修会の企画検討

c 参加人数 5 人

イ 第2回「NST委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年6月13日 三浦市立病院DPC室
- b 活動内容
勉強会の予定（アボットジャパン）
アディポメーターの使用について・運用について
委員会メンバーの役割について
摂食機能訓練の処方箋に関して
- c 参加人数 7人

ウ 第3回「NST委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年7月11日 三浦市立病院地下食堂
- b 活動内容
アボット栄養アセスメントキットの使用方法
モニタリングの方法について
- c 参加人数 9人

エ 第4回「NST委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年9月12日 三浦市立病院DPC室
- b 活動内容
アディポメーターの運用について
NST回診日について
摂食機能療法について
- c 参加人数 6人

オ 第5回「NST委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年10月10日 三浦市立病院地下食堂
- b 活動内容
回診日の検討
摂食嚥下患者の把握について
- c 参加人数 9名

カ 第6回「NST委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 11 月 14 日 三浦市立病院地下食堂
- b 活動内容
アディポメーターの測定方法の統一
回診の問題点についての評価
- c 参加人数 9 人

キ 第 7 回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 12 月 13 日 三浦市立病院地下食堂
- b 活動内容
アディポメーターの運用について
N S T 回診について
栄養剤アボット・エネーボについて
摂食機能療法について
- c 参加人数 6 人

ク 第 8 回「N S T 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 2 月 13 日 三浦市立病院地下食堂
- b 活動内容
アディポメーターについて
摂食機能療法実施者の確認
各セクションの問題点
- c 参加人数 6 人

ケ 第 9 回「N S T 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 3 月 13 日 三浦市立病院地下食堂
- b 活動内容
摂食機能療法の運用について
ハイネイゲル・リハデイズの製品説明会
アディポメーター使用促進
摂食機能療法の算定について
回診について
- c 参加人数 8 人

② 研修

ア 第1回「NST研修会」

- a 開催日時及び場所
平成29年6月26日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ 「アディポメーターの使用方法」
講師 アボットジャパン 平井 千春
- c 参加人数 20名

イ 第2回「NST研修会」

- a 開催日時及び場所
平成29年6月29日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ 「アディポメーターの使用方法」
講師 アボットジャパン 平井 千春
- c 参加人数 21名

6 三浦市立病院CS向上委員会



委員長 五味 潤 一三（診療支援部長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

Customer Satisfaction つまり、顧客満足を追求・実践することを目的として設置されている。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 4 月 4 日 三浦市立病院地下 1 階 D P C 室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計についての協議
- c 参加人数 8 人

イ 第２回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 5 月 2 日 資料配布による開催
- b 活動内容
待ち時間統計についての報告
- c 参加人数 11 名

ウ 第３回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 6 月 6 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、みうら市民まつり、苦情報告についての協議及び耳鼻科中待合室についての意見交換
- c 参加人数 7 名

エ 第4回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年7月4日 資料配布による開催
- b 活動内容
待ち時間統計についての協議
- c 参加人数 11名

オ 第5回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年8月1日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計、みうら市民まつり、ハートフルマーケットについての協議
- c 参加人数 6名

カ 第6回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年9月5日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計、三浦市民健康大学ヘルスチェックキャラバン、みうら市民まつりについての協議及び健康宅配便の報告
- c 参加人数 8名

キ 第7回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年10月3日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計、みうら市民まつりについての協議
- c 参加人数 10名

ク 第8回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年11月7日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計、みうら市民まつり、ハートフルマーケットについての協議

- c 参加人数 9名

ケ 第9回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成29年12月5日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、ハートフルマーケット、院内コンサートについての協議及びみうら市民まつりの報告
- c 参加人数 7名

コ 第10回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年1月9日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計についての協議及び院内コンサート、ハートフル・マーケットの報告
- c 参加人数 9名

サ 第11回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年2月6日 資料配布による開催
- b 活動内容
待ち時間統計についての協議
- c 参加人数 11名

サ 第12回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年3月6日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
待ち時間統計、ご意見箱についての協議及びハートフルマーケットの報告
- c 参加人数 9名

② 健康宅配便、ヘルスチェックキャラバン

ア 第1回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所

平成 29 年 5 月 10 日 特別養護老人ホーム ケアホーム三浦

b 活動内容

地域医療科の取り組み、相談員の役割、看護師の視点から

c 参加人数 60 人

イ 第 2 回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 7 月 10 日 パシフィック・ホスピタル

b 活動内容

感染対策講習会「VRE を正しく理解する」

c 参加人数 79 人

ウ 第 3 回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 7 月 11 日 パシフィック・ホスピタル

b 活動内容

感染対策講習会「VRE を正しく理解する」

c 参加人数 70 人

エ 第 4 回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 9 月 12 日 南下浦市民センター

b 活動内容

感染対策講習会「感染予防について」肺炎と肺炎予防について

c 参加人数 8 名

オ 第 5 回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 9 月 15 日 特別養護老人ホーム遊楽の丘

b 活動内容

感染対策講習会「ノロウィルス、疥癬、VRE 等の感染症予防とまん延防止」

c 参加人数 26 人

カ 第 6 回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 9 月 25 日 初声市民センター

- b 活動内容
感染対策講習会「感染予防について」肺炎と肺炎予防について
- c 参加人数 6名

キ 第7回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成29年9月26日 初声市民センター
- b 活動内容
感染対策講習会「感染予防について」肺炎と肺炎予防について
- c 参加人数 13名

ク 第1回「ヘルスチェックキャラバン」

- a 開催日時及び場所
平成29年10月29日 YMCA三浦ふれあいの村
- b 活動内容
三浦市民健康大学オープンキャンパス ヘルスチェック等
- c 参加人数 34名

ケ みうら市民まつり

- a 開催日時及び場所
平成29年11月19日 潮風アリーナ
- b 活動内容
ボールプール、頸動脈エコー、ヘルスチェック、コスプレ撮影等

コ 第1回「院内コンサート」

- a 開催日時及び場所
平成29年12月9日 三浦市立病院1階玄関ロビー
- b 活動内容
三浦市出身の若手演奏家によるミニコンサート
- c 参加人数 30名

サ 第2回「院内コンサート」

- a 開催日時及び場所
平成30年1月27日 三浦市立病院1階玄関ロビー
- b 活動内容
日本舞踊及び民謡

c 参加人数 25 名

オ その他

随時活動している内容として、1 階玄関ロビーの生け花、市内小中学校児童・生徒の作品を 9 月から 3 月まで内科待合に展示している。

7 三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

地域が一体となった糖尿病の重症化及び合併症の予防等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会を設置した。

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ①糖尿病のミニマムデータセットを活用した糖尿病疾病診療体制の構築に関すること。
- ②診療所からの検体検査業務受託により得たデータに基づく当該診療所との糖尿病疾病診療に係る連携に関すること。
- ③その他地域が一体となった糖尿病疾病管理に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 4 月 18 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告
- c 参加人数 13 名

イ 第２回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 5 月 16 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告
- c 参加人数 15 名

ウ 第3回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年6月20日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、外来、病棟、リハビリテーション科、栄養課、薬剤科、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 14名

エ 第4回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年7月18日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、フットケア、外来、リハビリテーション科、栄養課、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 9名

オ 第5回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年8月15日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 13名

カ 第6回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年9月19日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告

c 参加人数 14名

キ 第7回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年10月17日 三浦市立病院2階会議室

- b 活動内容
臨床検査科、フットケア外来、外来、病棟、リハビリテーション科、薬剤科
等各部門からの報告
- c 参加人数 13 名

ク 第 8 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 11 月 21 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、フットケア外来、外来、病棟、リハビリテーション科、薬剤科、
放射線科等各部
門からの報告
- c 参加人数 14 名

ケ 第 9 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 29 年 12 月 19 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、病棟、
薬剤科、放射線科等各部門からの報告
- c 参加人数 14 名

コ 第 10 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 1 月 16 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、病棟、
薬剤科、放射線科等各部門からの報告
- c 参加人数 15 名

サ 第 11 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 30 年 2 月 20 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、リハビリテーション科等各部門からの
報告

- c 参加人数 9名

シ 第12回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成30年3月20日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、外来、フットケア外来、栄養課、病棟、薬剤科、放射線科等各部門からの報告
- c 参加人数 11名

③ その他イベント

ア 第1回「糖尿病教室」

- a 開催日時及び場所
平成29年11月30日 三浦市立病院内科眼科待合室
- b 活動内容
リハビリテーション科が担当し、「糖尿病と運動」をテーマに講演会を開催した。
- c 参加人数 約5人

イ 第2回「糖尿病教室」

- a 開催日時及び場所
平成29年12月7日 三浦市立病院内科眼科待合室
- b 活動内容
薬剤科が担当し、「糖尿病と薬」をテーマに講演会を開催した。
- c 参加人数 約5人

ウ 第3回「糖尿病教室」

- a 開催日時及び場所
平成29年12月14日 三浦市立病院内科眼科待合室
- b 活動内容
栄養課が担当し、「糖尿病と食事」をテーマに講演会を開催した。
- c 参加人数 約5人

エ 第4回「糖尿病教室」

- a 開催日時及び場所
平成29年12月21日 三浦市立病院内科眼科待合室

b 活動内容

看護部が担当し、「糖尿病と日常生活」をテーマに講演会を開催した。

c 参加人数 約5人

オ 第5回「糖尿病教室」

a 開催日時及び場所

平成29年12月28日 三浦市立病院内科眼科待合室

b 活動内容

看護部が担当し、「糖尿病とフットケア」をテーマに講演会を開催した。

c 参加人数 約5人

8 三浦市立病院薬事委員会



委員長 堀内 俊治（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

- ア 院内における医薬品の適正な管理及び運用に関すること。
- イ 医薬品の採用及び削除に関すること。
- ウ 使用医薬品の適正な使用方法（厚生労働省発行の医薬品副作用情報の伝達等）に関すること。
- エ その他薬剤業務に関すること。
以上について必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

（２）活動実績

① 委員会の開催

- ア 平成 29 年度第 1 回「薬事委員会」
 - a 開催日及び場所
平成 29 年 4 月 21 日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室
 - b 活動内容
委員の紹介
新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。
各科定数配置薬、配置数の見直しにより診療の向上及び在庫管理に資すること。
 - c 参加人数
6 名（欠席者：なし）
- イ 平成 29 年度第 2 回「薬事委員会」
 - a 開催日及び場所
平成 29 年 7 月 28 日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室
 - b 活動内容
新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。
各科及び救急カートの定数配置薬、配置数の見直しによる診療の向上及び在庫管理に資すること。

経営効果向上目的による後発品への切り替え。

c 参加人数

6名

ウ 平成 29 年度第 3 回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成 29 年 10 月 27 日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。
各科及び救急カートの定数配置薬、配置数の見直しによる診療の向上及び在庫管理に資すること。

経営効果向上目的による後発品への切り替え。

c 参加人数

（欠席者：なし）（薬学実習生 1 名含む）（欠席者：1 名）

エ 平成 29 年度第 4 回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成 30 年 1 月 26 日（金） 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

c 参加人数

6 名（欠席者：なし）

（単位：品目）

平成 29 年度採用・削除状況				
区分	内用	注射	外用	計
新規採用	7	4	0	11
削除	3	2	1	6
新規準採用	17	1	3	21
平成 30 年 3 月 31 日 採用状況				
区分	内用	注射	外用	計
採用薬品数	486(42)	339(42)	184(17)	1,009(101)
準採用薬品数	528(14)	6	183(14)	717(28)

（ ）は後発品

9 三浦市立病院情報処理委員会



委員長 木谷 勇一（診療部長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

（設置）

I C T に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院情報処理委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ア 病院業務医療情報システムの運用等に関すること。
- イ 診療録に関すること。
- ウ 画像記録に関すること。
- エ 諸記録に関すること。
- オ 疾病分類に関すること。
- カ その他診療録、院内の情報処理に関すること。

平成 26 年 5 月 15 日改正

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第 1 回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 4 月 19 日 D P C 室

b 活動内容

- ・電子カルテメンテナンス担当者について
- ・電気設備点検について
- ・ホームページ監視結果について

c 参加人数：11 名

イ 第2回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年5月17日 DPC室

b 活動内容

- ・電子カルテマスター担当者及びホームページ監視担当者について
- ・「化学療法」予約枠について
- ・ホームページ運用部会の設置について

c 参加人数：11名

ウ 第3回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年6月21日 DPC室

b 活動内容

- ・診療情報提供書の統一について
- ・電子カルテ掲示板の活用について
- ・電子カルテの閲覧について
- ・Ipadの使用について
- ・ホームページ運用部会の設置について

c 参加人数：13名

エ 第4回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年7月19日 DPC室

b 活動内容

- ・システム管理者の権限について
- ・診療情報提供書の統一について
- ・ホームページ監視結果について
- ・Ipadについて

c 参加人数：12名

オ 第5回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年8月16日 DPC室

b 活動内容

- ・情報処理委員会の要綱変更について
- ・診療情報提供書の統一について

- ・当直帯のシステム対応について
- ・ホームページ監視結果について

c 参加人数：10 名

カ 第6回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 9 月 20 日 D P C 室

b 活動内容

- ・電カルトップの不具合について
- ・I p a d について
- ・ホームページ監視結果について

c 参加人数：13 名

キ 第7回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 10 月 18 日 D P C 室

b 活動内容

- ・手術執刀医の設定について
- ・電カルトップの不具合について
- ・同日再入院について
- ・ホームページ監視結果について
- ・電カルルの保守について
- ・予約キャンセルについて

c 参加人数：9 名

ク 第8回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 29 年 11 月 15 日 D P C 室

b 活動内容

- ・結核発生届の様式について
- ・MR I 問診票について
- ・元号変更に伴うシステムの対応について
- ・ホームページ監視結果について
- ・サプライ品について
- ・救急車以外で来院した患者の受付について

c 参加人数：10 名

ケ 第9回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成29年12月20日 DPC室

b 活動内容

- ・電子カルテの権限について
- ・退院時リハビリテーションの医師の処方について
- ・救急外来対応患者の受付について
- ・全国がん登録について
- ・ホームページ監視結果について

c 参加人数：9名

コ 第10回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年1月17日 DPC室

b 活動内容

- ・骨密度検査について
- ・I p a dについて
- ・ホームページ監視結果について

c 参加人数：12名

サ 第11回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年2月21日 DPC室

b 活動内容

- ・ホームページ監視結果について
- ・電カルマスタ設定について
- ・I p a dについて

c 参加人数9名

シ 第12回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成30年3月28日 DPC室

b 活動内容

- ・ホームページ監視結果について
- ・平成30年度診療報酬改定について

c 参加人数9名

Ⅳ 経営状況

1 決算概要

(1) 経常収益比較

○事業収益に関する事項

区 分		平成29年度	平成28年度	比 較	
				増 減	増減比率
医 業 収 益	入 院 収 益	円 1,483,283,270	円 1,350,172,883	円 133,110,387	% 9.9
	外 来 収 益	620,026,322	666,619,392	△ 46,593,070	△ 7.0
	そ の 他 医 業 収 益	145,361,853	150,633,680	△ 5,271,827	△ 3.5
	他 会 計 負 担 金	176,532,000	171,361,000	5,171,000	3.0
医 業 外 収 益	受 取 利 息 配 当 金	3,921	3,734	187	5.0
	他 会 計 負 担 金	62,622,000	69,554,000	△ 6,932,000	△ 10.0
	患 者 外 給 食 収 益	6,120	0	6,120	皆増
	長 期 前 受 金 戻 入	20,419,561	22,069,287	△ 1,649,726	△ 7.5
	そ の 他 医 業 外 収 益	32,735,354	35,109,698	△ 2,374,344	△ 6.8
事 業 収 益		2,540,990,401	2,465,523,674	75,466,727	3.1

○事業費用に関する事項

区 分		平成29年度	平成28年度	比 較	
				増 減	増減比率
医 業 費 用	給 与 費	円 1,568,158,087	円 1,471,536,144	円 96,621,943	% 6.6
	材 料 費	317,841,922	279,624,771	38,217,151	13.7
	経 費	433,128,638	412,753,607	20,375,031	4.9
	減 価 償 却 費	190,169,102	183,161,314	7,007,788	3.8
	資 産 減 耗 費	4,564,592	2,448,208	2,116,384	86.4
	研 究 研 修 費	26,022,510	25,412,120	610,390	2.4
医 業 外 費 用	支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	44,999,336	47,521,451	△ 2,522,115	△ 5.3
	患 者 外 給 食 材 料 費	31,900	8,400	23,500	279.8
	貸 倒 引 当 金 繰 入 額	20,014,650	23,700,635	△ 3,685,985	△ 15.6
	雑 損 失	64,070,296	58,853,926	5,216,370	8.9
特 別 損 失		8,096,601	7,322,377	774,224	10.6
事 業 費 用		2,677,097,634	2,512,342,953	164,754,681	6.6

(2) 損益計算書

平成29年度三浦市病院事業損益計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位:円)

1	医業収益				
(1)	入院収益	1,483,283,270			
(2)	外来収益	620,026,322			
(3)	その他医業収益	145,361,853			
(4)	他会計負担金	<u>176,532,000</u>	2,425,203,445		
2	医業費用				
(1)	給与費	1,568,158,087			
(2)	材料費	317,841,922			
(3)	経費	433,128,638			
(4)	減価償却費	190,169,102			
(5)	資産減耗費	4,564,592			
(6)	研究研修費	<u>26,022,510</u>	<u>2,539,884,851</u>		
	医業損失				114,681,406
3	医業外収益				
(1)	受取利息配当金	3,921			
(2)	他会計負担金	62,622,000			
(3)	患者外給食収益	6,120			
(4)	長期前受金戻入	20,419,561			
(5)	その他医業外収益	<u>32,735,354</u>	115,786,956		
4	医業外費用				
(1)	支払利息及び企業債取扱諸費	44,999,336			
(2)	患者外給食材料費	31,900			
(3)	貸倒引当金繰入額	20,014,650			
(4)	雑損失	<u>64,070,296</u>	<u>129,116,182</u>	<u>△ 13,329,226</u>	
	経常損失				128,010,632
5	特別損失				
(1)	過年度損益修正損	<u>8,096,601</u>	<u>8,096,601</u>	<u>△ 8,096,601</u>	
	当年度純損失				136,107,233
	前年度繰越欠損金				<u>741,371,975</u>
	当年度未処理欠損金				<u><u>877,479,208</u></u>

(3) 貸借対照表

平成29年度三浦市病院事業貸借対照表

(平成30年3月31日)

(単位：円)

資 産 の 部			
1	固 定 資 産		
(1)	有 形 固 定 資 産		
	イ 土 地	34,032,902	
	ロ 建 物	1,947,659,995	
	建 物 減 価 償 却 累 計 額	<u>△659,670,335</u>	1,287,989,660
	ハ 建 物 附 属 設 備	1,709,000,153	
	建 物 附 属 設 備 減 価 償 却 累 計 額	<u>△600,366,959</u>	1,108,633,194
	ニ 構 築 物	28,538,421	
	構 築 物 減 価 償 却 累 計 額	<u>△18,267,376</u>	10,271,045
	ホ 器 械 備 品	1,316,453,535	
	器 械 備 品 減 価 償 却 累 計 額	<u>△968,074,301</u>	348,379,234
	ヘ 車 両	9,672,952	
	車 両 減 価 償 却 累 計 額	<u>△7,317,090</u>	2,355,862
	トリ ー ス 資 産	4,531,000	
	リ ー ス 資 産 減 価 償 却 累 計 額	<u>△4,403,950</u>	127,050
	有 形 固 定 資 産 合 計		2,791,788,947
(2)	無 形 固 定 資 産		
	イ 電 話 加 入 権	443,100	
	無 形 固 定 資 産 合 計		443,100
(3)	投 資 そ の 他 の 資 産		
	イ 長 期 貸 付 金	49,200,000	
	貸 倒 引 当 金	<u>△31,140,000</u>	18,060,000
	投 資 そ の 他 の 資 産 合 計		18,060,000
	固 定 資 産 合 計		2,810,292,047
2	流 動 資 産		
(1)	現 金 預 金		352,156,004
(2)	未 収 金		
	イ 医 業 未 収 金	383,677,970	
	貸 倒 引 当 金	<u>△8,539,601</u>	375,138,369
	ロ 医 業 外 未 収 金	73,849,065	
	貸 倒 引 当 金	<u>△5,285</u>	73,843,780
	ハ そ の 他 未 収 金		148,835,000
	未 収 金 合 計		597,817,149
(3)	貯 蔵 品		10,212,383
(4)	前 払 費 用		977,320
(5)	そ の 他 流 動 資 産		1,742,700
	流 動 資 産 合 計		<u>962,905,556</u>
	資 産 合 計		<u><u>3,773,197,603</u></u>

(単位：円)

		負債の部	
3	固定負債		
(1)	企業債		
	イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	<u>2,217,465,463</u>	2,217,465,463
	企業債合計		
(2)	引当金		
	イ 退職給付引当金	<u>111,134,000</u>	111,134,000
	引当金合計		
	固定負債合計		2,328,599,463
4	流動負債		
(1)	企業債		
	イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	<u>260,867,287</u>	260,867,287
	企業債合計		
(2)	未払金		
	イ 医業未払金	141,584,669	
	ロ 医業外未払金	1,970,420	
	ハ その他未払金	<u>30,725,482</u>	
	未払金合計		174,280,571
(3)	前受金		4,272,292
(4)	引当金		
	イ 賞与引当金	76,277,000	
	ロ 法定福利費引当金	<u>13,855,000</u>	
	引当金合計		90,132,000
(5)	預り金		<u>16,152,078</u>
	流動負債合計		545,704,228
5	繰延収益		
(1)	長期前受金		
	イ 受贈財産評価額	2,077,452	
	ロ 寄附金	30,104,856	
	ハ 国庫補助金	175,699,093	
	ニ 県補助金	25,736,191	
	ホ 市補助金	<u>114,027,457</u>	
	長期前受金合計		347,645,049
(2)	収益化累計額	<u>△218,101,124</u>	
	繰延収益合計		129,543,925
	負債合計		<u>3,003,847,616</u>
		資本の部	
6	資本金		
(1)	固有資本金		67,852,672
(2)	繰入資本金	<u>1,578,976,523</u>	
	資本金合計		1,646,829,195
7	剰余金		
(1)	欠損金		
	イ 当年度未処理欠損金	<u>877,479,208</u>	
	欠損金合計		877,479,208
	剰余金合計		<u>△877,479,208</u>
	資本合計		<u>769,349,987</u>
	負債資本合計		<u>3,773,197,603</u>

2 三浦市立病院改革プラン及び実施状況

プランの名称	三浦市立病院改革プラン				
策定日	平成 29年 10月				
対象期間	平成 29年度 ～ 平成 32年度				
医療機能等に係る目標	H28年度 実績値	H29年度 目標値	H30年度 目標値	H31年度 目標値	H32年度 目標値
救急患者数(人)	4,270	4,380	4,410	4,440	4,470
転院受入件数(件)	114	120	132	132	132
訪問診療件数(件)	1,197	1,200	1,200	1,200	1,200
院内リハビリテーション件数(件)	26,372	27,000	30,327	30,327	30,327
訪問リハビリテーション件数(件)	1,565	1,650	2,475	3,300	3,300
退院支援実施患者数* ¹ (人)	750	832	847	862	877
介護連携指導実施患者数* ² (人)	1,280	1,410	1,425	1,440	1,455
退院後訪問* ³ (件)	0	12	24	36	36
注 表中の人数及び件数は、年間延べ数である。 *¹ 退院支援とは、病棟に専任で配置されている退院支援及び地域連携業務に専従する職員が次に掲げる支援を行うことをいいます。当該支援を行った場合、退院時に退院支援加算として算定できます。 (1) 入院後3日以内に患者の状況を把握して退院困難な要因を有している患者を抽出する。 (2) 原則として入院後7日以内に当該患者及び家族と病状や退院後の生活も含めた話し合いを行うとともに、関係職員と連携し、同日以内に退院支援計画の作成に着手する。 (3) 退院支援計画について、関係職員とのカンファレンスを経て、当該患者及び家族に文書で当該患者及び家族に文書で交付を行い、説明する。 *² 介護連携指導とは、入院中の患者に対して、医師又は医師の指示を受けた看護師、社会福祉士等が介護支援専門員と共同して、患者の心身の状況等を踏まえて導入が望ましいと考えられる介護サービス、退院後に利用可能な介護サービス等の情報提供を行うことをいいます。当該指導を行った場合、入院中2回に限り、介護連携指導料として算定できます。 *³ 退院直後の不安定な時期に集中して看護師が在宅等に外向くことで安定した在宅療養への移行及び継続を促進することができます。訪問を行った場合、退院1か月以内に5回まで退院後訪問指導料として算定できます。					
経営指標に関する数値目標	H28年度 実績値	H29年度 目標値	H30年度 目標値	H31年度 目標値	H32年度 目標値
経常損益(千円)	△39,496	577	31,303	63,621	72,400
経常収支比率(%)	98.4	100	101.1	102.2	102.6
医業収支比率(%)	97.6	99.4	102.3	103.8	104.4
職員給与費対医業収益比率(%)	52.7	51.8	50.7	50.7	50.9
1日当たり入院患者数(人)	111.0	114.0	128.0	128.0	128.0
入院診療単価(円)	33,321	36,779	33,750	33,750	33,750
病床利用率(%)	81.6	83.8	94.1	94.1	94.1
常勤医師数(人)	15	17	17	17	17

三浦市立病院改革プランー平成29年度～平成32年度ー目標達成状況【平成29年度】

(1) 医療機能等に係る目標

目標	H29数値目標	H29実績	達成状況	備考
a 救急患者数	4,380人	4,067人	未達成	
b 転院受入件数	120件	136件	達成	
c 訪問診療件数	1,200件	1,259件	達成	
d 院内リハビリテーション件数	27,000件	27,954件	達成	
e 訪問リハビリテーション件数	1,650件	1,640件	未達成	
f 退院支援実施患者数	832人	1,368人	達成	平成30年4月に入院早期より退院困難な要因を有する患者を抽出し、入退院支援を実施することを評価する入退院支援加算に改正
g 介護連携指導実施患者数	1,410人	1,484人	達成	平成30年4月に障害福祉サービスの利用に関する指導を含めた介護支援等連携指導料に改正
h 退院後訪問	12件	5件	未達成	

(2) 経営指標に関する数値目標

目標	H29数値目標	H29実績	達成状況	備考
a 経常損益	577千円	△128,011千円	未達成	
b 経常収支比率	100.0%	95.2%	未達成	
c 医業収支比率	99.4%	94.7%	未達成	
d 職員給与費対医業収益比率	51.8%	54.4%	未達成	
e 1日当たり入院患者数	114.0人	113.2人	未達成	退院患者数を含む。
f 入院診療単価	36,779円	35,901円	未達成	退院患者数を含む。
g 病床利用率	83.8%	83.2%	未達成	退院患者数を含む。
h 常勤医師数	17人	15人	未達成	

3 財務分析

※数値は決算統計から

単位(千円)

区分	年度 ↑ = 改善 ↓ = 悪化	H28 6 個 8 個	H29 7 個	算式 H26から (会計基準見直し後)	説明
(1) 固定資産構成比率	(%) 前年比 ↑	75.4 ↑	74.6 ↑	変 更 な し	総資産中の固定資産(企業内に長期的に滞留させ短期間に回収されない資産)が、どのくらいの割合かを 示す指標で、数値が高いほど、現金等の流動資産が少 ないことを示す。
(2) 固定比率 (100以下が理想)	(%) 前年比 ↑	325.3 ↑	312.6 ↑	固 定 資 産 資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 繰延収益 × 100	固定資産は、自己資本(自己資本金 + 剰余金)から調 達されるべきするという企業財政上の原則から、100% 以下が理想である。 固定資産に投資した資金が返済義務のない自己資本 でどれだけまかなわれているかを見るための指標。
(3) 固定資産 対 長期資本比率	(%) 前年比 ↑	86.8 ↑	87.1 ↓	固 定 資 産 資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 固定負債 + 繰延収益 × 100	固定資産がどのような財源で構成されているかを判 断するための指標であり、数値は低いほど良い。この 数値は100%以下であることが要求され、100%を超える 場合は、不良債務が発生していることを意味する。 (この場合不良債務は健全化法上の不良債務)
(4) 流動比率	(%) 前年比 ↑	187.3 ↑	176.6 ↓	変 更 な し	数値が100%以上であると、短期的な支払能力が支払 義務をまかなって余りあるということで、支払余力が あると推測することができる。
(5) 当座比率 (厳性試験比率)	(%) 前年比 ↑	184.8 ↑	174.1 ↓	現 金 預 金 + (未収金 - 貸倒引当金) 流 動 負 債 × 100	短期債務に対応すべき現金預金及び容易に現金化し うる未収金が十分であるかを示す。 当座比率は分子に棚卸資産等のすぐに換金できない 資産を含めない点で流動比率とは異なり、流動比率より 厳密な短期的な支払能力を示す指標となる。数値は 100%以上が望ましい。
(6) 自己資本構成比率	(%) 前年比 ↑	23.2 ↑	23.8 ↑	資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 繰延収益 負 債 資 本 合 計 × 100	総資本(負債資本合計)と自己資本(自己資本金・剰 余金)の関係を示す。 (1)固定負債構成比率が小であり、(4)自己資本構成 比率が大であるほど、経営の安定度は大きいと言え る。 自己資本比率が高い(総資本に占める自己資本の割 合が多い)ほどその企業は返済不要の資本を元手に事 業を行っているため経営が安定します。
(7) 自己資本回転率	(%) 前年比 ↓	2.6 ↓	2.7 ↑	医 業 収 益 (期首自己資本 + 期末自己資本) × 1/2	回転率が高ければ、収益の源である医業収益が、投 下された自己資本と比較して大きく、自己資本が効率 良く使われていることを示します。 ただし、急成長している場合、短期借入金などに 頼って売上が急上昇し回転率が上昇したり、業績が悪 化している場合、自己資本の減少と売上の減少が同時 に起こり回転率が悪化しない場合もあるので注意が必 要。その他の指標と組み合わせて見る必要がある。
(8) 経常収支比率	(%) 前年比 ↓	98.4 ↓	95.2 ↓	変 更 な し	経常費用に対する経常収益の割合で、数値は高いほ ど良い。
(9) 医業収支比率	(%) 前年比 ↓	97.6 ↓	94.7 ↓	変 更 な し	医業費用に対する医業収益の割合で、数値は高いほ ど良い。
(10) 平均給与	(千円) 前年比 ↓	6,738 ↓	6,778 ↓	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。
(11) 労働生産性	(千円) 前年比 ↓	17,351 ↓	17,866 ↑	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は高いほど良い。
(12) 労働分配率	(%) 前年比 ↓	38.8 ↓	37.9 ↑	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。
(13) 流動資産回転率	(回) 前年比 ↓	2.4 ↓	2.6 ↑	変 更 な し	流動資産回転率が高ければ高いほど、流動資産が効 率的に売上高に貢献していることになります。この回 転率が低くなる要因としては、滞留在庫や滞留債権の 増加などが考えられます。
(14) 職員給与費比率	(%) 前年比 ↓	52.7 ↓	54.4 ↓	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。

V 各種統計資料

1 入院患者数実績

(単位：人)

科目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期	合計
内 科	H29	1,617	1,709	1,396	1,788	1,738	1,911	10,159	1,933	1,681	1,761	1,873	1,818	2,004	11,070	21,229
	H28	1,601	1,814	1,651	1,711	1,651	1,504	9,932	1,619	1,607	1,730	1,803	1,624	1,771	10,054	19,986
	比較	16	△ 105	△ 255	77	87	407	227	314	174	31	70	194	233	1,016	1,243
神 経 内 科	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	H29	503	445	476	555	714	505	3,198	314	601	658	799	580	573	3,525	6,723
	H28	560	532	473	640	442	436	3,083	501	578	489	624	504	554	3,250	6,333
	比較	△ 57	△ 87	3	△ 85	272	69	115	△ 187	23	169	175	76	19	275	390
整 形 外 科	H29	770	889	858	666	747	793	4,723	682	876	840	852	1,097	1,180	5,527	10,250
	H28	1,051	1,034	1,051	710	644	863	5,353	771	803	1,108	1,243	1,151	1,064	6,140	11,493
	比較	△ 281	△ 145	△ 193	△ 44	103	△ 70	△ 630	△ 89	73	△ 268	△ 391	△ 54	116	△ 613	△ 1,243
産 婦 人 科	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 科	H29	5	15	13	20	13	14	80	12	15	12	8	12	13	72	152
	H28	9	5	9	12	0	4	39	14	6	10	16	11	8	65	104
	比較	△ 4	10	4	8	13	10	41	△ 2	9	2	△ 8	1	5	7	48
耳 鼻 咽 喉 科	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮 膚 科	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	H29	2,895	3,058	2,743	3,029	3,212	3,223	18,160	2,941	3,173	3,271	3,532	3,507	3,770	20,194	38,354
	H28	3,221	3,385	3,184	3,073	2,737	2,807	18,407	2,905	2,894	3,337	3,686	3,290	3,397	19,509	37,916
	比較	△ 326	△ 327	△ 441	△ 44	475	416	△ 247	36	279	△ 66	△ 154	217	373	685	438
累 計	H29	2,895	5,953	8,696	11,725	14,937	18,160	21,101	24,274	27,545	31,077	34,584	38,354	41,316	43,854	46,749
	H28	3,221	6,606	9,790	12,863	15,600	18,407	21,312	24,206	27,543	31,229	34,519	37,916	41,316	44,107	47,523
	比較	△ 326	△ 653	△ 1,094	△ 1,138	△ 663	△ 247	△ 211	68	2	△ 152	65	438	0	2,217	2,774
合 (+ 退 院 患 者 数)	退院	202	236	256	254	279	277	1,504	265	281	248	204	219	241	1,458	2,962
	H29	3,097	3,294	2,999	3,283	3,491	3,500	10,664	3,206	3,454	3,519	3,736	3,726	4,011	21,652	41,316
診 療 日 数	H29	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	28	31	182	365
	H28	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	28	31	182	365
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 日 者 平 均 数	H29	97	99	91	98	104	107	99	95	106	106	114	125	122	111	105
	H28	107	109	106	99	88	94	101	94	96	108	119	118	110	107	104
	比較	△ 10	△ 10	△ 15	△ 1	16	13	△ 2	1	10	△ 2	△ 5	7	12	4	1
新 生 児	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平 均 在 院 数	新入院	185	241	245	278	266	274	1,489	251	303	228	240	220	240	1,482	2,971
	退院	202	236	256	254	279	277	1,504	265	281	248	204	219	241	1,458	2,962
	H29	16.2	13.7	11.9	12.8	12.8	12.4	13.1	12.4	11.8	14.9	16.9	17.7	17.1	14.0	14.0
短 期 滞 在 患 者 数	H28	16.9	15.7	17.5	16.3	14.3	15.4	16.0	14.2	13.9	14.7	17.7	15.8	16.0	15.7	15.7
	比較	△ 0.7	△ 2.0	△ 5.7	△ 3.6	△ 1.5	△ 2.9	△ 2.9	△ 1.8	△ 2.1	0.2	△ 0.9	1.9	1.1	△ 1.7	△ 1.7
	H29	29	29	39	57	42	33	229	43	46	36	24	42	39	230	459

2 外来患者数実績

(単位：人)

科目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期	合計
内 科	H29	2,438	2,555	2,524	2,607	2,662	2,487	15,273	2,603	2,528	2,667	2,934	2,633	2,700	16,065	31,338
	H28	2,640	2,670	2,549	2,678	2,770	2,718	16,025	2,663	2,690	2,708	2,877	2,595	2,720	16,253	32,278
	比較	△ 202	△ 115	△ 25	△ 71	△ 108	△ 231	△ 752	△ 60	△ 162	△ 41	57	38	△ 20	△ 188	△ 940
神 経 内 科	H29	145	138	157	124	140	127	831	133	136	115	133	114	147	778	1,609
	H28	148	143	188	143	153	145	920	155	138	146	151	118	144	852	1,772
	比較	△ 3	△ 5	△ 31	△ 19	△ 13	△ 18	△ 89	△ 22	△ 2	△ 31	△ 18	△ 4	3	△ 74	△ 163
外 科	H29	639	718	739	781	889	712	4,478	677	741	690	652	647	712	4,119	8,597
	H28	723	705	773	690	830	821	4,542	680	753	705	669	714	705	4,226	8,768
	比較	△ 84	13	△ 34	91	59	△ 109	△ 64	△ 3	△ 12	△ 15	△ 17	△ 67	7	△ 107	△ 171
整 形 外 科	H29	2,113	2,139	2,178	2,095	2,126	1,943	12,594	2,047	2,059	1,962	1,821	1,725	1,913	11,527	24,121
	H28	2,198	2,205	2,352	2,325	2,336	2,263	13,679	2,196	2,133	2,040	2,062	1,931	2,262	12,624	26,303
	比較	△ 85	△ 66	△ 174	△ 230	△ 210	△ 320	△ 1,085	△ 149	△ 74	△ 78	△ 241	△ 206	△ 349	△ 1,097	△ 2,182
産 婦 人 科	H29	98	125	143	123	151	111	751	184	120	148	113	129	125	819	1,570
	H28	97	143	156	118	126	105	745	153	145	150	128	139	133	848	1,593
	比較	1	△ 18	△ 13	5	25	6	6	31	△ 25	△ 2	△ 15	△ 10	△ 8	△ 29	△ 23
小 児 科	H29	148	72	70	118	200	175	783	200	149	209	265	221	161	1,205	1,988
	H28	147	182	221	271	214	206	1,241	253	231	251	241	210	204	1,390	2,631
	比較	1	△ 110	△ 151	△ 153	△ 14	△ 31	△ 458	△ 53	△ 82	△ 42	24	11	△ 43	△ 185	△ 643
眼 科	H29	500	502	542	491	550	419	3,013	383	548	528	408	477	449	2,793	5,806
	H28	486	502	575	466	495	397	2,921	522	484	489	393	418	454	2,760	5,681
	比較	14	0	△ 33	25	64	22	92	△ 139	64	39	15	59	△ 5	33	125
耳 鼻 咽 喉 科	H29	232	269	250	208	218	236	1,413	234	242	229	272	266	266	1,509	2,922
	H28	254	246	288	223	253	247	1,511	310	261	241	247	270	335	1,664	3,175
	比較	△ 22	23	△ 38	△ 15	△ 35	△ 11	△ 98	△ 76	△ 19	△ 12	25	△ 4	△ 69	△ 155	△ 253
麻 酔 科	H29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	H29	163	149	172	153	153	169	959	162	173	151	143	129	151	899	1,858
	H28	156	146	163	156	141	150	912	132	147	132	150	135	165	861	1,773
	比較	7	3	9	△ 3	12	19	47	20	26	19	△ 7	△ 6	△ 14	38	85
泌 尿 器 科	H29	198	249	246	246	271	222	1,432	246	276	247	224	213	263	1,469	2,901
	H28	192	187	229	199	202	207	1,216	250	209	248	206	183	253	1,349	2,565
	比較	6	62	17	47	69	15	216	△ 4	67	△ 1	18	30	10	120	336
皮 膚 科	H29	219	255	301	261	260	244	1,540	239	184	224	168	186	221	1,222	2,762
	H28	215	211	213	249	267	215	1,370	221	214	181	209	157	182	1,164	2,534
	比較	4	44	88	12	△ 7	29	170	18	△ 30	43	△ 41	29	39	58	228
合 計	H29	6,893	7,171	7,322	7,207	7,629	6,845	43,067	7,098	7,166	7,170	7,133	6,740	7,108	42,405	85,472
	H28	7,256	7,340	7,707	7,518	7,787	7,474	45,082	7,535	7,405	7,291	7,333	6,870	7,557	43,991	89,073
	比較	△ 363	△ 169	△ 385	△ 311	△ 158	△ 629	△ 2,015	△ 437	△ 249	△ 121	△ 200	△ 130	△ 449	△ 1,586	△ 3,601
累 計	H29	6,893	14,064	21,386	28,593	36,222	43,067		50,165	57,321	64,491	71,624	78,364	85,472		
	H28	7,256	14,596	22,303	29,821	37,608	45,082		52,617	60,022	67,313	74,646	81,516	89,073		
	比較	△ 363	△ 532	△ 917	△ 1,228	△ 1,386	△ 2,015		△ 2,452	△ 2,701	△ 2,822	△ 3,022	△ 3,152	△ 3,601		
平 日	H29	6,795	6,979	7,225	7,011	7,482	6,708	42,200	6,985	7,022	6,960	6,776	6,564	7,003	41,310	83,510
診 療 日 数	H29	20	20	22	20	22	20	124	21	20	20	19	19	21	120	244
	H28	20	19	22	20	22	20	123	20	20	19	19	20	22	120	243
平 日 日 数	H29	20	20	22	20	22	20	124	21	20	20	19	19	21	120	244
1 日 平 均 患 者 数	H29	345	359	333	360	347	342	347	338	358	359	375	355	338	353	350
	H28	363	386	350	376	354	374	367	377	370	384	386	344	344	367	367
	比較	△ 18	△ 27	△ 17	△ 16	△ 7	△ 32	△ 20	△ 39	△ 12	△ 25	△ 11	11	△ 6	△ 14	△ 17
1 日 平 均 患 者 数 ()	H29	340	349	328	351	340	335	340	333	351	348	357	345	333	344	342

3 救急患者数実績

(1) 集計期間 平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

(2) 区分 休日：日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日、
12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日までの日
平日：休日以外の日

(3) 男女別 (単位：人)

区分	男	女	合 計
休日	734	759	1,493
平日	1,227	1,318	2,545
合計	1,961	2,077	4,038

(4) 年齢別 (単位：人)

区分	0～9	10～19	20～59	60～	合 計
休日	31	87	604	771	1,493
平日	37	105	756	1,647	2,545
合計	68	192	1,360	2,418	4,038

(5) 地域別 (単位：人)

区分	三 浦 市	横 須 賀 市	県 内 (除： 三浦・横須賀)	県 外	合 計
休日	1,285	54	0	154	1,493
平日	2,217	131	0	197	2,545
合計	3,502	185	0	351	4,038

(6) 科別患者数 (単位：人)

区分	内科	外科	整形 外科	脳神経 外科	産婦 人科	小児科	眼科	耳鼻咽 喉科	泌尿 器科	皮膚科	その他	合 計
休日	1,076	216	178	1	0	2	1	0	10	8	1	1,493
平日	1,732	398	371	4	0	1	1	0	24	6	8	2,545
合計	2,808	614	549	5	0	3	2	0	34	14	9	4,038

(7) 来院手段別患者数

(単位：人)

区分	救 急 車	パ ト カ ー	そ の 他	合 計
休日	220	0	1,273	1,493
平日	914	0	1,631	2,545
合計	1,134	0	2,904	4,038

(8) 時間帯別患者数

(単位：人)

区分	17～18	18～22	22～24	0～6	6～8	8～8：30	8：30～9	9～17	合 計
休日	78	243	61	78	63	56	64	850	1,493
平日	236	734	163	195	130	58	59	970	2,545
合計	314	977	224	273	193	114	123	1,820	4,038

(9) 処置状況

(単位：人)

区分	外 来	入 院	他医療機関紹介	そ の 他	合 計
休日	1,331	147	4	11	1,493
平日	1,853	590	11	91	2,545
合計	3,184	737	15	102	4,038

VI スタッフ一覧

平成 30 年 3 月 31 日現在

総 病 院 長 小 澤 幸 弘

(薬 剤 科)

【診 療 部】

診 療 部 長 木 谷 勇 一

科 長 今 村 里 絵

主 任 薬 剤 師 福 本 哲 也

薬 剤 師 加 藤 慈

薬 剤 師 長 谷 川 澄 子

薬 剤 師 太 田 健 介

薬 剤 師 高 梨 生 彬

(内 科)

医 長 齊 藤 真

担 当 医 長 兒 玉 康 史

担 当 医 長 兒 玉 末

担 当 医 長 堀 内 俊 治

担 当 医 長 森 琢 磨

担 当 医 長 林 路 子

(リハビリテーション科)

技 師 長 清 水 隆 人

理 学 療 法 士 藤 田 千 穂

作 業 療 法 士 後 藤 健 太 郎

理 学 療 法 士 重 枝 利 佳

理 学 療 法 士 藤 井 伸 行

理 学 療 法 士 鈴 木 和 美

理 学 療 法 士 池 田 正 孝

理 学 療 法 士 浅 田 浩 宜

作 業 療 法 士 竹 内 晃 雄

理 学 療 法 士 吉 田 朱 里

理 学 療 法 士 林 賢 治

理 学 療 法 士 押 越 里 枝

理 学 療 法 士 斗 賀 佳 典

(外 科)

医 長 和 田 博 雄

医 師 渥 美 陽 介

(整 形 外 科)

科 部 長 内 川 健

医 長 石 田 良 太

(産 婦 人 科)

科 部 長 大 庭 信 彰

(小 児 科)

科 部 長 五 味 渕 一 三

(眼 科)

医 師 望 月 至

(放 射 線 科)

主 任 技 師 加 藤 静

診 療 放 射 線 技 師 月 松 望 由 紀

診 療 放 射 線 技 師 加 藤 大 己

診 療 放 射 線 技 師 齋 藤 正 樹

【診 療 支 援 部】

診 療 支 援 部 長 五 味 渕 一 三

	(臨 床 検 査 科)	看 護 師	大 林 嬢 子
技 師 長	鈴 木 正 芳	看 護 師	鈴 木 安 代
主 任 技 師	島 崎 時 朗	看 護 師	長 島 好 美
臨 床 検 査 技 師	渡 邊 真 由	看 護 師	水 野 美 樹
臨 床 検 査 技 師	足 立 直 彦	看 護 師	山 崎 渚
	(地 域 医 療 科)	看 護 師	藤 平 麻 衣 子
科 長	嘉 山 静 子	看 護 師	一 山 春 花
担 当 医 長	兒 玉 末	看 護 師	鈴 木 未 来
担 当 医 長	林 路 子	看 護 師	鈴 木 裕 子
担 当 看 護 師 長	中 川 恵	看 護 師	関 本 藍
主 任 看 護 師	石 川 智 子	看 護 師	飯 島 彩 綾
看 護 師	益 島 美 帆	看 護 師	鳴 海 芽 衣
主 任 社 会 福 祉 士	安 藤 麻 由 美	看 護 師	飯 島 悠 介
社 会 福 祉 士	井 戸 友 美	看 護 師	大 久 保 博 子
	(医 療 安 全 管 理 室)	看 護 師	小 杉 将
室 長	大 庭 信 彰		田 村 美 樹
主 幹	今 村 里 絵	(3 階 病 棟)	梶 間 琴 乃
主 幹	鈴 木 正 芳	看 護 師 長	館 林 美 加 子
次 幹	矢 尾 板 昌 克	主 任 看 護 師	長 田 泰 代
担 当 看 護 師 長	園 田 恵 美 子	主 任 看 護 師	長 谷 川 嘉 寛
担 当 看 護 師 長	杉 崎 絵 美	看 護 師	君 島 直 美
主 任 技 師	島 崎 時 朗	看 護 師	萩 原 京 子
薬 剤 師	長 谷 川 澄 子	看 護 師	竹 内 馨
作 業 療 法 士	竹 内 晃 雄	看 護 師	瀬 古 澤 和 子
	【看 護 部】	看 護 師	高 橋 さ つ き
看 護 部 長	嘉 山 静 子	看 護 師	崎 山 美 緒
主 幹	中 條 郁 代	看 護 師	石 塚 仁
	(2 階 病 棟)	看 護 師	高 橋 宏 美
看 護 師 長	山 本 浩 文	看 護 師	松 崎 彩
主 任 看 護 師	下 里 未 来	看 護 師	伊 東 千 瑞 子
主 任 看 護 師	阿 部 久 美 子	看 護 師	伊 藤 志 織
看 護 師	鈴 木 雪 江	看 護 師	本 沢 智 子
			福 島 生 久

看 護 師 荏 原 千 織
 看 護 師 氏 家 弘 之
 看 護 師 渡 辺 真 琴
 看 護 師 濱 内 あゆみ

(4 階 病 棟)

看 護 師 長 原 田 左 和 子
 主 任 看 護 師 中 尾 裕 子
 看 護 師 森 和 代
 看 護 師 宮 村 純 子
 看 護 師 大 井 雪 子
 看 護 師 脇 本 共 子
 看 護 師 原 か お り
 看 護 師 石 渡 綾 子
 看 護 師 岡 野 恵 美
 看 護 師 蛭 田 千 香 子
 看 護 師 渡 辺 俊 孝
 看 護 師 中 園 未 希
 看 護 師 木 村 愛
 看 護 師 神 田 尚 代

(手 術 室)

看 護 師 長 渡 辺 みゆき
 看 護 師 松 井 紀 子
 看 護 師 三 浦 朋 夏

(外 来)

看 護 師 長 市 川 夏 実
 看 護 師 長 中 川 恵
 主 任 看 護 師 山 崎 静 枝
 主 任 看 護 師 宮 越 郁 子
 主 任 看 護 師 石 川 智 子
 看 護 師 上 田 みどり
 看 護 師 大 竹 民 子
 看 護 師 岸 田 美 智 子

看 護 師 高 杉 有 希 子
 看 護 師 上 田 峰 子
 看 護 師 田 中 絵 利 香
 看 護 師 四 竈 三 佳
 看 護 師 立 川 弥 主 子
 看 護 師 田 中 朋 美
 看 護 師 益 島 美 帆

(看 護 教 育 室)

看 護 師 長 鈴 木 三 恵 子
 看 護 師 長 園 田 恵 美 子
 看 護 師 長 杉 崎 絵 美

【事 務 局】

事 務 局 長 佐 藤 安 志

(総 務 課)

課 長 矢 尾 板 昌 克
 主 査 金 枝 晃 芳
 主 任 南 雄 大
 主 事 齋 藤 俊

(医 事 課)

課 長 石 塚 真 司
 主 査 梅 木 麗 香
 主 事 三 堀 美 香

(栄 養 課)

課 長 矢 尾 板 昌 克
 主 任 栄 養 士 嘉 山 有 太
 管 理 栄 養 士 深 瀬 理 子

VII 編集後記

振り返りますと、平成 29 年度も当院にとって激動の 1 年であったと感じています。1 日当たり約 350 人の外来患者さん、約 105 人の入院患者さんに安全で質の高い医療を提供する日々の努力のほか、三浦市立病院運営懇話会の開催、三浦市民健康大学オープンキャンパス開催など、“「三浦ならではの」地域医療の確立”のための新たな取組を職員が一丸となって進めて参りました。

「本年報の拙い編集作業の経験を活かし、より良い年報の作成に傾注すること」をお約束いたしますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ですが、乱筆、乱文、乱調をお詫び申し上げ、編集後記といたします。

三浦市立病院年報委員会

委 員 長	佐 藤 安 志 (事 務 局 長)
副 委 員 長	嘉 山 静 子 (看 護 部)
委 員	長 谷 川 澄 子 (薬 剤 科)
	藤 井 伸 行 (リハビリテーション科)
	加 藤 大 己 (放 射 線 科)
	足 立 直 彦 (臨 床 検 査 科)
	矢 尾 板 昌 克 (総 務 課)
	南 雄 大 (総 務 課)
	石 塚 真 司 (医 事 課)

三浦市立病院年報 第 30 号

発 行 日	2019 年 7 月
編 集 発 行	〒238－0222 神奈川県三浦市岬陽町 4 番 33 号 三浦市立病院年報委員会
電 話	046－882－2111
F A X	046－881－7527
発 行 責 任 者	事務局長 佐藤 安志